

道常遺跡Ⅲ

周防畠遺跡群
道常遺跡Ⅲ

長野県佐久市長土呂 道常遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2018

佐久市教育委員会

佐久市教育委員会

周防畠遺跡群
道常遺跡 III

長野県佐久市長土呂 道常遺跡III発掘調査報告書

2018

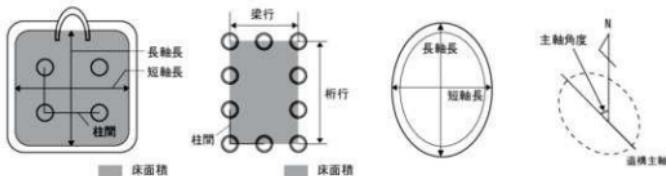
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は株式会社 SKY によるサービス付高齢者向け住宅建設に伴う周防畠遺跡群道常遺跡IIIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社 SKY
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 周防畠遺跡群 道常遺跡III (NSDJ III)
佐久市長土呂字道常 1248-1 外
- 5 調査期間及び面積 期間: 平成 29 年 7 月 21 日～平成 29 年 10 月 20 日
面積: 1,352 m²
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。陶磁器類については(財)長野県埋蔵文化財センターの市川隆之氏にご教示いただいた。
- 8 本調査において出土した遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H - 壁穴住居址 Ta - 壁穴状遺構 F - 挖立柱建物址 D - 土坑 M - 溝址 P - ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下の値である。



- 4 スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺構図



遺物図



- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺 1/4 で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 ピット一覧表及び遺物観察表における()は推定値を、()は残存値を示す。

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 遺跡周辺の地理的環境	2
第4節 遺跡周辺の歴史的環境	2
第5節 発掘調査の方法	4
第6節 基本層序	4
第7節 遺構・遺物の概要	4
第Ⅱ章 遺構と遺物	7
第1節 壑穴住居址	7
第2節 壑穴状遺構	17
第3節 挖立柱建物址	22
第4節 土坑	27
第5節 溝址	48
第6節 ピット	49
第Ⅲ章 総括	62

挿図目次

第1図 通常遺跡Ⅲ位置図	1
第2図 通常遺跡Ⅲ周辺遺跡分布図	3
第3図 グリッド設定図	4
第4図 基本層序模式図	4
第5図 調査区全体図	5
第6図 H1号・H2号住居址遺構図	7
第7図 H3号・H4号住居址遺構図 遺物実測図	8
第8図 H5号住居址遺構図	9
第9図 H6号住居址遺物実測図	10
第10図 H9号・H11号・H18号住居址遺構図・遺物 実測図	11
第11図 H10号住居址遺構図・遺物実測図	12
第12図 H12号住居址遺構図・遺物実測図	13
第13図 H13号住居址遺構図・遺物実測図	14
第14図 H14号住居址遺構図・遺物実測図	15
第15図 H15号住居址遺構図・遺物実測図	15
第16図 H16号住居址遺構図	16
第17図 H17号住居址遺構図	16
第18図 Ta1号壙穴状遺構遺構図・遺物実測図	17
第19図 Ta2号壙穴状遺構遺構図・遺物実測図	18
第20図 Ta3号壙穴状遺構遺構図	19
第21図 Ta3号壙穴状遺構遺構図2・遺物実測図	20
第22図 Ta4号壙穴状遺構遺構図	21
第23図 Ta5号壙穴状遺構遺構図	21
第24図 F1号掘立柱建物址遺構図	23
第25図 F2号掘立柱建物址遺構図	24
第26図 F3号掘立柱建物址遺構図	25
第27図 F4号掘立柱建物址遺構図	26
第28図 F5号掘立柱建物址遺構図	26
第29図 F6号掘立柱建物址遺構図	27
第30図 D1・D2・D3・D4・D5・D6・D7号土坑遺構図	28
第31図 D8・D9号土坑遺構図	29
第32図 D10・D11・D12・D13・D14・D15号土坑遺構図	30
第33図 D16・D17・D18・D19号土坑遺構図	31
第34図 D20・D21・D22・D23・D24・D25・D26号土坑遺構図	32
第35図 D27・D28・D29・D34・D35・D40号土坑遺構図	34
第36図 D30・D31・D32・D33・D38・D39・D50・D51号土坑 遺構図	35
第37図 D36・D37・D61・D62・D63号土坑遺構図	36
第38図 D41・D42・D43・D44・D46・D47・D48・D49・D52号 土坑遺構図	37
第39図 D45号土坑遺構図・遺物実測図	38
第40図 D55・D54・D67号土坑遺構図・遺物実測図	39
第41図 D55・D56・D57・D58・D59号土坑遺構図・遺物実測図	40
第42図 D60・D64・D65・D66・D68・D69号土坑遺構図	41
第43図 D71・D72・D73・D74・D75号土坑遺構図・遺物実測図	43
第44図 D76・D77・D78・D79・D80・D81・D82・D83・D84号 土坑遺構図・遺物実測図	44
第45図 D85・D86・D87・D88・D89号土坑遺構図	46
第46図 D90・D91・D92・D93・D96・D97・D98号土坑遺構図	47
第47図 M1・M2・M3・M4号溝址遺構図	48
第48図 調査区分割図1	54
第49図 調査区分割図2	54
第50図 調査区分割図3	55
第51図 調査区分割図4	55
第52図 調査区分割図5	56
第53図 調査区分割図6	57
第54図 調査区分割図7	58
第55図 調査区分割図8	59

表目次

第1表 周辺の主な発掘調査一覧	3
第2表 ピット一覧表1	49
第3表 ピット一覧表2	50
第4表 ピット一覧表3	51
第5表 ピット一覧表4	52
第6表 ピット一覧表5	53
第7表 遺物観察表1	60
第8表 遺物観察表2	61

第1章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査の経緯

道常遺跡は、佐久市長土呂に所在する弥生時代から中世までの複合遺跡である（第1図）。本遺跡周辺は、佐久市有数の遺跡密集地域であると同時に、平成9年の北陸新幹線佐久平駅の開業を契機に、近年急速に開発が進んでいる地域である。

本調査区に隣接する東側では、平成21年度から平成24年度まで、区画整理事業に伴う発掘調査が実施されている。本事業対象地内的一部は、このとき発掘調査が行われており、弥生時代から中世までの集落跡が確認されていたため、本事業対象地内にも集落跡が続くと考えられていた。

平成26年12月5日、当時の地権者から佐久市教育委員会に埋蔵文化財発掘調査についての依頼があり、平成27年1月21日・22日に佐久市教育委員会による確認調査が実施され、対象地全域で奈良時代から中世の住居址や土坑が確認された。

今回、株式会社SKYが対象地に高齢者向け住宅の建設を計画したことにより、平成29年5月8日、長野県教育委員会に埋蔵文化財発掘の届出がなされた。平成26年度における確認調査結果に基づき、株式会社SKYと佐久市教育委員会による遺跡の保護協議が行われた結果、遺跡の保存が困難な建物部分、敷地周囲の擁壁設置部分及び道路拡幅部分の1,352mについて、記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。



第1図 道常遺跡III位置図

第2節 調査組織

調査受託者 佐久市教育委員会

教育長 柳澤 晴樹

事務局 社会教育部長

荻原 幸一（平成29年度）青木 源（平成30年度）

文化振興課長

小林 義夫

文化振興課企画幹

小林 登志郎（平成29年度）武者 新一（平成30年度）

文化財調査係長

大塚 広樹（～平成29年9月）塩川 宏幸（平成29年10月～）

文化財調査係

小林 真寿 富沢 一明 上原 学 荻原 義治（平成30年7月～）

臨時職員

久保 浩一郎 岩下 琴（～平成30年6月）

調査担当者

森泉 かよ子

調査員

久保 浩一郎

赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 甘利 隆雄 岩崎 重子

大矢 志暮 小幡 弘子 木内 修一 小林 紗子 小林 敏雄

堺 益子 清水 律子 田中 ひさ子 中澤 登 橋詰 勝子

橋詰 信子 林 まゆみ 比田井 久美子 堀龍 保子 柳澤 孝子

横尾 敏雄 依田 好行

第3節 遺跡周辺の地理的環境

佐久市は長野県中央東端、群馬県に接し四方を山地・台地に囲まれた標高700m程度の盆地内に位置する。佐久平と呼ばれるこの盆地は、東に佐久山地、北に浅間山、南に蓼科山・八ヶ岳を望み、その中央には千曲川が北流する。千曲川左岸の佐久平南部は蓼科・八ヶ岳から緩やかに伸びる山裾と、そこを流れる小河川により形成された小規模な扇状地及び千曲川の沖積低地が広がっている。一方千曲川右岸の佐久平北部は、約23,000年前と推定される塚原泥流や、約13,000～10,000年前の軽石流など、浅間山の火山噴出物により形成された台地である。佐久市北部にはこの軽石流が河川の浸食をうけて形成された浸食谷、いわゆる「田切り地形」が特徴的に発達しており、田切りの谷に挟まれた台地ごとに、遺跡群が形成されている。

今回発掘調査を実施した道常遺跡周辺は、浅間山麓から帶状に続く田切り台地の末端部に位置する（第2図）。田切り地形における台地と谷の高低差が消失し、濁川の氾濫低地における水田地帯との境界部に位置する。近年急速に宅地化が進んでいるが、第2図の埋蔵文化財包蔵地の空白が示すように、北東から南西に延びる埋没低地が存在している。

第4節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺では、大規模開発に伴う発掘調査により、豊富な考古資料が得られている。

縄文時代 中部横断自動車道建設に伴う西近津遺跡群（7）の発掘調査で、草創期から後期の土器が出土し、中期後半の住居址が検出されている。また、西近津遺跡Ⅶ（8）では後期の住居址が検出され、土偶や石棒なども出土している。従来、縄文時代の集落は佐久平周辺の山裾に展開していたと考えられていたが、近年の調査成果から本遺跡周辺でも集落が営まれていたことがわかってきてている。

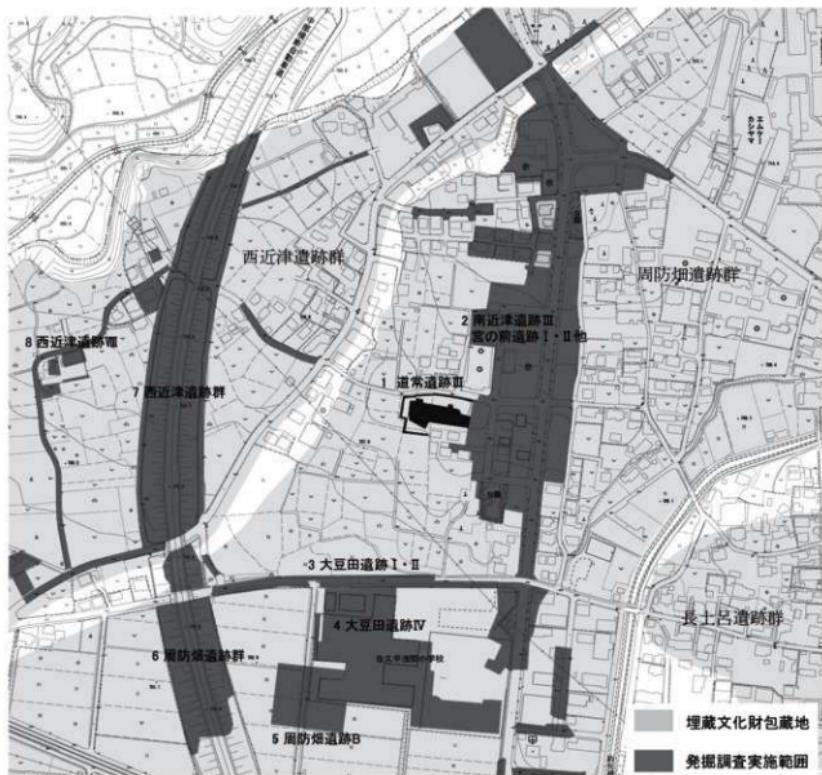
弥生時代 前・中期集落は本遺跡より南側の湯川沿岸に偏って分布しているが、後期には本遺跡周辺に大規模な集落が形成される。濁川の氾濫低地を生産域にしていたと考えられ、南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）、周防畑B遺跡（5）、周防畑遺跡群（6）、西近津遺跡群（7）では、後期の集落と周溝墓などの墓域も確認されている。しかしこれらの集落は弥生時代の終焉とともに断絶する。

古墳時代 古墳時代になると、台地縁辺部に小規模集落が散見される程度となる。本遺跡周辺でも中期後半までの生活痕跡は希薄となる。中期後半になると再び集落が形成され、これらの集落は平安時代まで継続することが多い。南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）、大豆田遺跡Ⅳ（4）、西近津遺跡群（7）などで、当該期から平安時代まで継続する集落が確認されている。

奈良・平安時代 集落は古墳時代から継続して営まれており、本調査区において本格的な居住の痕跡が認められるのはこの時期からである。本遺跡を含め周辺の発掘調査では布目瓦が一定量出土しており、周辺にその存在が想定される「妙楽寺」に関わるものと考えられる。南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）では、「大井」や「令」などをはじめとする墨書き土器、円面鏡や金具なども出土しており、ある種公的な集落であったことが想定される。しかし、10世紀以降は住居址が減少し、集落が衰退していくと考えられる。

中世 平安末期には、岩村田を中心とした千曲川右岸に八条院領の大井莊があったと考えられ、鎌倉時代になると、小笠原長清の子、朝光が大井莊に土着し大井氏を名乗るようになる。大井氏は岩村田を中心とする佐久北部に勢力を振い、13世紀末には大井光泰が長土呂を知行したといわれる。

南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）及び大豆田遺跡Ⅳ（4）では、中世の堅穴状造構や井戸址、溝址等が検出されている。これらの調査成果から、本遺跡周辺では中世に大規模な開発が行われたことがわかってきた。本調査区で検出された堅穴状造構や土坑の多くも、中世の所産と考えられ、周辺における開発の中で、本遺跡も形成されたものと考えられる。



第2図 道常遺跡III周辺遺跡分布図

遺跡名	検出構造	報告書
1 道常遺跡III	竪穴住居址15(奈~平)、竪穴状構造5、掘立柱建物址6、土坑98、溝址4、ビット451	第257集
2 南近津遺跡III 宮の前遺跡I・II他	竪穴住居址512(弥生~平安)、竪穴建物址5、掘立柱建物址182、周溝墓33、土坑402、溝址114、ビット4,922	第198集 第240集
3 大豆田遺跡I・II	竪穴住居址26(弥生~平安)、掘立柱建物址9、土坑34、溝址22	第156集
4 大豆田遺跡IV	竪穴住居址26(弥生~平安)、竪穴建物址3、掘立柱建物址33、土坑139、溝址76、ビット	第229集
5 周防烟B遺跡	竪穴住居址41(弥生~平安)、周溝墓2、土坑17	昭和56年
6 周防烟遺跡群	竪穴住居址92(弥~平)、掘立柱建物址9、周溝墓15、土坑422	長野県埋蔵文化財センター-105集
7 西近津遺跡群	竪穴住居址548(繩~平)、竪穴建物址4、掘立柱建物址122、周溝墓22、土坑2,474、溝址43	長野県埋蔵文化財センター-104集
8 西近津遺跡III	竪穴住居址25(繩~平)、周溝墓3、土坑37、溝址3	第207集

第1表 周辺の主な発掘調査一覧

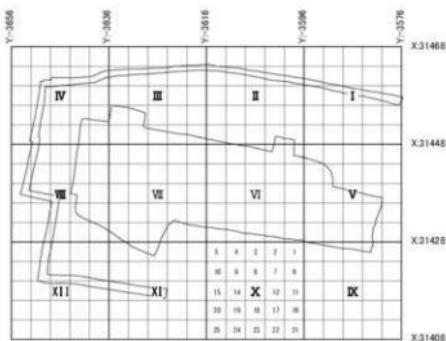
第5節 発掘調査の方法

発掘調査は、平成29年7月21日～平成29年10月20日に実施した。重機により遺構確認面である地山（第4回VI層）上面まで掘削した後、調査区内に国土地理院の平面直角座標系原点第VIII系を基点とするグリッドを設定した（第3図）。調査区北東端のX=31468、Y=-3576を起点とし、ローマ数字名を付した20m四方の大グリッドと、大グリッド内を25分割した4m四方の小グリッドの組み合わせによりグリッド名を付した。

グリッド杭打設後、人力により遺構確認面の精査・遺構検出を行い、遺構外出土遺物はグリッド単位で取上げた。

検出した遺構については、遺構ごとに遺構埋土の土層観察・記録を行なながら掘下げ、完掘後にグリッド杭を用いた簡易遺方測量により平面図を作成した。

写真はデジタル一眼レフカメラによるRAW及びJPEGデータと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルムを用いて記録した。



第3図 グリッド設定図

第6節 基本層序

本調査区における基本層序は以下の6層に大別できる。

- I層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 現代の畑耕作土
- II層 灰黄褐色(10YR4/2)～褐色土(10YR4/1) 近世以降の耕作土と考えられ、陶磁器片を含む。下位III層との層界は明瞭。
- III層 暗赤褐色土(5YR3/2) 堆積層。対象地西端部で確認される。
- IV層 黒色シルト質土(10YR2/1) 堆積層。対象地西端部で確認される。
- V層 褐色土(7.5YR4/3) IV層からVI層の中間層
- VI層 明黄褐色土(10YR6/6) 浅間第一軽石流の地山層。

調査区西端部を除いて、III～V層は削平されているため、遺構検出はVI層上面で行った。



第4図 基本層序模式図

第7節 遺構・遺物の概要

- 遺構 壓穴住居址15軒（奈良・平安時代）、壓穴状遺構5基（中世）、掘立柱建物址6軒、土坑98基、溝址4条、ビット451基
- 遺物 弥生土器、土師器（甕・壺・皿）、須恵器（壺・甕・壺・壺蓋・有台壺等）、陶磁器（灰釉陶器・古瀬戸・青磁）石器（打製石斧・擦石・敲石）、石製品（砥石・硯）、鉄製品（角釘・刀子・鎌等）、銅錢、瓦



第 II 章 遺構と遺物

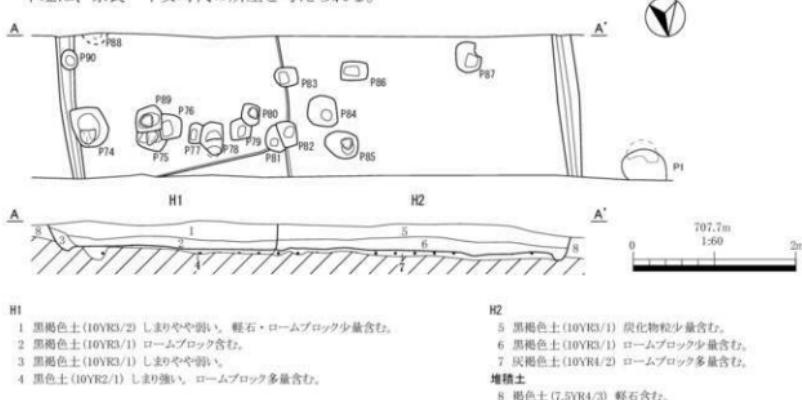
第 1 節 堪穴住居址

本調査区からは 15 軒の堪穴住居址が検出された。調査区内で全容を把握できないもの、または出土遺物が少なく時期を特定するのが困難なものもあるが、いずれも奈良・平安時代の所産と考えられる。

H1 号住居址（第 6 図） XII-15 グリッドに位置し、H2 号住居址より新しく、P74～P83, P89・P90 より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西 2.8m、主軸は N-10°-W である。検出面から床面までの深さは約 35cm であり、堅固な床面を有する。堀方は床面より 1 ～ 16cm 深い。ピットは堀方で P88 の 1 基が確認された。遺物はわずかな破片資料のみであるが、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。

H2 号住居址（第 6 図） XII-11 グリッドに位置し、H1 号住居址、P82 ～ P87 より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西 3.7m、主軸は N-9°-W である。検出面から床面までの深さは約 35cm であり、床面はわずかにしまる程度である。堀方は床面から 7cm 程度深い。遺物はわずかな破片資料のみであるが、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

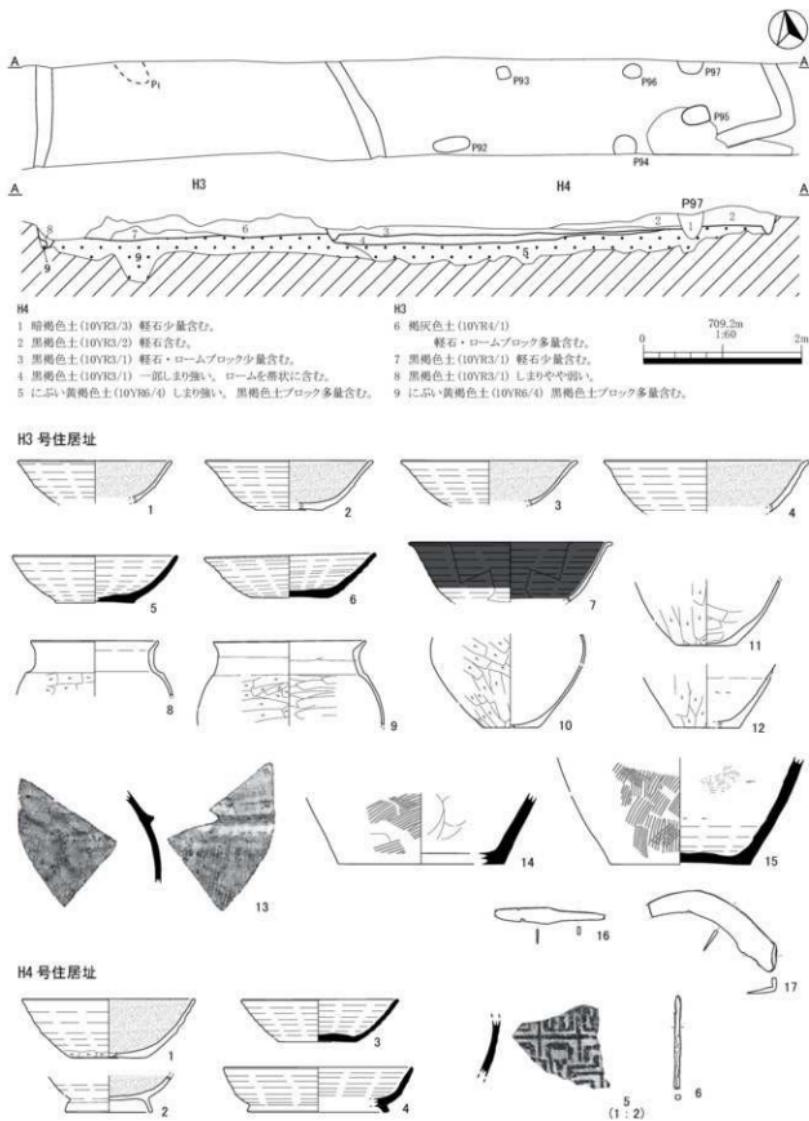
本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。



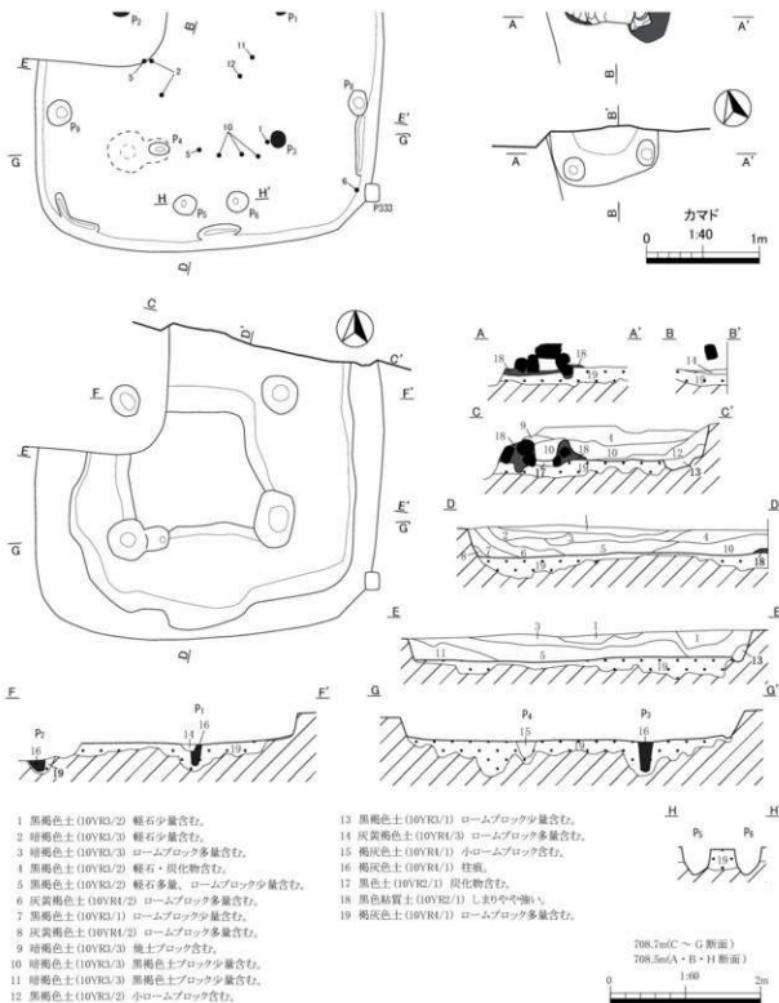
第 6 図 H1 号・H2 号住居址 遺構図

H3 号住居址（第 7 図） II-6・7 グリッドに位置し、H4 号住居址より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西 4.2m 以上、主軸は N-1°-W である。検出面から床面までの深さは約 30cm であり、床面はわずかにしまる程度である。堀方は床面より 25cm 程度深い。ピットは堀方で 1 基検出された。

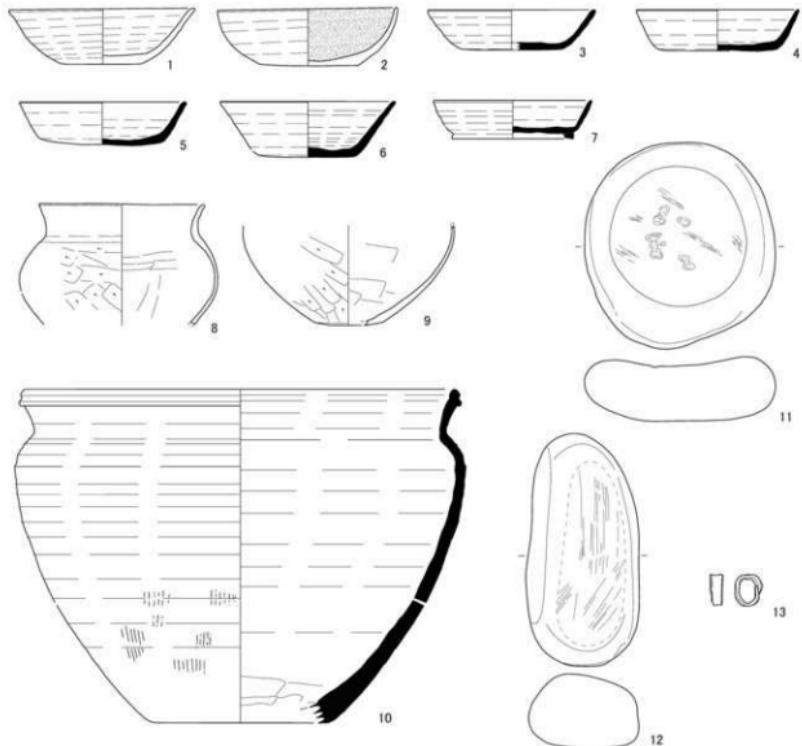
遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品が出土している。1 ～ 4 は土師器の壺である。いずれもロクロ整形で、内面には黒色処理が施される。5・6 は須恵器の壺である。底部には回転糸切痕を留め、焼成はやや不良である。7 は灰釉陶器の碗と考えられる。8 ～ 12 は土師器の甕であり、口縁部はコの字を呈する。13 は須恵器の壺の肩部である。14・15 は須恵器の甕の底部と考えられる。16 は刀子である。17 は鍬である。出土遺物から、本址は 9 世紀前半の所産と考えられる。



第7図 H3号・H4号住居址遺構図・遺物実測図



第8図 H8号住居址遺構図



第9図 H8号住居址遺物実測図

H4号住居址（第7図）I-10グリッドに位置し、H3号住居址より新しく、P92～P97より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西5.2m、主軸はN-15°-Wである。検出面から床面までの深さは約25cmであり、堅固な床面を有する。一度床を張り直したと考えられ、4層上面も一部が堅く締まる。堀方は床面より20cm程度深い。

遺物は、土師器・須恵器・鉄製品が出土している。1は土師器の壺、2は土師器の碗であり、いずれも内面には黒色処理が施される。3は須恵器の壺であるが、焼成不良である。4は須恵器の有台壺である。5は器種は不明だが須恵器と考えられる。外面に幾何学的な文様がみられる。6は棒状の鉄製品であり、釘と考えられる。本址は9世紀代の所産と考えられる。

H8号住居址（第8図、第9図）VI-4グリッドに位置し、Ta5号窓穴状遺構より古い。北側が調査区外に延びるが、カマドが検出されていることからほぼ全体が検出されていると考えられる。長軸4.6m、短軸は推定で4.2m、床面積は推定 16.3 m^2 の規模を有し、主軸はN-2°-Wである。検出面から床面までの深

さは約35cmで、堅固な床面を有する。堀方は床面よりも6cm～30cm程度深く、中央と壁際が高く掘り残される。カマドは煙道部分が調査区外であるが、北側中央に位置し、袖部分は黒褐色の粘質土と方形に整形された礎で構築されている。ピットは9基確認され、P₁～P₃では柱痕が認められる。P₅・P₆は出入口施設に伴うものと考えられる。

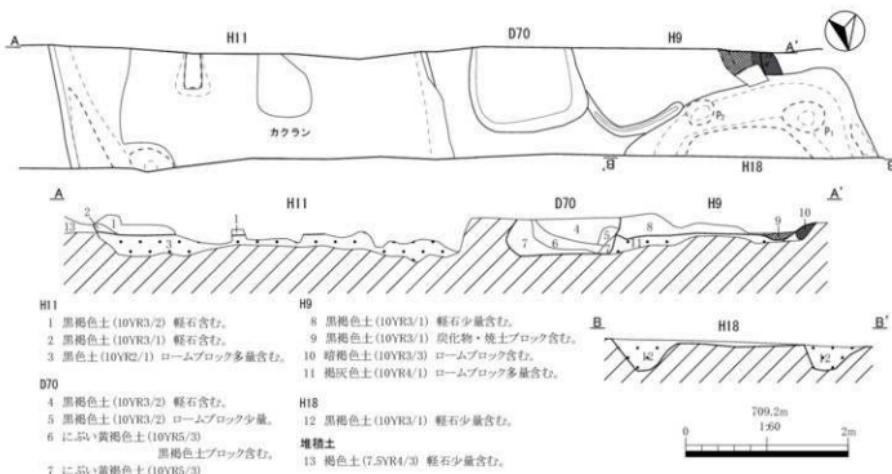
遺物は土師器・須恵器・石器・鉄製品が出土しており、3と9を除いて床面上で出土したものである。1・2は土師器の壺である。2は内面黒色処理が施される。3～6は須恵器の壺で、6は焼成不良である。7は須恵器の有台杯である。8・9は土師器の甕である。10は団面上で復元した固体だが、須恵器の甕と考えられる。11は凹石、12は擦石である。13は環状の鉄製品だが、刀子などの留金具の可能性が考えられる。

出土遺物から、本址は8世紀後半の所産と考えられる。

H9号住居址（第10図）I～13グリッドに位置し、H18号住居址及びD70号土坑より古い。住居址東部部分のみの検出であり、南西側は調査区外に延びる。主軸はN-10°-Wである。検出面から床面までの深さは25cm程度で、床面はわずかに縮まる程度である。堀方は床面より15cm程度深い。カマドはカクランにより一部が破壊されているが、北側中央に位置すると考えられる。

遺物は弥生土器・須恵器・鉄製品が出土したが、いずれも小破片である。1は基部側が欠損しており全容は不明だが、小型の刃器ではないかと考えられる。

本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。



H9号住居址



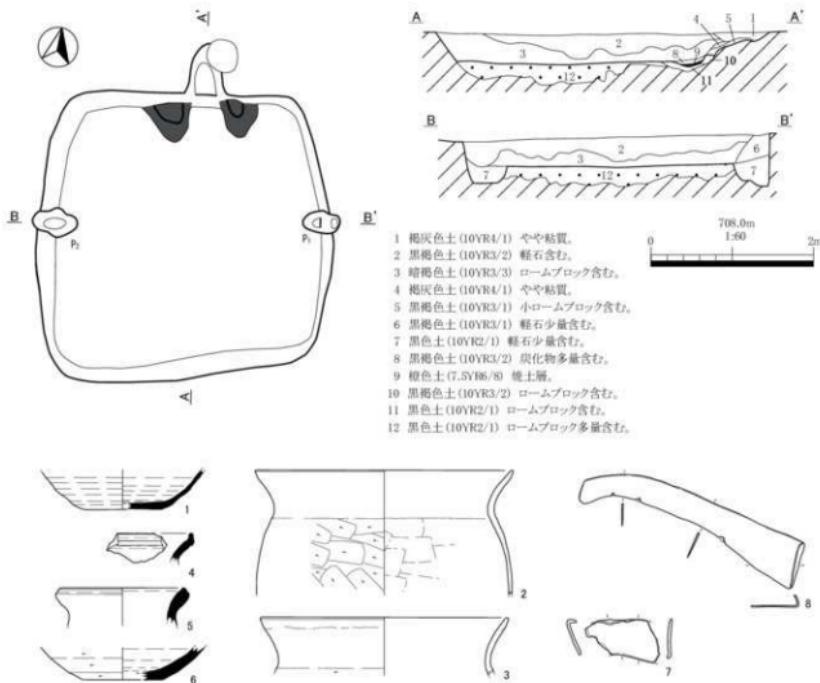
第10図 H9号・H11号・H18号住居址遺構図・遺物実測図

H10号住居址（第11図）VII-12・13グリッドに位置する。長軸4.1m、短軸3.8m、床面積11.8m²、主軸はN-10°-Wである。検出面から床面までの深さは約35cmであり、床面はわずかに堅い。壁はほぼ垂直に立上るが、南側のみやや緩やかに立上がる。壁溝は検出されなかった。堀方は床面より20cm程度深い。カマドは北側中央に位置し、袖部は褐灰色の粘質土で構築される。ピットは中央両端に位置する2基が確認された。柱痕は認められなかつたが、柱穴と考えられる。

遺物は土師器・須恵器・鉄製品が出土した。1は須恵器の壺で、底部はヘラ切り後にナデ調整が施される。2・3は土師器の甕である。4～6は須恵器の壺ないし甕と考えられる。7・8は鎌であるが、欠損後に一部が折れ曲がっている。本址は8世紀後半の所産と考えられる。

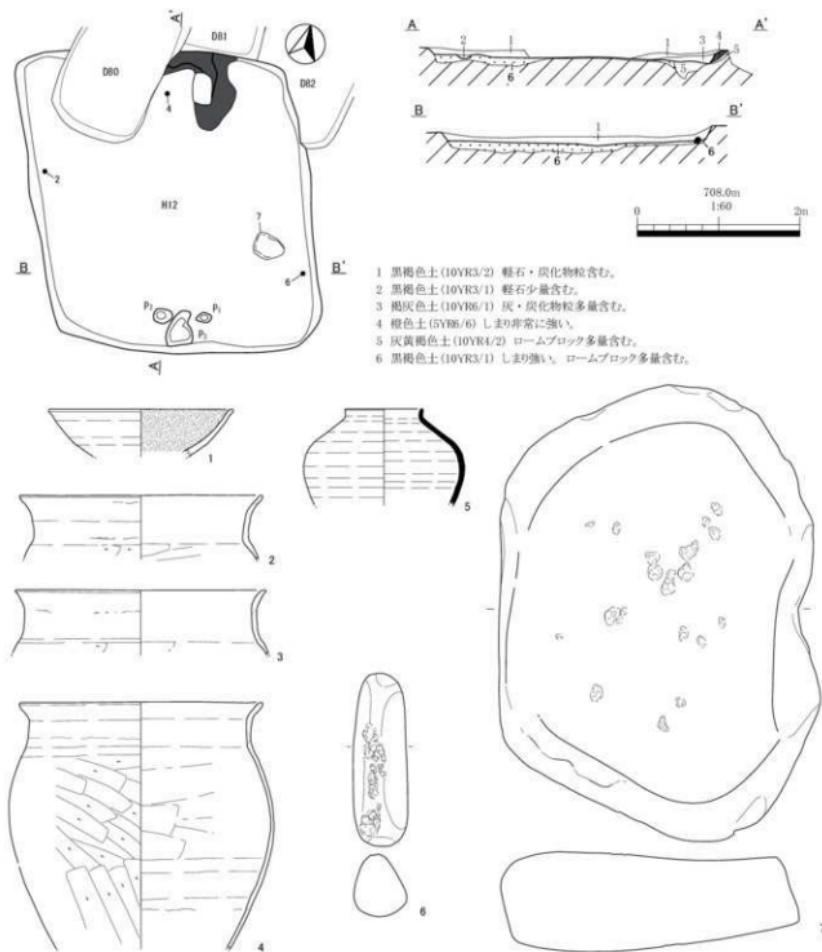
H11号住居址（第10図）I-12グリッドに位置し、南北両側が調査区外に延びる。中央部分がカタランを受けており、床面がほとんど残っていないため、東側の上端と西側の上端の一部及び堀方のみの検出である。東西4.6m、主軸はN-2°-Wである。残存する床面は硬くしまる。

遺物は堀方からの出土であるが、土師器・須恵器が出土している。1は須恵器の壺であり、底部には回転糸切り痕が認められる。2・3は土師器の甕である。本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。



第11図 H10号住居址遺構図・遺物実測図

H12号住居址（第12図）VII-4グリッドに位置し、D71・D80～82号土坑より古い。長軸3.7m、短軸3.4m、床面積10.6m²の規模を有し、主軸はN・12°～Wである。検出面から床面までの深さは18cmで、堅固な床面を有する。堀方は床面から3～10cm程度深い。ピットは入り口施設に伴うものと考えられる3基が確認された。カマドは北側中央に位置し、D71・D80・D81号土坑により一部が破壊される。裾部は褐色土により構築される。

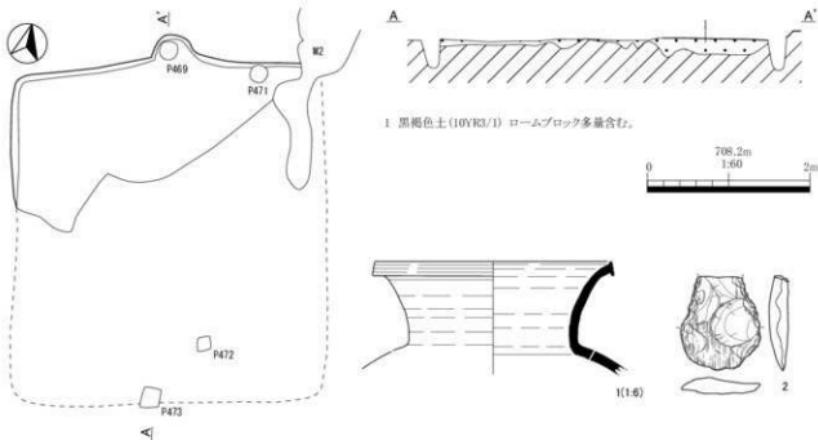


第12図 H12号住居址遺構図・遺物実測図

遺物は土師器・須恵器・石器が出土した。1は土師器の碗で、内面黒色処理が施される。2~4は土師器の甕である。5は須恵器の壺である。6・7は床面から出土した石器で、6は蔽石、7は台石と考えられる。本址は9世紀前半の所産と考えられる。

H13号住居址（第13図）III-25グリッドに位置する。上部がほとんど削平されており、北側の一部に床面を残すのみであるが、堀方の規模から長軸4.5m、短軸3.8m、床面積15.2m²と推定され、主軸はN-11°-Wである。堀方は床面から5~20cm深い。ピットは検出されなかった。カマドもすでに削平されているが、堀方の形状から北側の中央に配置されていたと考えられる。

遺物は須恵器と石器が出土している。1は須恵器の甕の口縁部と考えられる。2は打製石斧の刃部である。本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。



第13図 H13号住居址遺構図・遺物実測図

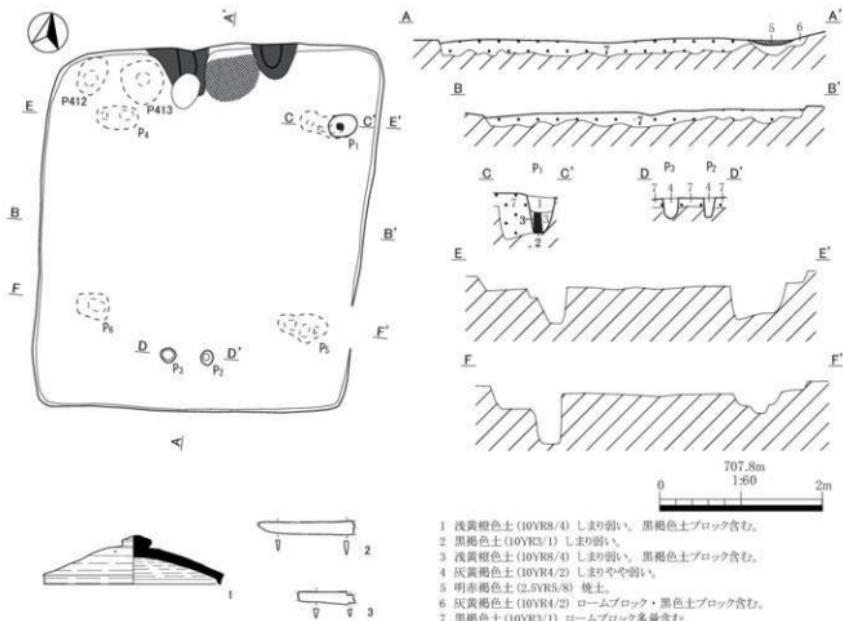
H14号住居址（第14図）VII-15グリッドに位置し、H15号住居址より新しい。上部が削平されており、検出面がほぼ床面であった。長軸4.5m、短軸4.0m、床面積17.2m²と推定され、主軸はN-6°-Wである。床面はわずかに締まる程度であり、堀方は床面から15cm程度深い。ピットは床面で3基確認でき、P1では柱痕が確認できた。P2・P3は入口施設に伴うピットと考えられる。P4~P6は床面で確認できなかつたが、柱穴の堀方と考えられる。カマドは北側中央に位置し、袖は灰黄褐色土で構築される。

遺物は須恵器と鉄製品が出土した。1は須恵器の壺蓋である。2・3は鉄製の刀子と考えられる。本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。

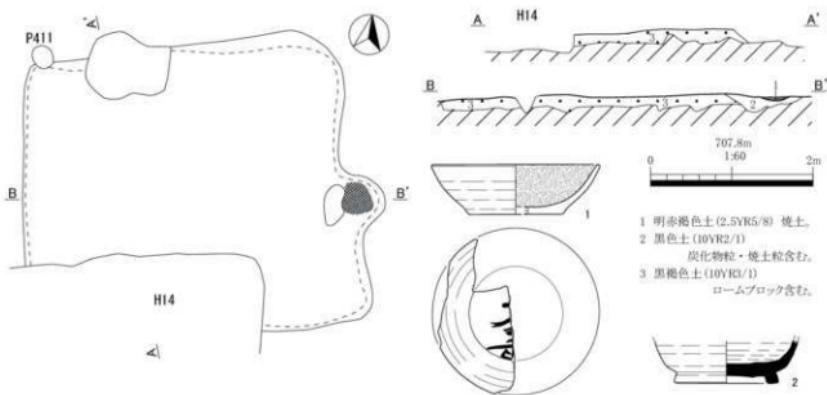
H15号住居址（第15図）VII-10グリッドに位置し、H14号住居址より古い。上部が削平されており、検出面がほぼ床面であった。長軸4.4m、短軸3.6m、床面積14.0m²を有し、主軸はN-78°-Eである。締まった床面はほとんど認められず、堀方は床面より15cm程度深い。ピットは確認されなかつた。カマドは東側中央に位置する。カマドもほとんどが削平されており、わずかに焼土が認められるのみである。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1は土師器の壺で、判読できないが底部に墨書が認められる。2は須恵器の有台壺で、底部には回転糸切痕を留める。

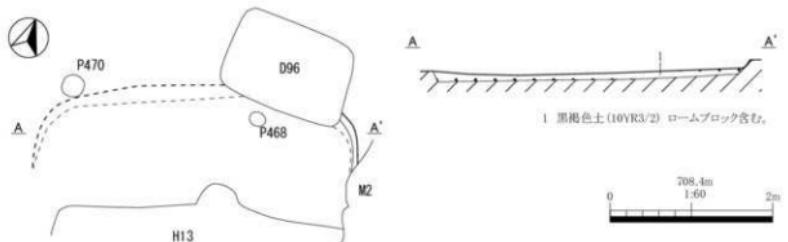
本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。



第14図 H14号住居址遺構図・遺物実測図

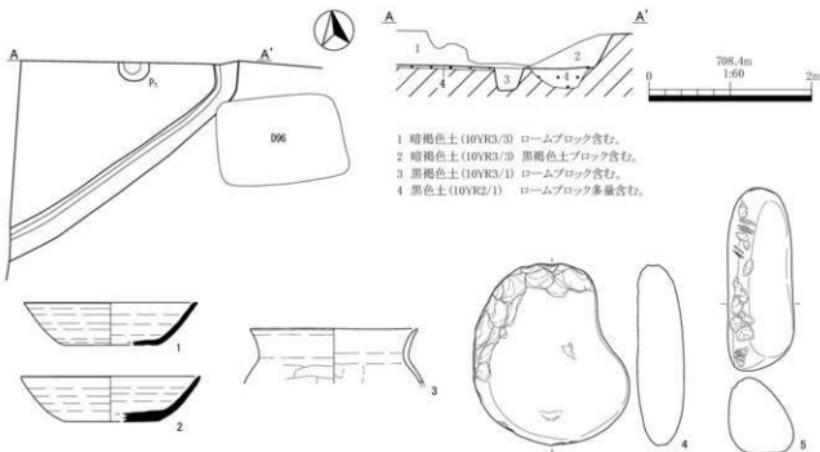


第15図 H15号住居址遺構図・遺物実測図



第16図 H16号住居址遺構図

H16号住居址（第16図）III-20グリッドに位置し、H13号住居址、D96号土坑、P468より古い。床面を含めほんどうが削平されており、堀方の一部のみの検出であるが、堀方埋土の状況から住居址と判断した。東西3.9mを測り、主軸はN-15°-Wである。カマドやピットは検出されなかった。遺物は出土していない。



第17図 H17号住居址遺構図

H17号住居址（第17図）III-20グリッドに位置し、D96号土坑より古い。大半が調査区外であり、南東部分のみの検出である。検出面から床面までの深さは40cm程度で、床面はわずかに縮まる程度である。堀方は床面より5~25cm程度深く、壁際を深く掘り込んでいる。ピットは1基検出された。

遺物は土師器・須恵器・石器が出土している。1・2は須恵器の壊である。1は底部に回転ヘラ切り痕が残る。2は焼成不良である。底部にはヘラナデによる調整が施される。3は土師器の壺である。4・5は敲石である。本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。

H18号住居址（第10図）I-14グリッドに位置し、H9号住居址より古い。北側過半が調査区外であり、

床面を含めほとんどが削平されているため、南側堀方のみの検出である。堀方は4~37cmの深さで、壁際を深く掘り込んでいる。ピットは堀方で2基確認された。遺物は出土しなかった。

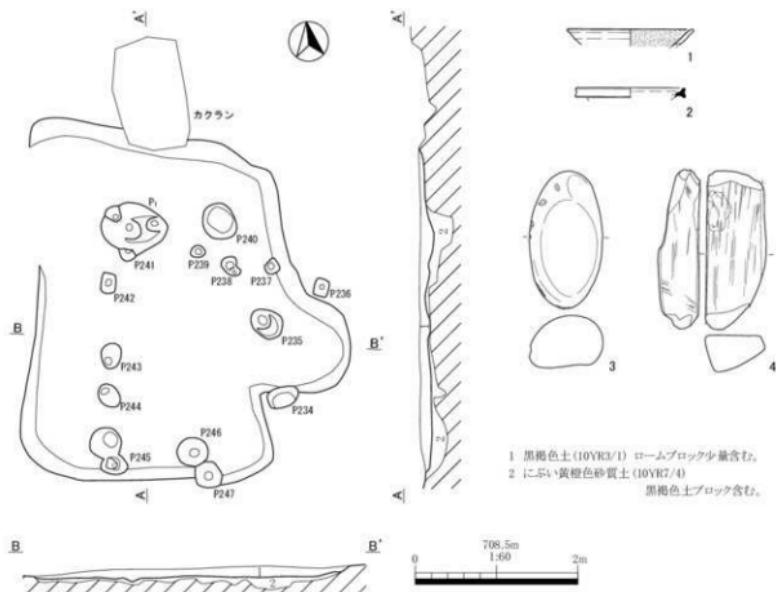
第2節 堪穴状遺構

本調査区においては、中世以降の所産と考えられる方形や長方形の掘り込みが多数検出されている。その中で長軸が3m以上のものを堪穴状遺構とした。ここで堪穴状遺構とした5基の中で、Ta3・4・5については、発掘調査時に堪穴住居址(H5・6・7号住居址)として記録を作成したもののであるが、中世の所産と判断し、堪穴状遺構として報告する。なお、同様の遺構について「堪穴建物址」と呼称する場合もあるが、周辺の調査区と名称を統一するため堪穴状遺構とした。

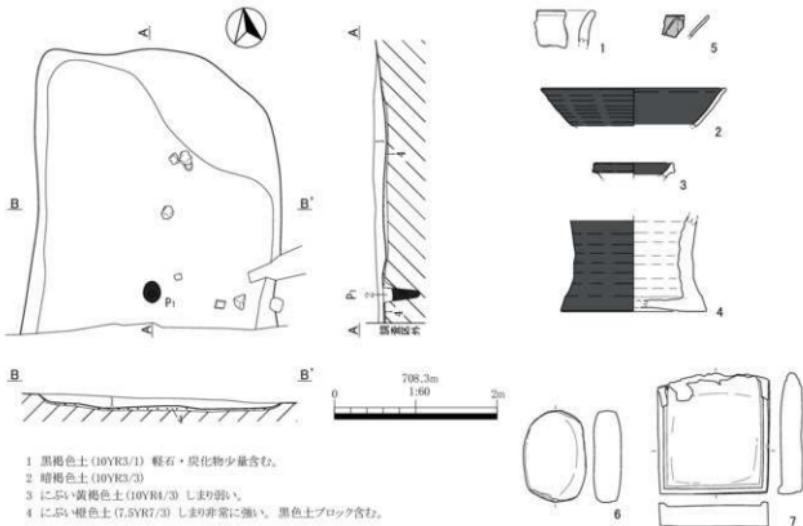
Ta1号堪穴状遺構（第18図）VI-13グリッドに位置し、F4号掘立柱建物址及びP234~P247より古い。東側中央部分が張り出す不整方形を呈し、長軸4.2m、短軸3.1mを測り、主軸はN-11°-Eである。堅く締まつた床面は確認できないが、土層堆積から2層上面がなんらかの使用面であったと捉えられ、検出面からの深さは12cm程度である。ピットは中央北側に1基確認された。

遺物は1層から土師器・須恵器・石器が出土した。1は土師器の壺で、内面黒色処理が施される。2は須恵器の長頸瓶である。3は敲石、4は砥石である。土師器・須恵器については混入品と考えられる。

本址は中世の所産と考えられる。



第18図 Ta1号堪穴状遺構遺構図・遺物実測図



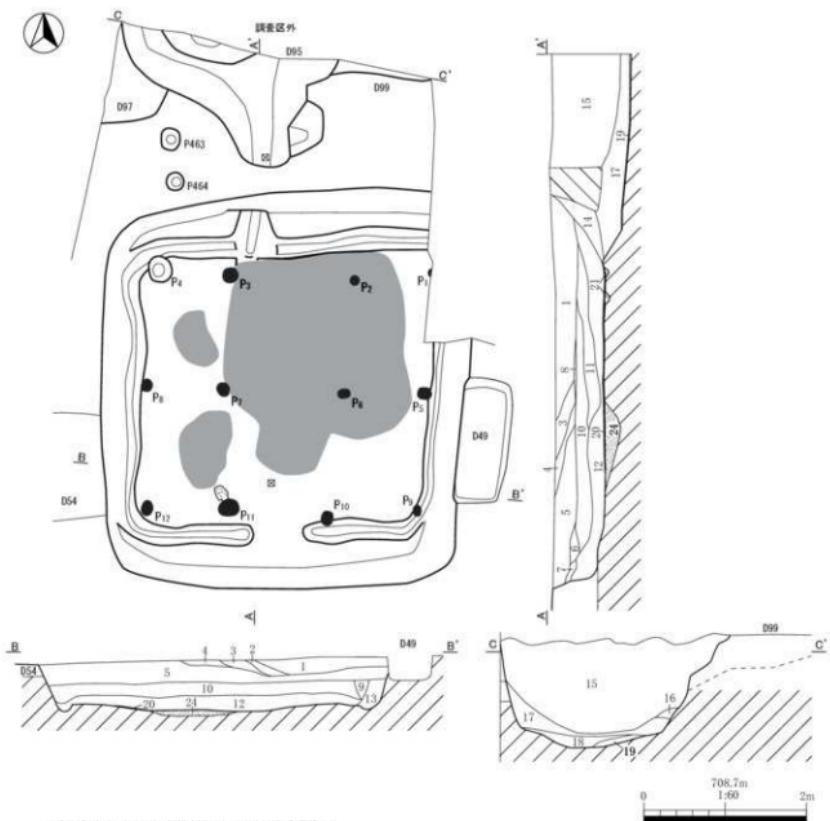
第19図 Ta2号竪穴状遺構遺構図・遺物実測図

Ta2号竪穴状遺構（第19図）VI-20グリッドに位置し、P344～P352より古く、南側が調査区外に延びる。長方形を呈すると考えられるが、北東部分が丸く、立上りが緩やかである。長軸3.2m以上、短軸3.0mを測り、主軸はN-12°-Eである。堅固な床面を有し、床面が壁に沿って緩やかに立上る。検出面から床面までの深さは10～15cm程度で、堀方は床面より4cm程度深い。ピットは中央付近に1基検出され、柱痕も確認された。

遺物は土師器・灰釉陶器・石製品などが出土した。1は土師器の甕の口縁部である。混入品と考えられる。2・3は灰釉陶器である。2は碗で、体部の張りが弱く直線的に開く形状である。3は長頸瓶の口縁部と考えられる。4は古瀬戸の瓶子である。平底で胴部下端が面取りされ、くびれのある縮腰形を呈する。13世紀後半の所産と考えられる。5は青磁の連弁碗である。6は敲石である。左右側面に敲打痕、上下両面に擦痕が認められる。7は石製の硯である。海部分が欠損しているが、全面とも平滑に研磨されている。裏面にはノミ状の工具によるハツリ痕が認められる。

本址は出土遺物から13世紀後半～14世紀の所産と考えられる。

Ta3号竪穴状遺構（第20図、第21図）調査時はH5号住居址として記録したが、中世の遺構と判断し、竪穴状遺構とした。VI-1・2グリッドに位置し、Ta4号竪穴状遺構・D54号土坑より新しく、D49号土坑より古い。南側の方形の竪穴とD95号土坑とした北側の掘り込みが地下で繋がっており、北側は調査区外に延びる。遺構全体を人為的に埋め戻したような堆積が認められる。南側の方形部分は長軸4.9m、短軸4.5m、主軸はN-3°-Eである。明確な床面と捉えられる堅く締まった面は確認できず、堀方も認められないが、底面上で灰層（20層）が認められる。検出面から底面までの深さは60cm程度で、壁がほぼ垂直に立上り、南側中央を除いて壁溝が廻る。溝は北側中央でトンネル状にD95号土坑へ続く。また、遺構中央部の灰層下位にも、北側中央部に集約するように溝が認められる。



1 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石・小ロームブロック多量含む。

2 黒褐色土 (10VK3/1) 軽石少量含む。

3 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 黒褐色土ブロック含む。

4 黒褐色土 (10VK3/1) 軽石含む。

5 黒褐色土 (10VK3/2) 軽石多量含む。

6 増褐色土 (10VK3/3) にぶい褐色土含む。

7 黒褐色土 (10VK3/3) 軽石含む。

8 灰の堆積

9 にぶい褐色土 (10YR7/3)

10 黑褐色土 (10VK3/2) 軽石・小ロームブロック多量含む。

11 暗灰色土 (10YR5/1) 軽石・黒褐色土ブロック多量含む。

12 黒褐色土 (10VK3/1) 軽石少量含む。

13 にぶい褐色土 (7,5YR7/3) 黒褐色土ブロック少量含む。

14 暗褐色土 (10VK3/3) ロームブロック多量含む。

15 増褐色土 (10VK3/3) 軽石・ロームブロック少量含む。

16 にぶい褐色土 (7,5YR7/4) 黒褐色土ブロック少量含む。

17 黒褐色土 (10VK3/1) ロームブロック含む。

18 暗灰色砂質土 (10YR4/1) しまりやや強い。

19 明黃褐色シルト質土 (10YR7/6) しまりやや強い。

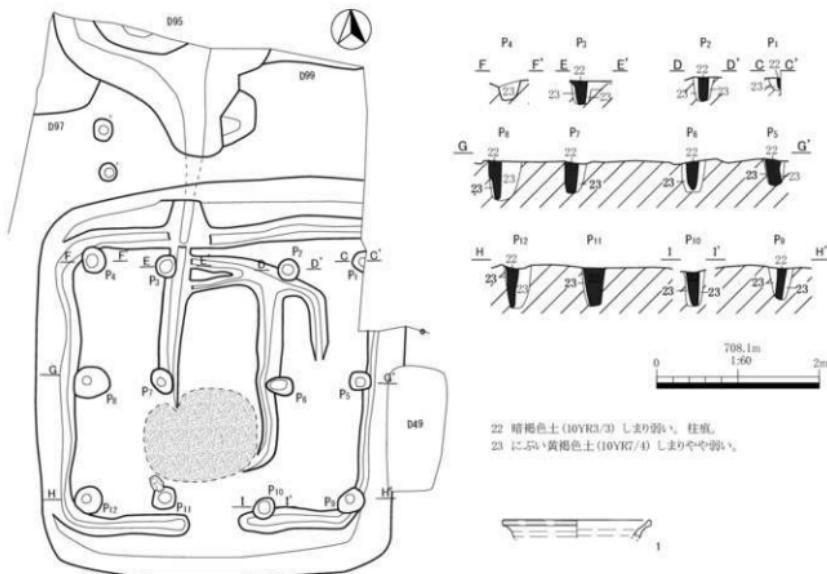
20 灰の堆積

21 増褐色土 (10VK3/3) ロームブロック含む。

24 暗灰色砂 (10YR4/1) しまりやや強い。

第20図 Ta3号堅穴状構造構造図

ピットは南側方形部分で12基検出された。桁行2間、梁行3間の総柱状に配置されており、柱痕も確認できる。柱間は95cm～150cm、柱痕の深さは12cm～46cmである。北側のD95号土坑はD97・99号土坑より新しく、検出範囲では不整形である。南側の方形部分より一段低く、底面はU字に座む。検出面から底



第21図 Ta3号竖穴状遺構図2・遺物実測図

面までの深さは1.2mで、垂直に近い角度で立上る。検出面より上位がカクランを受けているため、本来の掘り込みはさらに深いと考えられる。

遺物は埋土から弥生土器・土師器・須恵器・古瀬戸などが出土しているが、ほとんどが混入品と考えられる小破片である。Iは古瀬戸の折線小皿の口縁部であり、埋土から出土した。13世紀に比定される。

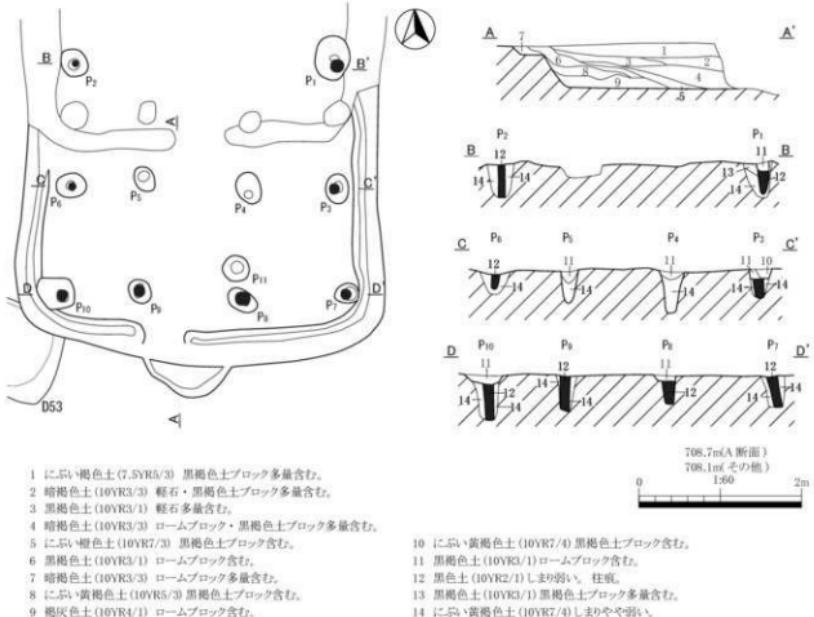
本址の帰属時期については、埋土から出土した古瀬戸の年代から、13世紀～14世紀の所産と考えたい。規則的な柱穴が配置されることから、何らかの建物址であると考えられるが、地下で土坑と繋がる形態は佐久市内では類例がない。南側の方形部分が母屋で、北側の土坑は何らかの付属施設と捉えられる。地下部分は人が通れるほどの広さではないため、排水等のための施設であろうか。

Ta4号竖穴状遺構（第22図）VI-6・7グリッドに位置し、Ta3号竖穴状遺構より古く、D50・53号土坑より新しい。調査時はH6号住居として記録したが、中世の遺構と判断し、竖穴状遺構とした。Ta3号竖穴状遺構と一部重なり、掘り込みの深さもほぼ同じであるため、建替えが行われたと考えられる。東西4.3m、南北3.6m以上、主軸はN-3°-Eであり、南側中央に張り出し部が認められる。明確な床面や堀方は確認できない。検出面から底面までの深さは60cm程度で、壁がほぼ垂直に立上り、南側中央を除いて壁溝が廻る。

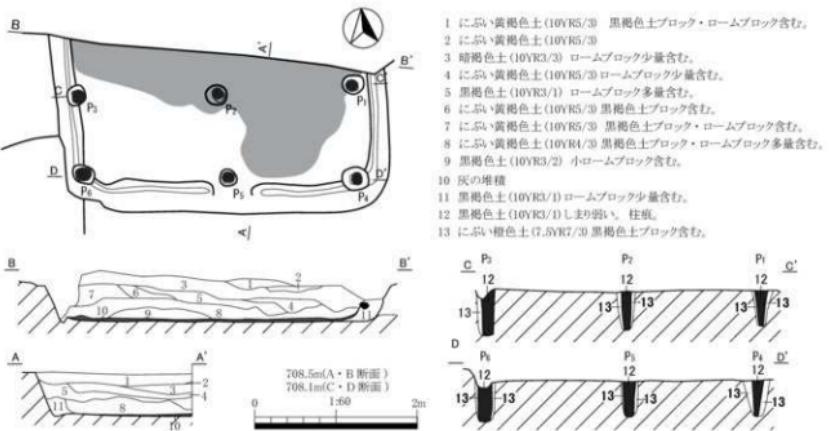
ピットは10基確認された。桁行2間、梁行3間の總柱状に並び、柱痕も認められるが、北側列の中央には配置されない。柱間は90cm～156cmで、深さは9cm～54cmである。

遺物は埋土から弥生土器・土師器・須恵器の小破片が出土したが、いずれも混入品と考えられる。

本址は形態や重複の状況から、Ta3号竖穴状遺構の直前と考えられる。



第22図 Ta4号堅穴状造構造構図



第23図 Ta5号堅穴状造構造構図

Ta5号堅穴状遺構（第23図）VI-4・5グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。H8号堅穴住居址より新しい。調査時はH7号住居址として記録したが、中世の遺構と判断し、堅穴状遺構とした。東西4m、南北2.1m以上で、主軸はN-4°-Eである。明確な床面や堀方は確認できないが、底面上に3cm程度の厚さで灰層（10層）が認められ、東側の壁際ではこの灰層がわずかに立上る。検出面から底面までの深さは60cm程度で、壁がほぼ垂直に立上り、南側中央を除いて壁溝が廻る。

ピットは灰層を切る形で6基が確認された。桁行は不明、梁行は2間である。柱間は1m～1.8mで、深さは42～55cmである。

遺物は土器類と須恵器の破片が出土しているが、混入品と考えられる。

本址は形態的特長がTa3・4号堅穴状遺構に類似することから、同時期と捉え、13～14世紀代と考えたい。

第3節 挖立柱建物址

柱穴と考えられる同規模のピットが規則的に並ぶものを掘立柱建物址と捉え、6軒を検出した。いずれも調査区中央より東側に位置する。規模や柱穴の配置などはそれぞれの建物で異なるが、概ね長方形を呈する。掘立柱建物址からの出土遺物は、混入品と考えられる土器片がほとんどであり、遺物から遺構の帰属時期を特定するのは困難である。しかし、周辺での調査成果、柱穴の形状や主軸方向などから、奈良・平安時代の所産と考えられる。

なお、掘立柱建物址の上屋構造や出入口の位置などは不明だが、本稿では長軸方向を桁行、短軸方向を梁行とした。

F1号掘立柱建物址（第24図）V-19～25グリッドに位置し、D22・D24号土坑より古い。南西側の柱穴が調査区外となり検出できなかったが、桁行3間、梁行2間の側柱建物と考えられる。検出された柱穴は9基で、柱穴は円形ないし隅丸方形を呈し、柱痕を留めるものもある。規模は桁行5.5m、梁行4.2m、面積23.1m²を測り、主軸はN-72°-Eである。柱間は桁行では1.3～1.4mまたは2.6～2.7mで、中央が広くなる。梁行では概ね2.1mである。柱穴の深さは28～65cmである。

遺物は出土していない。本址は、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代と考えられる。

F2号掘立柱建物址（第25図）VI-9～15グリッドに位置し、D46・D47号土坑より古い。桁行2間、梁行2間の總柱建物である。9基の柱穴はいずれも方形で、長軸が1m前後と比較的大きく、各柱穴の規模や配列が整然としている。P1・P3・P4・P7・P8・P9では柱痕が確認でき、いずれも柱穴のほぼ中央に位置している。規模は桁行4.5m、梁行3.5m、面積15.8m²を測り、主軸はN-14°-Wである。柱間は桁行で2.0～2.4m、梁行で1.7～1.9m、柱穴の深さは55～70cmである。

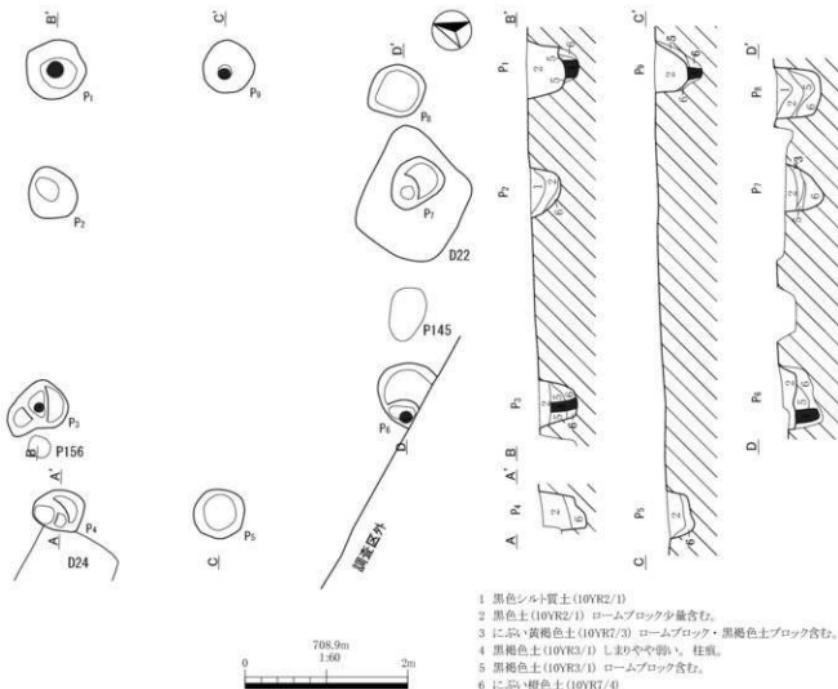
遺物はP6から鐵製品が出土している。1は端部が欠損しているが、角釘と考えられる。

本址は主軸方向や周辺調査区での検出例から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

F3号掘立柱建物址（第26図）VI-5～VII-16グリッドに位置し、D69号土坑より古い。桁行3間、梁行1間の側柱建物である。8基の柱穴は方形ないし不整円形で、P2とP3は浅い溝で繋がる。P1・P5・P6・P8では柱痕が確認できる。規模は桁行5.9m、梁行4.4m、面積25.9m²を測り、主軸はN-9°-Wである。柱間は桁行で1.6～2.2m、梁行で4.1～4.4m、柱穴の深さは30～52cmである。

遺物はP3から縄文土器と考えられる破片が出土したが、混入品と考えられる。

本址は、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代と考えられる。



第24図 F1号掘立柱建物址遺構図

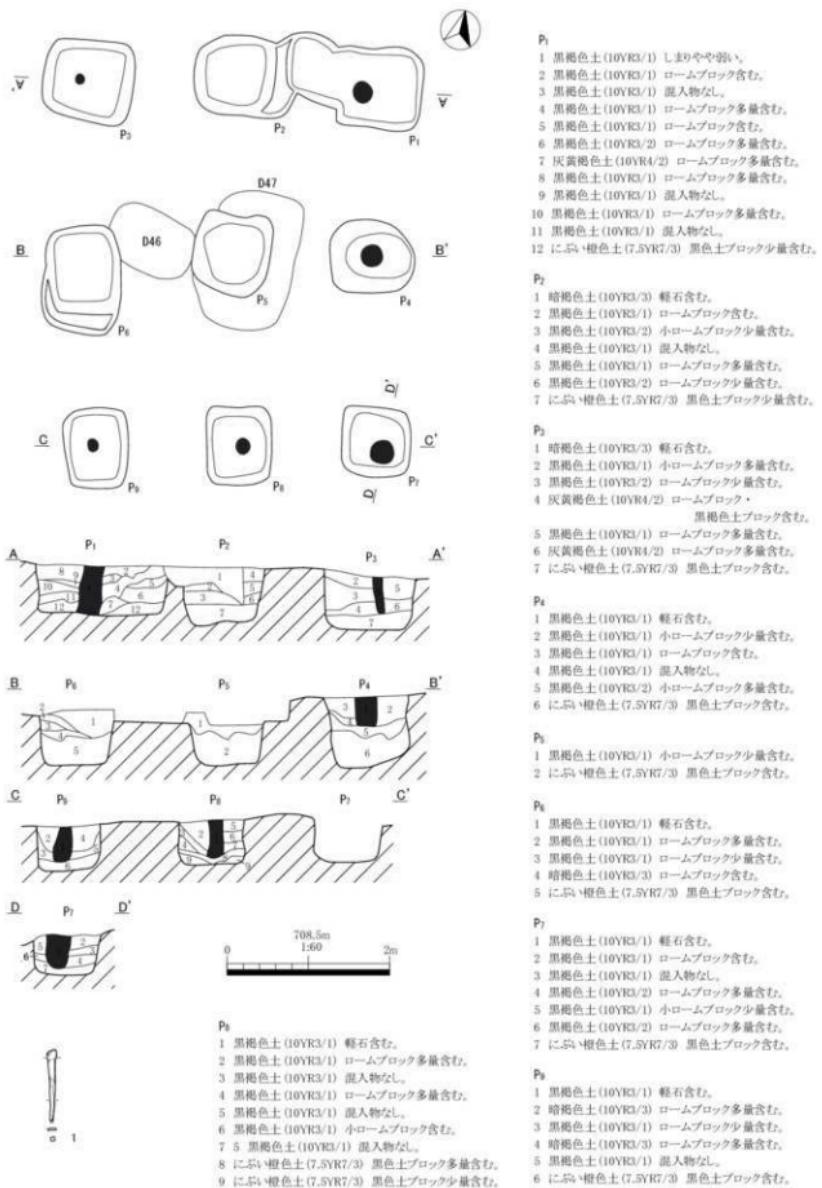
F4号掘立柱建物址（第27図）VI-18～24グリッドに位置し、Ta1号竪穴状遺構・P294・P300より古い。P245・P284・P292・P295・P302・P313により構成される。桁行1間、梁行2間の側柱建物である。

規模は桁行2.9m、梁行2.5m、面積7.3m²を測り、主軸はN-17°-Wである。柱間は桁行で2.8～2.9m、梁行で1.1～1.4mであり、柱穴の深さは26～35cmである。柱穴は不整円形で。埋土は黒褐色土を基調とし、軽石等を含む。

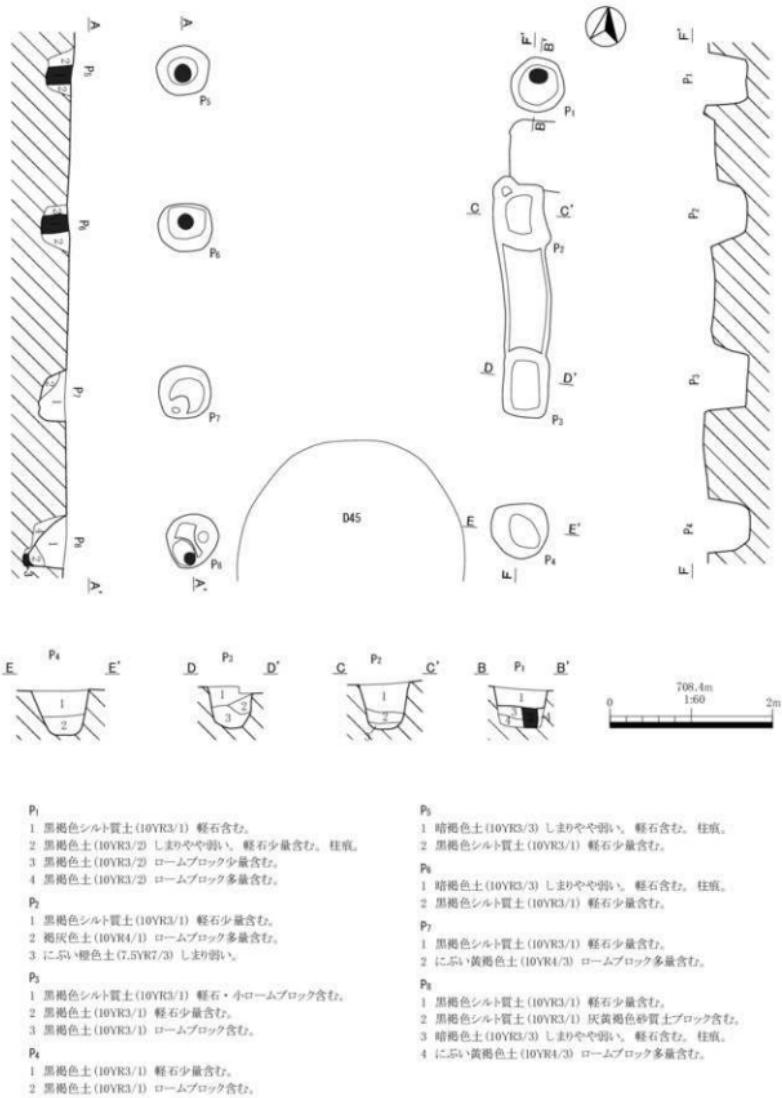
遺物は出土していないが、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

F5号掘立柱建物址（第28図）V-22～XI-2グリッドに位置し、D10・D11号土坑より古い。P99・P113・P114・P135・P136により構成される。東側が調査区外に延び、南側にも延びる可能性がある。規模は桁行3.6m、梁行3.3m、を測り、主軸はN-64°-Eである。柱間は桁行で3.6m、梁行で1.2～2.0mであり、柱穴の深さは55～71cmである。柱穴の形状は隅丸方形・楕円形・不整形と様々で。埋土は黒褐色土やにじみ黄褐色土などである。

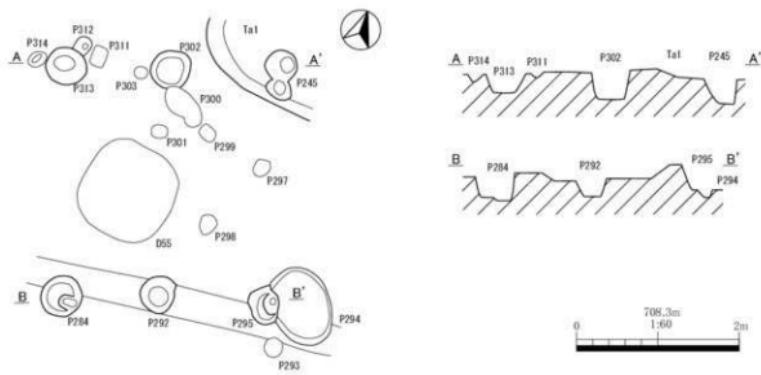
P135から土師器と須恵器が出土している。1は須恵器の壺蓋である。2は土師器の壺の底部である。出土遺物から、本址は平安時代の所産と考えられる。



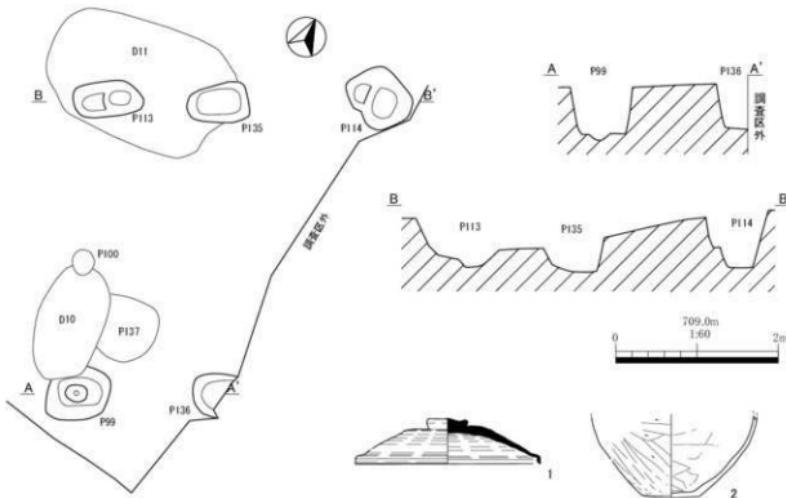
第 25 図 F2 号掘立柱建物址 遺構図



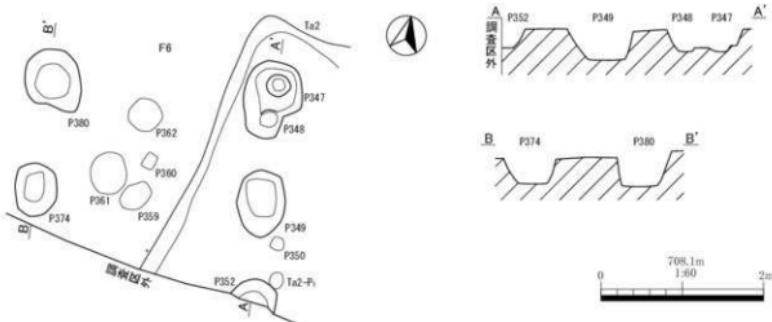
第 26 図 F3 号掘立柱建物址遺構図



第27図 F4号掘立柱建物址遺構図



第28図 F5号掘立柱建物址遺構図



第29図 F6号掘立柱建物址遺構図

F6号掘立柱建物址（第29図）VI-20～VII-21グリッドに位置し、Ta2号竪穴状遺構より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、P347・P349・P352・P374・P380により構成され、桁行2間以上、梁行1間の側柱建物と考えられる。規模は桁行2.7m以上、梁行2.7mを測り、主軸はN-9°-Wである。柱間は桁行で1.2～1.4m、梁行で2.7mであり、柱穴の深さは23～43cmである。柱穴は不整橢円形で、埋土は黒褐色土やにぶい橙色土である。

遺物は出土していないが、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

第4節 土坑

長軸が1mを超えるものを土坑としてピットと区別した。土坑は98基検出され、調査区全域に分布する。方形・長方形を呈するのものが主体だが、円形・楕円形のものもあり、多くは人為的に埋め戻されたような埋土である。遺物が伴うものはわずかで、土坑ごとの帰属時期を判断するのは困難であるが、形状や埋土等の特徴、わずかに出土する銅鏡や青磁などから、中世の所産と考えられる。

D1号土坑（第30図）XI-13グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。円形に近い隅丸方形を呈し、東西1.45m、南北1.37m以上、主軸はN-17°-Eである。検出面からの深さは0.65mで、断面はフラスク状を呈する。

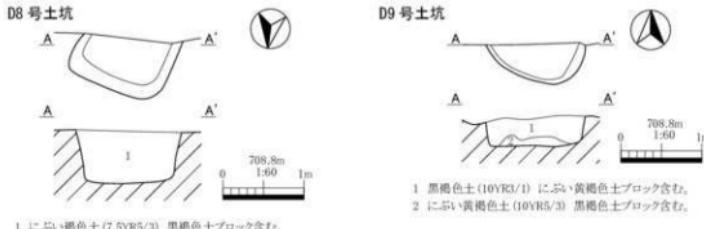
D2号土坑（第30図）XII-4グリッドに位置し、北側がわずかに調査区外に延びる。不整円形を呈し、長軸1.06m、短軸0.83m、主軸はN-15°-Wである。検出面からの深さ0.15mを測り、断面は浅いU字形である。

D3号土坑（第30図）VII-14グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。東西2.29m、南北0.58m以上、主軸はN-13°-Eである。検出面からの深さは0.56mを測り、埋土中に角礫を数点含む。断面は浅いU字形である。

D4号土坑（第30図）IV-6グリッドに位置し、P29より古い。南北両側がわずかに調査区外に延びる。隅丸長方形を呈し、長軸1.36m以上、短軸1.45m、主軸はN-6°-Eである。検出面からの深さは0.23mを測り、断面は逆台形である。



第30図 D1・D2・D3・D4・D5・D6・D7号土坑遺構図



第31図 D8・D9号土坑遺構図

D5号土坑（第30図）III-10グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。東側にテラス状の張出し部があり、東西1.85m、南北1.05m以上、主軸はN-1°-Eである。検出面からの深さは0.79mを測り、断面は逆台形である。

D6号土坑（第30図）III-9・10グリッドに位置し、D7号土坑より新しく、南側が調査区外に延びる。隅丸方形を呈するものと考えられる。西側がテラス状に高くなる。東西1.60m、南北0.66m以上、主軸はN-4°-Eである。検出面からの深さは0.43mを測り、断面は逆台形である。

D7号土坑（第30図）III-9・10グリッドに位置し、D6号土坑より古く、北側が調査区外に延びる。東側がテラス状に張出した隅丸方形を呈すると考えられる。東西1.38m、南北0.60m以上、主軸はN-6°-Eである。検出面からの深さは0.70mを測り、断面は逆台形である。

D8号土坑（第31図）III-8グリッドに位置し、南側が調査区外に延びるが、隅丸方形を呈すると考えられる。東西1.21m、南北0.67m以上、主軸はN-14°-Eである。検出面からの深さは0.64mを測り、断面は逆台形である。

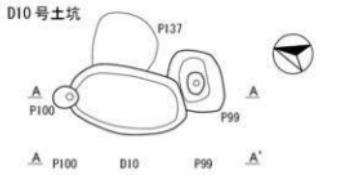
D9号土坑（第31図）III-8グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。東西1.16m以上、南北0.51m以上で、検出面からの深さは0.33mを測り、断面は逆台形である。

D10号土坑（第32図）IX-2・3グリッドに位置し、F5号掘立柱建物址・P137より新しく、P100より古い。平面形は楕円形で、長軸1.46m、短軸0.83m、主軸はN-7°-Wである。検出面からの深さは0.31mで、断面は逆台形である。

D11号土坑（第32図）V-23グリッドに位置し、F5号掘立柱建物址・P113より新しい。平面形は楕円形で、長軸2.34m、短軸1.49m、主軸はN-86°-Eである。検出面からの深さは0.37mで、南側にテラス状の段が認められる。断面は逆台形である。

D12号土坑（第32図）V-18グリッドに位置し、D13号土坑より古い。平面形は不整長方形で、長軸2.19m、短軸1.41m、主軸はN-80°-Eである。検出面からの深さは0.22mで、断面は逆台形である。

D13号土坑（第32図）V-18グリッドに位置し、D12号土坑より新しい。平面形は北西側が丸く張出した隅丸長方形で、張出した部分にテラス状の段を有する。長軸2.05m、短軸1.37m、主軸はN-3°-Wである。検出面からの深さは1.01mで、断面は逆台形である。



P100

1 黒褐色土(10YR3/1) 軽石含む。

D10

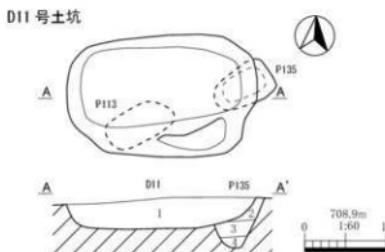
2 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック少量含む。

3 灰黄褐色土(10YRA/2) ロームブロック多量含む。

P99

4 黒褐色土(10YR3/1) 混入物なし。

5 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック含む。



D11

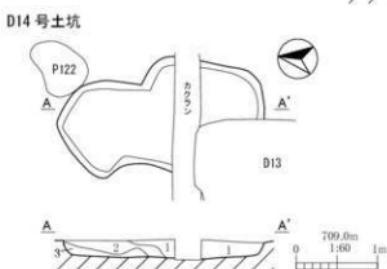
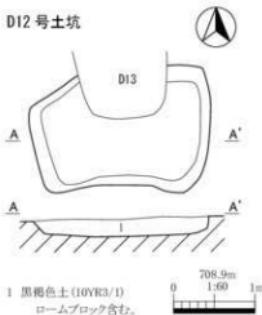
1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック含む。

P135

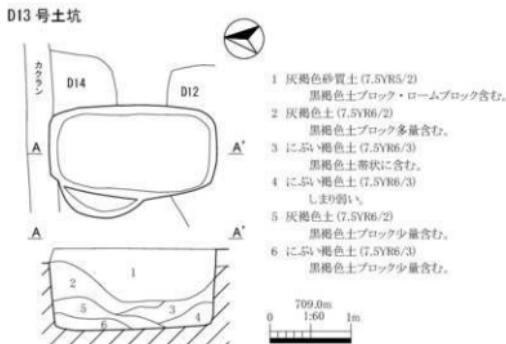
2 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ロームブロック含む。

3 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 黒褐色土ブロック含む。

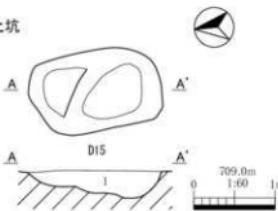
4 黒褐色土(10YR2/1) ロームブロック含む。



1 灰黄褐色土(10YRA/2) 軽石含む。
2 黑褐色土(10YR3/1) 軽石含む。
3 灰黄褐色土(10YRA/2) ロームブロック含む。



D15号土坑



1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック含む。

第32図 D10・D11・D12・D13・D14・D15号土坑遺構図

D14号土坑 (第32図) V-18グリッドに位置し、D13号土坑より古い。平面形は不整形で、長軸2.54m、短軸1.41m、主軸はN-3°-Wである。検出面からの深さは0.22mで、断面は逆台形である。

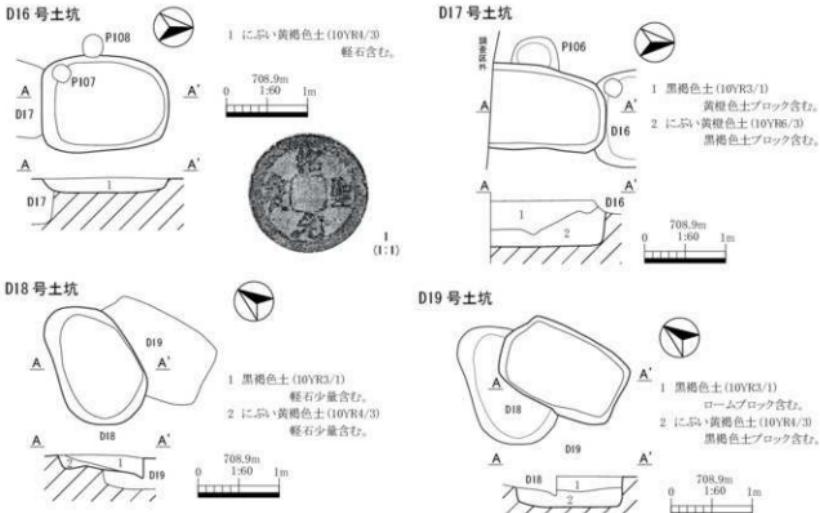
D15号土坑 (第32図) V-18グリッドに位置する。平面形は橢円形で、長軸1.63m、短軸0.95m、主軸はN-3°-Wである。検出面からの深さは0.34mで、断面はU字形だが、底面は平坦ではない。

D16号土坑 (第33図) V-23グリッドに位置し、D17号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸1.56m、短軸1.17m、主軸はN-2°-Wである。検出面からの深さは0.18mで、断面は逆台形である。埋土から銅錢が出土している。銅錢は昭聖元寶(北宋 1094年)である。

D17号土坑 (第33図) IX-3グリッドに位置し、D16号土坑より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸1.41m以上、短軸1.02m、主軸はN-5°-Eである。検出面からの深さは0.56mで、断面は逆台形である。

D18号土坑 (第33図) V-18グリッドに位置し、D19号土坑より古い。平面形は橢円形で、長軸1.58m、短軸0.97m、主軸はN-28°-Eである。検出面からの深さは0.18mで、断面は逆台形であるが底面が平坦ではない。

D19号土坑 (第33図) V-23グリッドに位置し、D18号土坑より古い。平面形は長方形で、長軸1.57m、短軸1.01m、主軸はN-62°-Wである。検出面からの深さは0.38mで、断面は逆台形である。

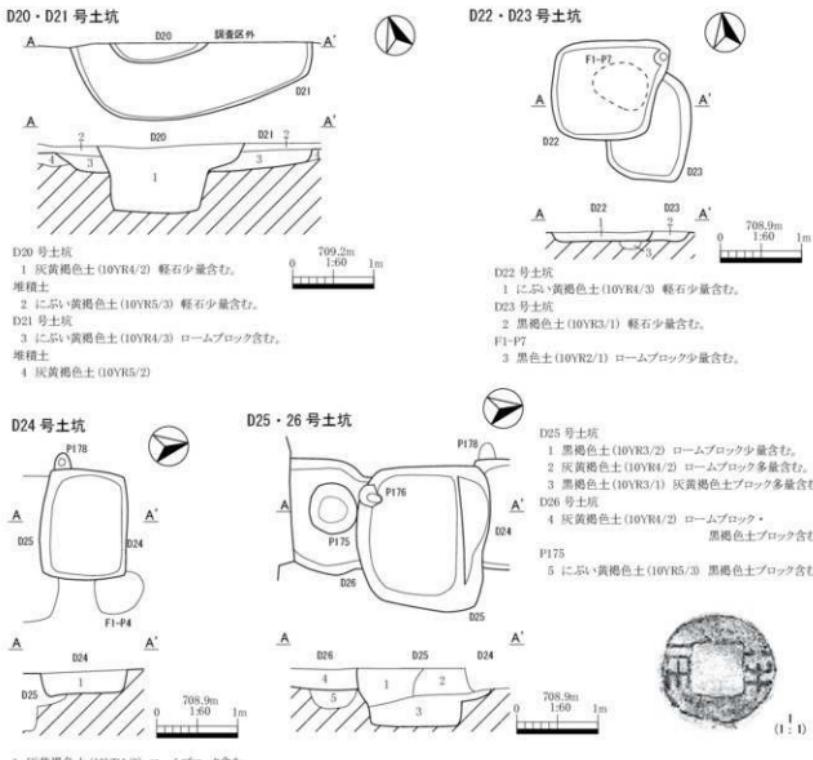


第33図 D16・D17・D18・D19号土坑遺構図

D20号土坑 (第34図) V-5グリッドに位置し、D21号土坑より新しい。ほとんどが調査区外に延びるため平面形は不明だが、断面図では東側にテラス状の段が確認できる。東西1.77m以上で、検出面からの深さは0.81mで、断面は逆台形である。

D21号土坑 (第34図) V-5グリッドに位置し、D20号土坑より古い。北側が調査区外に延びるため全容は不明である。東西2.78m、南北0.87m以上、主軸はN-8°-Eである。検出面からの深さは0.22mで、断面は浅いU字形である。

D22号土坑 (第34図) V-24グリッドに位置し、F1号掘立柱建物址・D23号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で長軸1.40m、短軸1.22m、主軸はN-98°-Eである。検出面からの深さは0.10mで、断面は逆台形である。



第34図 D20・D21・D22・D23・D24・D25・D26号土坑遺構図

D23号土坑（第34図）IX-4グリッドに位置し、D22号土坑より古い。平面形は隅丸方形で長軸1.33m、短軸0.97m、主軸はN-17°-Eである。検出面からの深さは0.12mで、断面は逆台形である。

D24号土坑（第34図）V-25・VI-21グリッドに位置し、D25号土坑より新しい。平面形は方形で長軸1.34m、短軸1.07m、主軸はN-77°-Wである。検出面からの深さは0.27mで、断面は逆台形である。

D25号土坑（第34図）V-25・VI-21グリッドに位置し、D26号土坑より新しく、D24号土坑より古い。平面形は隅丸方形で、北側がわずかに張出してテラス状の段を有する。長軸1.75m、短軸1.63m、主軸はN-79°-Wである。検出面からの深さは0.72mで、断面は逆台形である。

遺物は銅錢が出土している。中央右側に「半」、左側に「両」という二文字が配される。前漢代の半両銭（前175年）と考えられる。中世に他の銅錢と共に持ち込まれたものと考えられる。

D26号土坑（第34図）VI-21グリッドに位置し、P175より新しく、D25号土坑より古い。南側が調査区外に延び、北側がD25号土坑に切られるため全容は不明である。東西1.41m、南北0.81m以上、主軸はN-16°-Eである。検出面からの深さは0.25mで、断面は逆台形である。

D27号土坑（第35図）VI-16グリッドに位置し、P200より新しく、P198・P199より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸2.79m、短軸1.19m、主軸はN-75°-Wである。検出面からの深さは0.42mで、断面は逆台形である。

埋土から遺物が出土しており、1は灰釉陶器の碗である。9世紀後半の所産とみられるが、混入品と考えられる。

D28号土坑（第35図）V-15グリッドに位置し、D19・D34・D40号土坑より新しい。平面形は梢円形で、南側と東側にテラス状の段を有する。長軸2.33m、短軸1.57m、主軸はN-6°-Eである。検出面からの深さは0.54mで、断面は逆台形である。

埋土から須恵器が出土している。1は須恵器の有台杯であるが、混入品と考えられる。

D29号土坑（第35図）V-14グリッドに位置し、D18より古い。西側がD18号土坑に切られており全容は不明だが、東西0.74m以上、南北1.16mを測り、主軸はN-1°-Eである。検出面からの深さは0.24mで、断面は逆台形である。

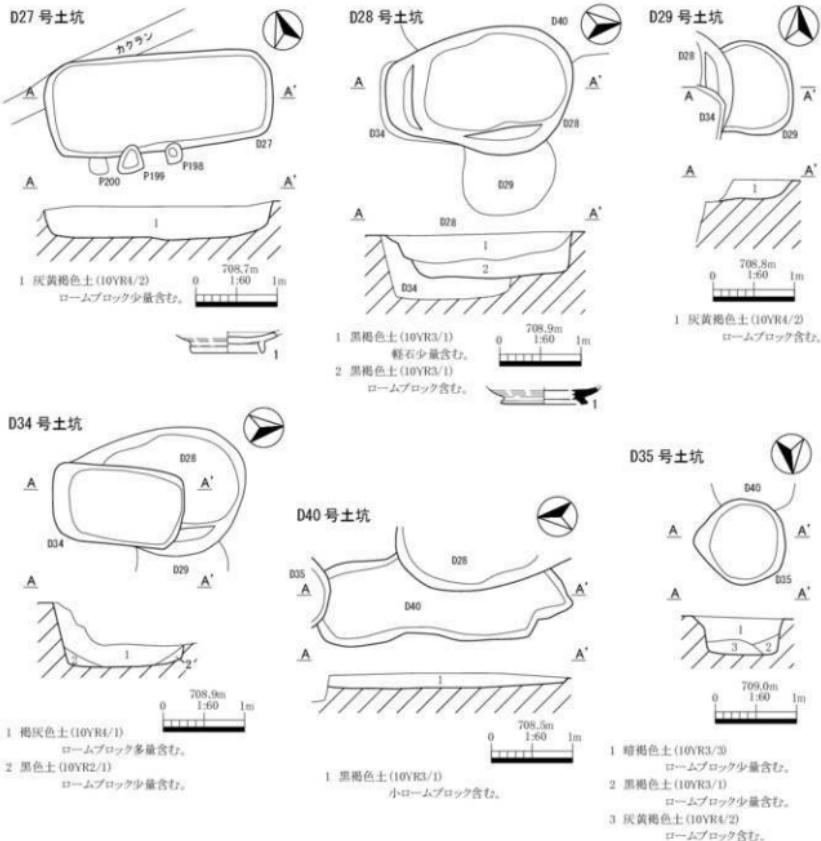
D30号土坑（第36図）VI-21グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、北側が張出した長方形であろうか。長軸1.25m以上、短軸1.19m、主軸はN-13°-Eである。検出面から底面までの深さは0.83mで、断面は逆台形である。

検出面から0.43mの深さで、厚さ10cm程度の灰と骨の堆積が認められた。これらは土坑中央部で面的に確認でき、その下部と北側張出し部では焼土も確認できる。骨灰層より下位の堆積は、ロームブロックを含むもので、人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は出土しなかった。

本址は中世以降の火葬墓と考えられるが、土坑を埋め戻し転用したものであろうか。

D31号土坑（第36図）V-20グリッドに位置し、D39号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸2.95m、短軸1.06m、主軸はN-83°-Eである。検出面から底面までの深さは0.49mで、断面は逆台形である。

D32号土坑（第36図）VI-11グリッドに位置し、D50・D51号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸1.83m、短軸1.46m、主軸はN-85°-Wである。検出面からの深さは0.49mで、断面は逆台形である。



第35図 D27・D28・D29・D34・D35・D40号土坑遺構図

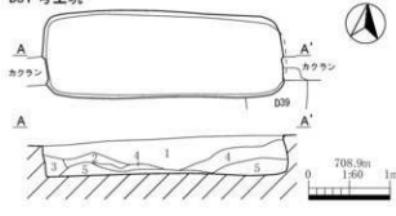
D33号土坑（第36図）VI-21グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.55m、短軸0.96m、主軸はN-73°-Wである。検出面で、土坑周辺に角縁が検出されており、本址に伴うものである可能性がある。検出面からの深さは0.21mで、断面は浅いU字形である。

D34号土坑（第35図）V-15グリッドに位置し、D28号土坑より古い。上部をD28号土坑に切られるが、隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸1.62m、短軸0.95m、主軸はN-11°-Eである。検出面からの深さは0.80mで、断面は逆台形である。

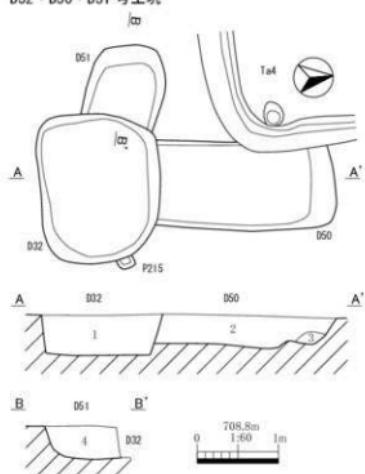
D30号土坑



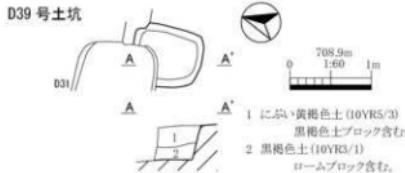
D31号土坑



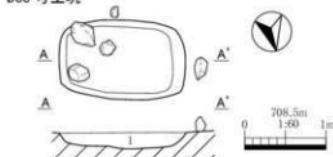
D32・D50・D51号土坑



D39号土坑



D33号土坑



D38号土坑



第36図 D30・D31・D32・D33・D38・D39・D50・D51号土坑遺構図

D35号土坑 (第35図) V-15グリッドに位置し、D40号土坑より新しい。平面形は不整円形で、長軸1.11m、短軸1.04m、主軸はN-82°-Wである。検出面からの深さは0.46mで、断面は逆台形である。

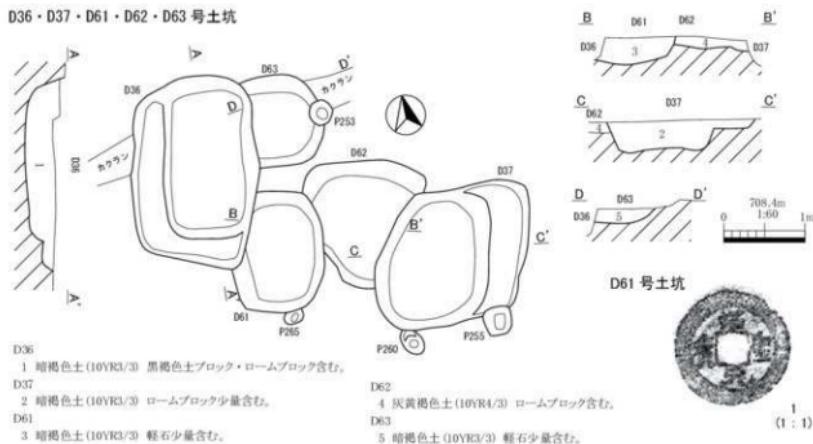
D36号土坑 (第37図) VI-17～23グリッドに位置し、D61・D63号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、南側から西側にテラス状の段を有する。長軸2.29m、短軸1.57m、主軸はN-13°-Eである。検出面からの深さは0.49mで、断面は逆台形である。

D37号土坑 (第37図) VI-22グリッドに位置し、D62号土坑・P260より新しく、P255より古い。平面形は不整方形で、東側にテラス状の段を有する。長軸1.84m、短軸1.68m、主軸はN-81°-Wである。検出面からの深さは0.39mで、断面は逆台形である。

D38号土坑 (第36図) VI-1グリッドに位置する。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、楕円形を呈すると考えられる。長軸0.98m以上、短軸0.89m、主軸はN-8°-Eである。検出面からの深さは1.34mで、断面は逆台形である。

D39号土坑 (第36図) V-19グリッドに位置し、D31号土坑より古い。一部がD31号土坑に切られるが、隅丸方形を呈すると考えられる。長軸0.86m、短軸0.74m、主軸はN-7°-Wである。検出面からの深さは0.41mで、断面は逆台形である。

D40号土坑 (第35図) V-15グリッドに位置し、D28・D35号土坑より古い。平面形は不整形で、長軸3.00m、短軸1.05m、主軸はN-5°-Wである。検出面からの深さは0.17mで、すり鉢状の浅い掘込みである。

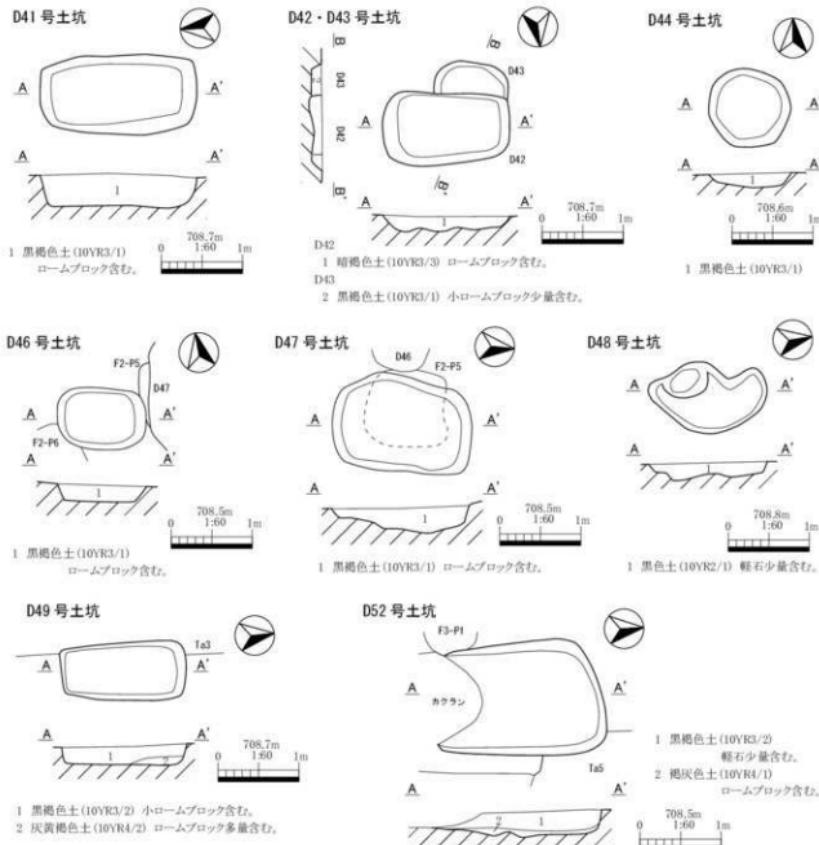


第37図 D36・D37・D61・D62・D63号土坑遺構図

D41号土坑 (第38図) VI-12 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.92m、短軸 0.99m、主軸は N-3° - E である。検出面からの深さは 0.41m で、断面は逆台形である。

D42号土坑 (第38図) VI-12 グリッドに位置し、D43号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.56m、短軸 0.88m、主軸は N-83° - W である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は浅いU字形だが底部は平坦ではない。

D43号土坑 (第38図) VI-12 グリッドに位置し、D42号土坑より古い。隅丸方形を呈すると考えられ、



第38図 D41・D42・D43・D44・D46・D47・D48・D49・D52号土坑遺構図

東西 0.91m、南北 0.38m 以上を測り、検出面からの深さは 0.12m で、断面は逆台形である。

D44 号土坑 (第 38 図) VI-17 グリッドに位置する。平面形は円形で、長軸 1.00m、短軸 0.96m である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は浅い U 字形である。

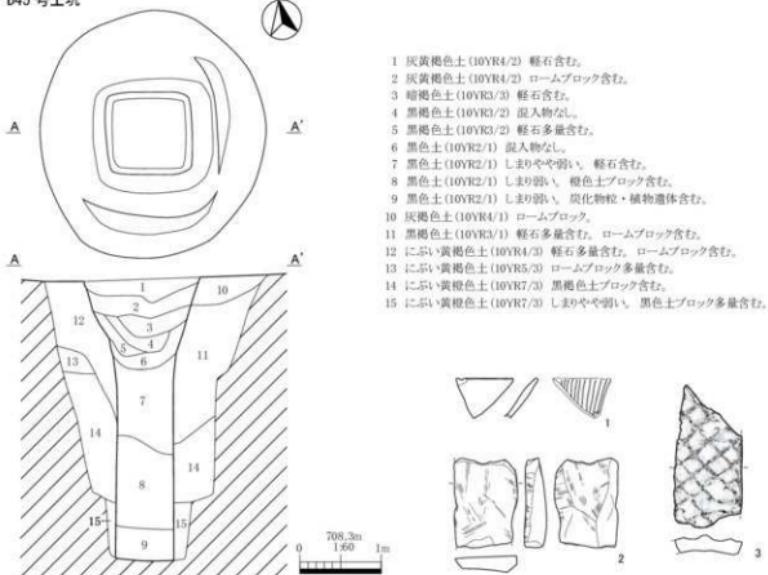
D45 号土坑 (第 39 図) VII-6・11 グリッドに位置する。検出時の平面形は円形で、長軸 3.05m、短軸 2.78m である。検出面から深さ 2.76m で段を有し、以下一辺 1.00m の方形を呈し、方形部分の深さは 0.70m である。検出面から 2m 程度の深さで湧水がみられた。堀方の形状や垂直に立上る土層堆積 (1~9 層) から、本址は井戸址と考えられ、方形の井戸枠が組まれていたものと考えられる。底面付近では腐食した板状の木材などの有機物も確認できた。

遺物は井戸枠内の埋土から、土器や平瓦などが出土しているが、いずれも混入品と考えられる。1 は土師器の碗であり、内面にはミガキによる暗文がみられる。2 は砥石である。3 は古代の平瓦であり、周辺の調査区で出土したものと同様のたたき目を有する。本址は、堀方の形状等から中世の所産と考えたい。

D46 号土坑 (第 38 図) VI-10 グリッドに位置し、F2 号掘立柱建物址より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.10m、短軸 0.70m、主軸は N-76° -W である。検出面からの深さは 0.21m で、断面は逆台形である。

D47 号土坑 (第 38 図) VI-9 グリッドに位置し、F2 号掘立柱建物址より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.72m、短軸 1.16m、主軸は N-3° -E である。検出面からの深さは 0.32m で、断面は浅い U 字形である。

D45 号土坑



第 39 図 D45 号土坑遺構図・遺物実測図

D48号土坑 (第38図) V-15グリッドに位置する。平面形は不定形で、長軸1.46m、短軸0.87m、主軸はN-7°-Eである。検出面からの深さは0.20mで、断面は浅いU字形であるが底面は平坦ではない。

D49号土坑 (第38図) VI-1グリッドに位置し、Ta3号竪穴状遺構より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸1.53m、短軸0.70m、主軸はN-8°-Eである。検出面からの深さは0.23mで、断面は逆台形である。

D50号土坑 (第36図) VI-6グリッドに位置し、Ta4号竪穴状遺構・D32号土坑より古い。平面形は隅丸長方形と考えられる。長軸2.13m以上、短軸1.07m、主軸はN-7°-Eである。検出面からの深さは0.38mで、断面は逆台形である。

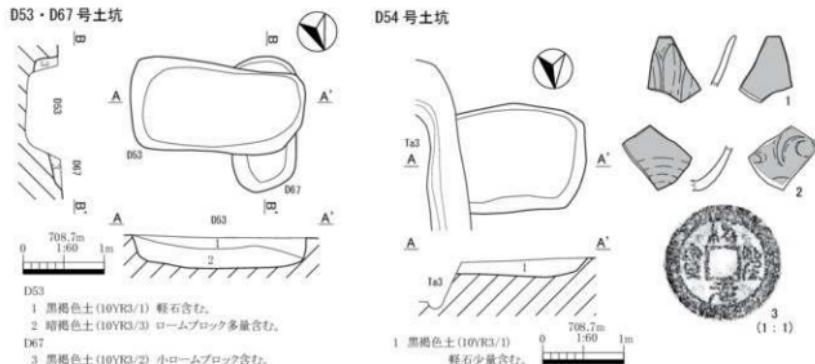
D51号土坑 (第36図) VI-11グリッドに位置し、D32号土坑より古い。隅丸方形を呈すると考えられ、東西0.90m以上、南北0.94mを測り、検出面からの深さは0.41mで、断面は逆台形である。

D52号土坑 (第38図) VI-5グリッドに位置し、Ta5号竪穴状遺構・F3号据立柱建物址より新しい。南側がカクランを受けており全容は不明だが、隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸1.98m以上、短軸1.38m、主軸はN-4°-Eである。検出面からの深さは0.29mで、断面は逆台形である。

D53号土坑 (第40図) VI-7グリッドに位置し、Ta4号竪穴状遺構・D67号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸2.14m、短軸1.07m、主軸はN-63°-Wである。検出面からの深さは0.38mで、断面は逆台形である。

D54号土坑 (第40図) VI-2グリッドに位置し、Ta3号竪穴状遺構より古い。平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸1.52m以上、短軸1.33m、主軸はN-85°-Wである。検出面からの深さは0.22mで、断面は逆台形である。

遺物は青磁と銅錢が出土している。1・2は青磁で、1は連弁碗である。2は碗で、内面に画文花が施される。3は銅錢で、紹聖元寶(北宋 1094年)である。D54号土坑は、13世紀～14世紀の所産と考えたい。



第40図 D53・D54・D67号土坑遺構図・遺物実測図

D55号土坑 (第41図) VI-19グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.17m、短軸1.13m、主軸はN-13°-Eである。検出面からの深さは0.36mで、断面は逆台形である。

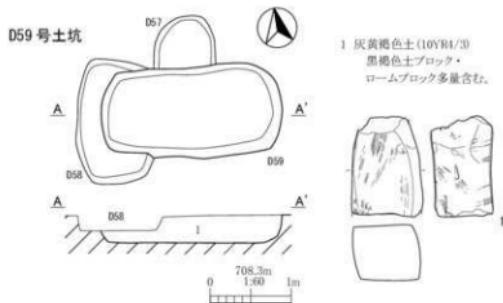
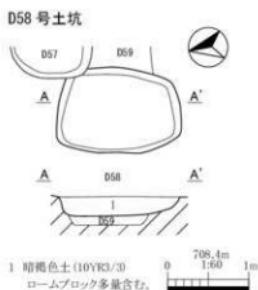
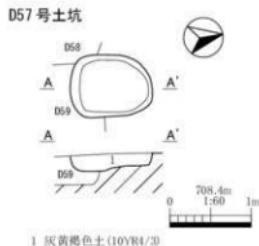
D56号土坑 (第41図) VI-19グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.37m、短軸0.94m、主軸はN-85°-Wである。検出面からの深さは0.19mで、断面は浅いU字形である。

D57号土坑 (第41図) VI-14グリッドに位置し、D58・D59号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸1.01m、短軸0.76m、主軸はN-10°-Eである。検出面からの深さは0.21mで、断面は逆台形である。

D58号土坑 (第41図) VI-14グリッドに位置し、D59号土坑より新しく、D57号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸1.50m、短軸1.05m、主軸はN-12°-Eである。検出面からの深さは0.25mで、断面は浅いU字形である。

D59号土坑 (第41図) VI-14グリッドに位置し、D57・D58号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸2.21m、短軸1.12m、主軸はN-81°-Wである。検出面からの深さは0.33mで、断面は逆台形である。遺物は、1の砥石が出土している。

D60号土坑 (第42図) VI-15グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸2.52m、短軸1.68m、主軸はN-81°-Wである。検出面からの深さは0.24mで、断面は逆台形である。



第41図 D55・D56・D57・D58・D59号土坑遺構図・遺物実測図

D61号土坑 (第37図) VI-22グリッドに位置し、D62号土坑・P265より新しく、D36号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸1.50m、短軸1.15m、主軸はN-9°-Eである。検出面からの深さは0.33mで、断面はU字形である。

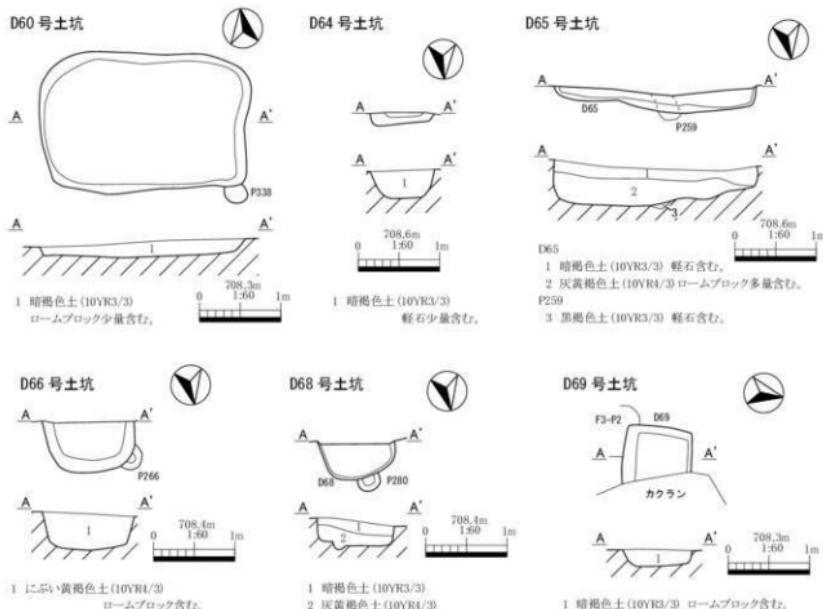
遺物は、1の銅鏡が出土している。紹聖元寶(北宋 1094年)である。

D62号土坑 (第37図) VI-22グリッドに位置し、D37・D61号土坑古い。平面形は不整形で、長軸1.58m、短軸1.48m、主軸はN-18°-Eである。検出面からの深さは0.13mで、断面は浅いU字形である。

D63号土坑 (第37図) VI-17グリッドに位置し、D36号土坑・P253古い。隅丸方形を呈すると考えられ、東西0.88m以上、南北1.12mを測る。検出面からの深さは0.18mで、断面は浅いU字形である。

D64号土坑 (第42図) VI-21グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西0.76m以上、検出面からの深さは0.37mを測る。断面は逆台形である。

D65号土坑 (第42図) VI-22グリッドに位置し、南側が調査区外に延びる。長軸2.44m以上、短軸0.27m以上、主軸はN-78°-Wである。検出面からの深さは0.55mで、断面は逆台形である。



第42図 D60・D64・D65・D66・D68・D69号土坑遺構図

D66号土坑（第42図）VI-7グリッドに位置し、P266より新しい。東西1.10m、南北0.62m以上、主軸はN-7°-Eである。検出面からの深さは0.45mで、断面は逆台形である。

D67号土坑（第40図）VI-23グリッドに位置し、D53号土坑より古い。平面形は橢円形で、長軸1.65m、短軸0.78m、主軸はN-23°-Wである。検出面からの深さは0.29mで、断面は逆台形である。

D68号土坑（第42図）VI-23グリッドに位置し、P280より新しい。東西0.90m、南北0.53m以上、主軸はN-7°-Wである。検出面からの深さは0.38mで、断面は逆台形である。

D69号土坑（第42図）VI-5グリッドに位置し、F3号掘立柱建物址より新しい。長方形を呈すると考えられ、東西0.65m以上、南北0.85m、主軸はN-81°-Eである。検出面からの深さは0.26mで、断面は逆台形である。

D70号土坑（第10図）I-13グリッドに位置し、H9号住居址より新しい。隅丸長方形を呈すると考えられ、東西1.34m、南北1.04m以上、主軸はN-3°-Eである。検出面からの深さは0.43mで、断面は逆台形である。

D71号土坑（第43図）VII-4グリッドに位置し、H12号住居址・D80号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸2.32m、短軸1.22m、主軸はN-12°-Wである。検出面からの深さは0.14mだが、上部は削平されているため本来の掘込みはさらに深い。中央部では、底面上で角縁が検出された。

遺物は、須恵器の四耳壺が出土している。本址の時期については、形状や切合い関係から、中世の所産と考えられ、須恵器四耳壺は体部のみ転用されたものと考えられる。

D72号土坑（第43図）VII-9グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.89m、短軸1.18m、主軸はN-11°-Eである。検出面からの深さは0.29mで、断面は逆台形である。

D73号土坑（第43図）VII-19グリッドに位置する。平面形は不整円形で、東側にテラス状の段を有する。長軸2.07m、短軸2.05m、検出面からの深さは0.29mで、断面は逆台形である。

D74号土坑（第43図）VII-19グリッドに位置する。平面形は不整形で、長軸1.86m、短軸1.28m、主軸はN-9°-Eである。検出面からの深さは0.14mで、断面は浅いU字形だが底面は平坦ではない。

D75号土坑（第43図）VII-2グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸2.88m、短軸1.74m、主軸はN-1°-Eである。検出面からの深さは0.19mで、断面は逆台形である。

遺物は銅錢が出土している。1は、熙寧元寶（北宋 1068年）である。

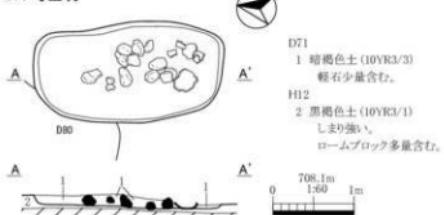
D76号土坑（第44図）III-23グリッドに位置し、D77号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸1.44m、短軸0.84m、主軸はN-78°-Eである。検出面からの深さは0.43mで、断面は逆台形である。

D77号土坑（第44図）III-23グリッドに位置し、P381より新しく、D76号土坑より古い。平面形は円形で、東西1.10m、南北1.08m、検出面からの深さは0.13mで、断面は浅いU字形である。

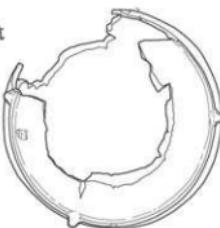
D78号土坑（第44図）III-22グリッドに位置し、D79号土坑より新しい。平面形は長方形で、長軸1.55m、短軸0.82m、主軸はN-0°-Eである。検出面からの深さは0.26mで、断面は逆台形である。

遺物は銅錢が出土している。1は右側が欠損しているが、景□口寶と読める。

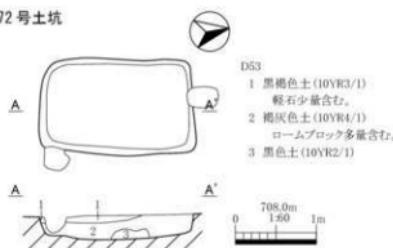
D71号土坑



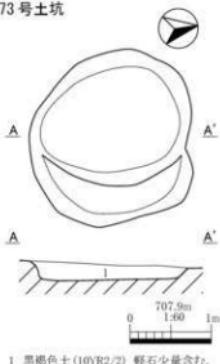
D71号土坑



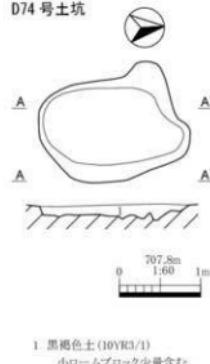
D72号土坑



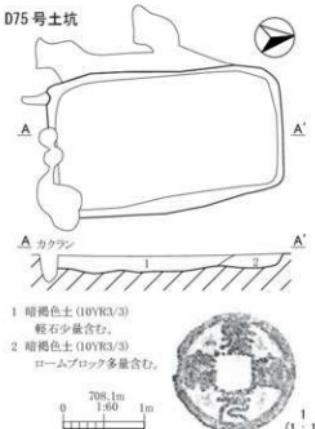
D73号土坑



D74号土坑

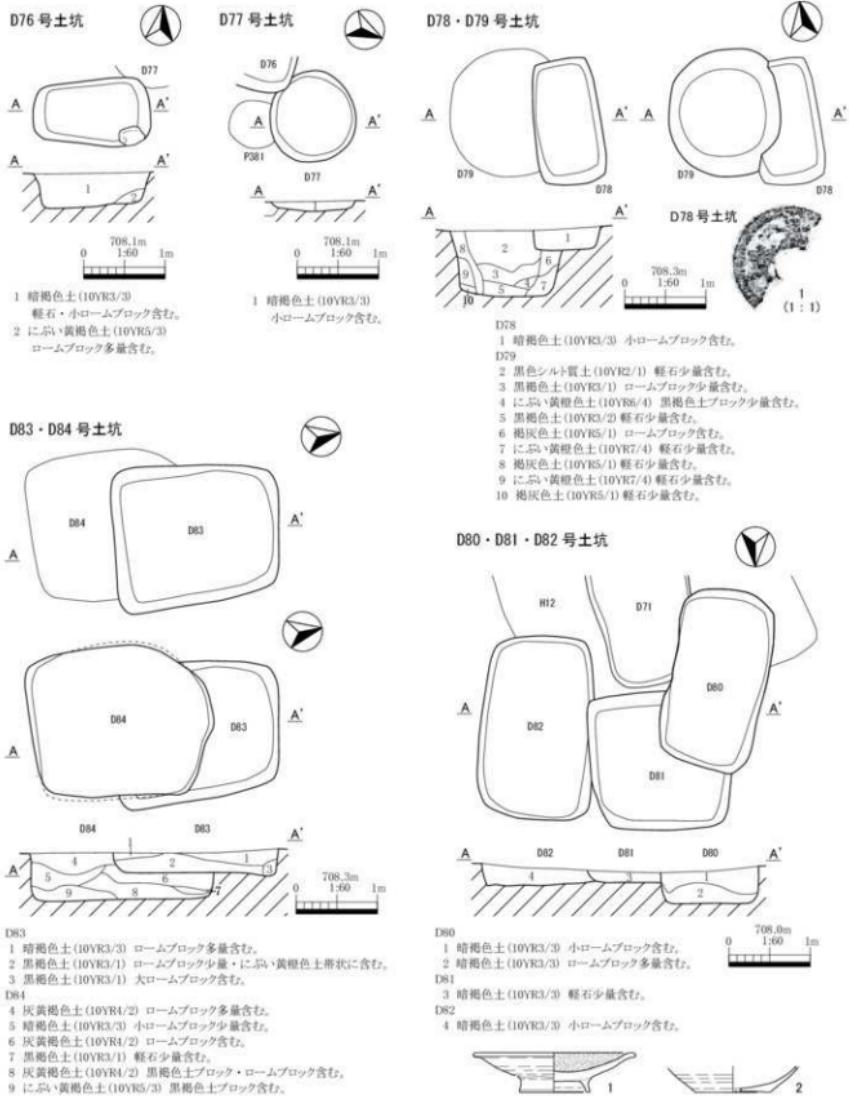


D75号土坑



第43図 D71・D72・D73・D74・D75号土坑遺構図・遺物実測図

D79号土坑（第44図）III-22グリッドに位置し、D78号土坑より古い。平面形は円形で、東西1.38m、南北1.56mである。検出面からの深さは0.81mで、断面は逆台形である。



第44図 D76・D77・D78・D79・D80・D81・D82・D83・D84号土坑遺構図・遺物実測図

D80号土坑 (第44図) VII-4グリッドに位置し、H12号住居址・D81号土坑より新しく、D71号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸2.19m、短軸1.18m、主軸はN-11°-Eである。検出面からの深さは0.39mで、断面は逆台形である。

遺物は土師器が出土している。1は土師器の皿で、内面黒色処理が施される。2は土師器の壺である。いずれもH12号住居址からの混入と考えられる。

D81号土坑 (第44図) VII-4グリッドに位置し、H12号住居址・D82号土坑より新しく、D80号土坑より古い。平面形は隅丸方形で、東西1.70m、東西1.69m、主軸はN-0°-Eである。検出面からの深さは0.13mで、断面は逆台形である。

D82号土坑 (第44図) VII-4グリッドに位置し、H12号住居址より新しく、D81号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸2.26m、短軸1.35m、主軸はN-6°-Eである。検出面からの深さは0.22mで、断面は逆台形である。

D83号土坑 (第44図) VII-1グリッドに位置し、D84号土坑より古い。平面形は長方形で、長軸2.02m、短軸1.70m、主軸はN-9°-Eである。検出面からの深さは0.33mで、断面は逆台形である。

D84号土坑 (第44図) VII-1グリッドに位置し、D83号土坑より古い。平面形は不整方形で、長軸2.24m、短軸1.83m、主軸はN-6°-Eである。検出面からの深さは0.58mで、断面はフラスコ状である。

D85号土坑 (第45図) VII-5グリッドに位置し、D86号土坑より新しい。平面形は楕円形で、長軸1.08m、短軸1.03m、主軸はN-21°-Eである。検出面からの深さは0.18mで、断面は逆台形である。

D86号土坑 (第45図) VII-5グリッドに位置し、D87号土坑より新しく、D85号土坑より古い。平面形は隅丸方形で、長軸1.66m、短軸1.06m、主軸はN-83°-Eである。検出面からの深さは0.22mで、断面は浅いU字形だが、底面は平坦ではない。

D87号土坑 (第45図) VII-5グリッドに位置し、D86号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、北東側にテラス状の段を有する。長軸2.10m、短軸1.77m、主軸はN-3°-Wである。検出面からの深さは0.27mで、断面は逆台形である。

D88号土坑 (第45図) IV-22グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸1.30m、短軸1.08m、主軸はN-3°-Eである。検出面からの深さは0.13mで、断面は浅いU字形である。

D89号土坑 (第45図) VII-24グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.43m、短軸1.02m、主軸はN-84°-Wである。検出面からの深さは0.82mで、断面は逆台形である。

D90号土坑 (第46図) XI-4グリッドに位置し、D91号土坑より新しい。平面形は楕円形で、長軸1.71m、短軸1.39m、主軸はN-22°-Wである。検出面からの深さは0.50mで、断面は逆台形である。

D91号土坑 (第46図) XI-4グリッドに位置し、D90号土坑より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西2.03m、南北0.88m以上の規模を有する。検出面からの深さは0.63mで、断面は段を持ったU字形である。埋土からは角礫が検出される。

D92号土坑 (第46図) XI-4 グリッドに位置し、D91号土坑より古い。平面形は橢円形で、長軸 1.26m、短軸 0.98m、主軸は N-12°-E である。検出面からの深さは 0.30m で、断面は U 字形である。

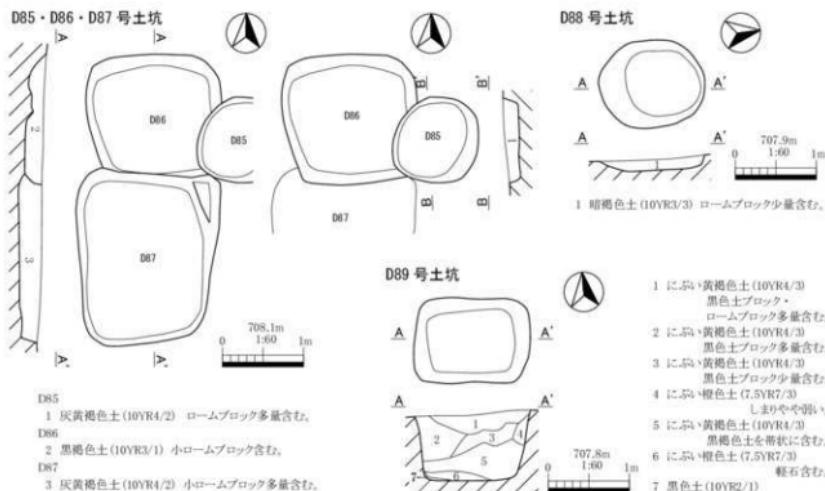
D93号土坑 (第46図) VII-25 グリッドに位置する。平面形は円形で、東西 1.04m、南北 1.08m を測る。検出面からの深さは 0.30m で、断面は逆台形である。

D95号土坑 (第20図) II-22 グリッドに位置し、D97・D99号土坑より新しい。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南側が地下で Ta3号堅穴状遺構と繋がっており、一連の遺構と考えられる。

D96号土坑 (第46図) III-20 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.54m、短軸 1.08m、主軸は N-89°-W である。検出面からの深さは 0.14m で、断面は逆台形である。

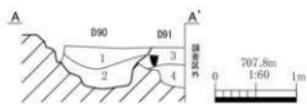
D97号土坑 (第46図) II-22 グリッドに位置し、D95号土坑より古い。北側と西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南側にテラス状の段を有し、東西 0.72m 以上、南北 1.21m 以上の規模を有する。検出面からの深さは 0.67m で、断面は逆台形である。

D98号土坑 (第46図) XI-4 グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 0.93m 以上、南北 0.26m 以上の規模を有する。検出面からの深さは 0.45m で、断面は U 字形である。



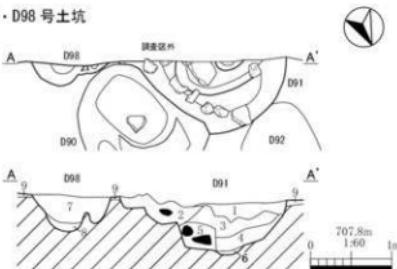
第45図 D85・D86・D87・D88・D89号土坑遺構図

D99号土坑 (第20図) II-21グリッドに位置し、D95号土坑より古い。南端部分のみの検出であつたため、底面は未検出である。東西1.54m以上の規模を有し、検出面からの深さは0.40m以上である。



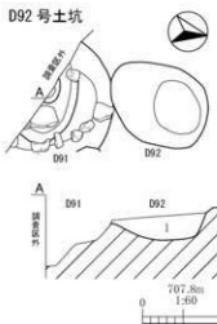
- D90
1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック多量含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック少量含む。
D91
3 黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロック含む。
4 黒色土(10YR2/1) ロームブロック多量含む。

D91・D98号土坑

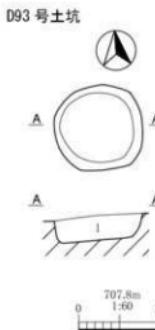


- D91
1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック多量含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) 小ロームブロック含む。
3 黒色土(10YR2/1) ロームブロック含む。
4 黑色土(10YR2/1) ロームブロック少量含む。
5 黑褐色土(10YR2/1) ロームブロック多量含む。
6 灰白色土(10YR8/1) しわやや弱い。

- D98
7 黑褐色土(10YR3/1) 小ロームブロック含む。
8 にらい褐色土(7.5YR7/4) 脊石含む。しまりやや弱い。
堆積土
9 黑褐色土(10YR3/2) 脊石少量含む。



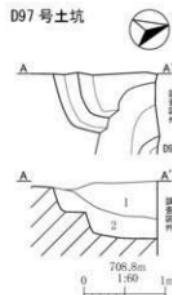
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)
ロームブロック・黒褐色土ブロック含む。



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)
小ロームブロック多量含む。



- 1 黑褐色土(10YR3/2)
軽石・小ロームブロック少量含む。



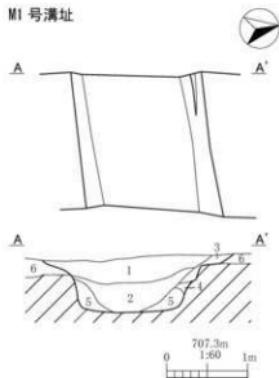
- 1 黑褐色土(10YR3/3)
ロームブロック多量含む。
2 黑褐色土(10YR3/3)
ロームブロック少量含む。

第46図 D90・D91・D92・D93・D96・D97・D98号土坑遺構図

第5節 溝址

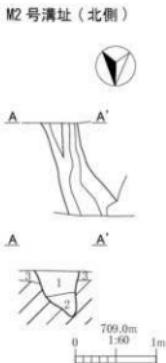
M1号溝址 (第47図) XII-4グリッドに位置し、東西両側が調査区外に延びる。長さ1.64m以上、幅1.60mを測り、主軸はN-88°-Wである。検出面からの深さは0.67mで、断面は下部は逆台形で、上部は緩やかに開きながら立上る。他の方形の土坑とは、堆積状況が異なるため、溝址と判断した。遺物は出土していないが、主軸方向や形状から、中世の区画溝である可能性が考えられる。

M1号溝址



- 1 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強い。
- 3 黑褐色土(10YR3/1) ロームブロック含む。
- 4 にじみ褐色土(7.5YR6/3) 黒色土ブロック含む。
- 5 黒色土(10YR2/1) ロームブロック少量含む。
- 6 黒色土(10YR2/1) 軽石含む。

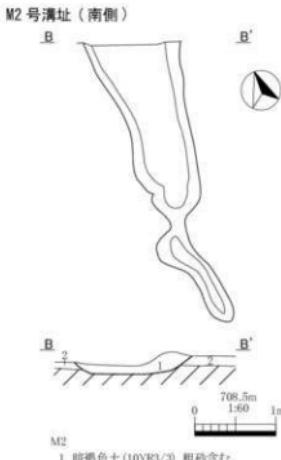
M2号溝址（北側）



M2

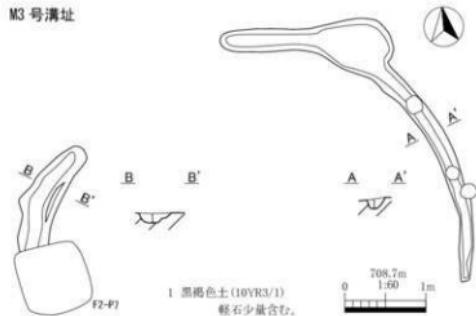
- 1 浅黄褐色土(7.5YR8/6)
しまり弱い粗砂。
- 2 橙色土(7.5YR7/6) 砂含む。
堆積層
- 3 深黄褐色土(10YR4/2)
軽石含む。

M2号溝址（南側）



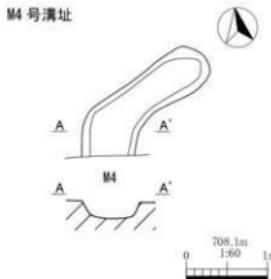
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 粗砂含む。
堆積層
- 2 黑褐色土(10YR3/1) 軽石含む。

M3号溝址



- 1 黑褐色土(10YR3/1)
軽石少量含む。

M4号溝址



- 1 708.1m
1:60
1m

第47図 M1・M2・M3・M4号溝址遺構図

M2号溝址（第47図）III-9グリッドとIII-14グリッドにおいて検出された溝址であるが、同一遺構と考えられる。北側部分は長さ1.20m、幅0.36～0.58m、深さ0.55m、主軸はN=18°-Wである。南側部分は長さ3.60m、幅0.18～1.10m、深さ0.24m、主軸はN=2°-Eである。いずれも平面・断面とも不整形で、埋土に多量の粗砂を含んでいることから、自然流路と考えられる。弥生土器や須恵器の小破片が出土しているが混入品と考えられ、本址は中世以降の所産と考えられる。

M3号溝址（第47図）VI-8グリッドに位置し、東西5.60m、南北3.37mの規模で半円形に湾曲する溝址である。検出面からの深さは10cm程度と浅く、遺物は出土していない。平面形から、円形周溝墓の可能性も考えられるが、主体部は確認できなかった。

M4号溝址（第47図）III-24グリッドに位置し、D82号土坑より古い。長さ1.78m、幅0.47m～0.68m、深さ0.20mを測る。遺物が出土していないため、時期は不明である。

第6節 ピット

建物址に付随するものを除き、451基のピットが検出された。ピットは調査区全域に分布しており、弥生時代から中世までの所産と考えられる。各ピットの詳細はピット一覧表（第2表～第6表）に示す。

遺構名	グリッド	法面(m)	長径	短径	深さ	埋土	新旧関係・出土遺物
P1	XII-6	0.54	(0.40)	0.40	黒色土(10VR2/1)		
P2	VII-18	0.40	(0.20)	0.30	黒色土(10VR2/1)		
P3	VII-18	0.30	(0.20)	0.20	黒色土(10VR2/1)		
P4	VII-15	0.60	0.50	0.23	黒色土(10VR2/1)		
P5	VII-10	0.94	0.66	0.08	黒色土(10VR2/1)		
P6	VII-10	0.44	0.40	0.10	黒色土(10VR2/1)		
P7	VII-5	(0.26)	0.60	0.40	1:黒色土(10VR2/1) 2:黒褐色土(10VR3/1)		
P8	IV-24	0.30	0.28	0.15	黒色土(10VR2/1)		
P9	IV-19	0.34	0.34	0.10	黒色土(10VR2/1)		
P10	IV-19	0.38	0.36	0.12	黒色土(10VR2/1)		
P11	IV-19	(1.06)	0.46	0.16	黒色土(10VR2/1)		
P12	IV-19	0.60	0.48	0.16	黒褐色土(10VR3/1)		
P13	IV-19	(0.54)	0.40	0.22	黒褐色土(10VR3/1)		
P14	IV-8	(0.68)	0.54	0.11	黒色土(10VR2/1)	P15より新	
P15	IV-8	0.34	0.32	0.16	黒褐色土(10VR3/1)	P15より新	
P16	IV-8	0.40	(0.36)	0.12	黒褐色土(10VR3/1)	P16より古	
P18	IV-8	0.40	(0.36)	0.15	1:黒褐色土(10VR4/2) 2:黒褐色土(10VR4/3)		
P19	IV-7	0.14	0.12	0.05	黒色土(10VR2/1)		
P20	IV-7	0.30	0.26	0.15	黒褐色土(10VR3/1)		
P21	IV-7	0.36	0.30	0.20	1:黒褐色土(10VR4/3)		
P22	IV-7	0.32	0.22	0.24	黒色土(10VR2/1)		
P23	IV-7	0.28	0.20	0.26	黒色土(10VR2/1)		
P24	IV-6	0.54	0.40	0.20	1:黒褐色土(10VR4/3) 須恵器		
P25	IV-6	0.10	0.10	0.20	黒色土(10VR2/1)		
P26	IV-6	0.50	0.46	0.22	黒褐色土(10VR3/1)		
P27	IV-6	0.90	(0.34)	0.30	黒褐色土(10VR3/1)		
P28	IV-6	1.06	(0.26)	0.29	黒褐色土(10VR3/1)	D4.1より古	

第2表 ピット一覧表1

遺構名	グリッド	測量(m)	長径	幅	深さ	堆土	新旧関係・出土遺物
P56	II-10	0.20	(0.16)	0.22	黒褐色土(10VR2/1)	P48より古	
P57	II-10	0.20	0.07	黒褐色土(10VR3/1)			
P58	II-10	0.24	0.16	0.08	黒褐色土(10VR3/1)		
P59	II-10	0.40	0.30	0.15	黒褐色土(10VR3/1)		
P60	II-10	0.26	0.26	0.10	黒褐色土(10VR3/1)		
P61	II-10	0.24	0.22	0.16	黒褐色土(10VR3/1)		
P62	II-9	0.26	0.12	0.09	黒褐色土(10VR3/1)		
P63	II-5	0.34	(0.26)	0.22	黒褐色土(10VR3/1)		
P65	II-10	0.36	(0.26)	0.64	1; 黑褐色土(10VR3/1) 2; 暗褐色土(10VR4/1) 3; 黑褐色土(10VR3/1)	土削器	
P66	II-10	0.44	0.34	0.20	黒褐色土(10VR3/1)		
P67	II-9	0.22	0.16	0.12	黒褐色土(10VR3/1)		
P68	II-9	(0.30)	0.30	0.12	黒褐色土(10VR3/1)		
P69	II-9	0.30	(0.20)	0.05	黒褐色土(10VR3/1)		
P70	II-8	0.32	0.28	0.14	黒褐色土(10VR3/1)		
P71	II-8	(0.22)	0.16	0.13	黒褐色土(10VR3/1)		
P72	II-8	0.28	(0.24)	0.14	黒褐色土(10VR3/1)		
P73	II-8	0.30	(0.26)	0.41	黒褐色土(10VR3/1)		
P74	XI-15	0.50	0.40	0.46	黒褐色土(10VR3/1)	H1上り新 発見部 土削器	
P75	XI-15	(0.30)	(0.40)	0.46	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新 P92上方	
P76	XI-15	0.36	(0.22)	0.20	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新 P92下方	
P77	XI-15	0.24	(0.14)	0.50	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新 P78上方	
P78	XI-15	0.44	0.28	0.56	黒褐色土(10VR3/1)	H1-P77上り新	
P79	XI-15	0.26	0.26	0.47	黒褐色土(10VR3/1)	H1-P90上り新	
P80	XI-15	0.24	0.22	0.36	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新 P79上方	
P81	XI-15	0.34	(0.26)	0.41	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新 P81上方	
P82	XI-15	0.32	(0.26)	0.44	黒褐色土(10VR3/1)	H1-P72 P81上り新	
P83	XI-15	0.28	0.26	0.37	黒褐色土(10VR3/1)	H1-12上り新	
P84	XII-11	0.36	0.36	0.31	黒褐色土(10VR3/1)	H22上り新	
P85	XII-11	0.30	0.32	0.42	黒褐色土(10VR3/1)	H22上り新	
P86	XII-11	0.34	0.24	0.42	黒褐色土(10VR3/1)	H22上り新	
P87	XII-11	0.36	0.32	0.32	黒褐色土(10VR3/1)	H22上り新	
P88	XI-15	0.30	(0.10)	0.35	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新	
P89	XI-15	(0.34)	(0.26)	0.26	黒褐色土(10VR3/1)	H1-P75 P82上り新 L86段	
P90	XI-15	0.24	0.20	0.21	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新	
P92	II-6	0.46	0.18	0.48	暗褐色土(10VR3/30)	H12上り新	
P93	I-10	0.16	0.14	0.32	黒褐色土(10VR3/1)	H12上り新	
P94	I-10	0.28	(0.22)	0.26	暗褐色土(10VR3/30)	土削器	
P95	I-10	0.34	0.22	0.36	黒褐色土(10VR3/1)	H4より新	
P96	I-10	0.22	0.20	0.24	1; 黑褐色土(10VR3/1) 2; にぶく 黄褐色土(10VR4/20)	H4上り新	
P97	I-10	0.30	(0.14)	0.31	黒褐色土(10VR3/1)	H4上り新	
P98	IX-2	0.70	(0.46)	0.32	黒褐色土(10VR3/1)	土削器	
P100	V-23	0.28	0.24	0.24	黒褐色土(10VR3/1)	D10より古	
P101	IV-3	0.32	0.50	0.31	黒褐色土(10VR3/1-2/2)		
P102	IX-3	0.80	0.62	0.27	黒褐色土(10VR3/1)	P134より古 発見部	
P103	IV-3	0.84	0.64	0.36	褐褐色土(10VR4/1)	弥生上部・須恵器	
P104	IX-3	0.22	0.39	0.36	褐灰色土(10VR4/1)		
P105	IV-3	0.40	0.36	0.36	黑褐色土(10VR3/1)		
P107	V-23	0.22	0.20	0.20	褐灰色土(10VR4/1)	D16より古	
P108	V-24	0.28	0.36	0.20	褐灰色土(10VR4/1)	D16より新	
P109	V-23	0.30	0.26	0.16	黑褐色土(10VR3/1)		
P110	V-23	0.22	0.20	0.22	褐灰色土(10VR4/1)	P11より新	
P111	V-23	0.60	0.44	0.30	黑褐色土(10VR3/1)	P110より古 須恵器	
P112	V-22	0.24	0.15	0.26	黒褐色土(10VR3/1)		
P115	V-17	0.50	0.50	0.56	黑褐色土(10VR3/1)	土削器	
P116	V-17	0.62	0.60	0.14	褐褐色土(10VR3/1)	弥生上部	
P117	V-17	0.64	0.56	0.36	黑褐色土(10VR3/1)	弥生上部	
P118	V-17	0.40	0.36	0.07	黑褐色土(10VR3/1)		
P119	V-12	0.36	0.24	0.20	黑褐色土(10VR3/1)		
P120	V-12	0.62	0.50	0.20	黑褐色土(10VR3/1)	P121より古	
P121	V-12	0.52	0.50	0.28	黑褐色土(10VR3/1)	P120より新	
P122	V-12	0.76	0.60	0.16	黑褐色土(10VR3/1)		
P123	V-23	0.24	0.22	0.16	黑褐色土(10VR3/1)		
P124	V-23	0.22	0.18	0.26	黒褐色土(10VR3/1)		
P125	V-24	0.54	0.54	0.20	1; 梅原瓦(10VR4/1) 2; 黑褐色土(10VR3/1)	円窓	
P126	V-24	0.22	0.20	0.38	黒褐色土(10VR3/1)		
P127	V-24	0.38	0.32	0.47	黑褐色土(10VR3/1)	瓶	
P128	V-24	0.26	0.26	0.32	黒褐色土(10VR3/1)		
P129	V-19	0.62	0.52	0.12	褐灰色土(10VR4/1)		
P130	V-14	0.26	0.26	0.13	黒褐色土(10VR3/1)		
P131	V-14	0.66	0.60	0.60	黑褐色土(10VR3/1)		
P132	V-14	1.04	1.00	0.34	黒褐色土(10VR3/1)	弥生上部	
P133	V-14	0.62	0.50	0.15	黒褐色土(10VR3/1)		
P134	IX-3	0.30	0.18	0.24	黒褐色土(10VR3/1)	P182より新	
P137	IV-2	0.80	(0.66)	0.30	黑褐色土(10VR3/1)	D16より古 須恵器	
P138	V-25	0.80	0.60	0.20	黒褐色土(10VR3/1)	P1-P3より新	
P139	V-14	0.18	0.12	0.12	褐褐色土(10VR3/3)		
P140	V-19	0.20	0.16	0.08	黒褐色土(10VR3/1)		
P141	V-13	0.42	0.34	0.10	暗褐色土(10VR3/3)		
P142	V-14	0.18	0.18	0.08	暗褐色土(10VR3/3)		
P143	V-22	0.18	0.16	0.28	黒褐色土(10VR3/1)		
P144	V-22	0.22	0.20	0.22	暗褐色土(10VR3/3)		
P145	IX-4	0.68	0.44	0.20	暗褐色土(10VR3/3)		
P146	V-25	0.20	0.18	0.38	暗褐色土(10VR3/3)		
P147	V-24	0.90	0.78	0.12	暗褐色土(10VR3/3)	P181-P182-P187より古 土削器	
P148	V-24	0.26	0.24	0.08	暗褐色土(10VR3/3)		
P149	V-25	0.22	0.20	0.12	暗褐色土(10VR3/3)		
P150	V-25	0.36	0.32	0.20	暗褐色土(10VR3/3)		
P151	V-25	0.30	0.26	0.38	暗褐色土(10VR3/3)		
P152	V-25	0.52	0.24	0.36	1; 褐褐色土(10VR3/3) 2; にぶく 黑褐色土(10VR7/30)		
P153	V-25	0.22	0.18	0.06	にぶく 黄褐色土(10VR8/30)		
P154	V-25	0.34	0.30	0.28	暗褐色土(10VR3/3)		

第3表 ピット一覧表2

遺構名	グリッド	高さ(m)	幅員	深さ	堆土	新田開拓・出土遺物	遺構名	グリッド	高さ(m)	幅員	深さ	堆土	新田開拓・出土遺物
P155	V-25	0.32	0.22	0.22	黒褐色土(10VR3/1)		P204	VI-16	0.29	0.22	0.32	暗褐色土(10VR3/3)	
P156	V-25	0.26	0.24	0.32	暗褐色土(10VR3/3)		P205	VI-16	0.59	0.32	0.23	黒褐色土(10VR3/1)	
P157	V-25	0.24	0.20	0.30	暗褐色土(10VR3/3)		P206	VI-16	0.24	0.22	0.07	暗褐色土(10VR3/3)	
P158	V-20	0.18	0.18	0.16	暗褐色土(10VR3/3)		P207	VI-16	0.26	0.22	0.08	暗褐色土(10VR3/3)	
P159	V-20	0.34	0.30	0.17	暗褐色土(10VR3/3)		P208	VI-16	0.30	0.24	0.28	暗褐色土(10VR3/3)	
P160	V-19	0.22	0.22	0.28	暗褐色土(10VR3/3)		P209	VI-16	0.30	0.22	0.23	暗褐色土(10VR3/3)	
P161	V-14	0.62	0.40	0.12	暗褐色土(10VR3/3)		P210	VI-17	0.44	0.26	0.38	暗褐色土(10VR3/3)	
P162	V-15	0.34	0.34	0.16	暗褐色土(10VR3/3)		P211	VI-12	0.32	0.24	0.32	暗褐色土(10VR3/3)	
P163	V-9	0.44	0.30	0.12	暗褐色土(10VR3/3)		P212	VI-11	0.34	0.32	0.18	暗褐色土(10VR3/3)	
P164	V-10	0.26	0.22	0.16	暗褐色土(10VR3/3)		P213	VI-11	0.22	0.20	0.06	黒褐色土(10VR3/1)	
P165	V-10	0.46	0.44	0.10	暗褐色土(10VR3/3)		P214	VI-6	0.34	0.26	0.09	暗褐色土(10VR3/3)	
P166	V-10	0.70	0.38	0.22	暗褐色土(10VR3/3)		P215	VI-11	0.20	0.14	0.20	黒褐色土(10VR3/1)	D32より古
P167	V-10	0.30	0.26	0.48	暗褐色土(10VR3/3)		P216	V-23	0.29	0.18	0.20	黒褐色土(10VR3/2)	
P168	V-5	0.60	0.44	0.22	黒褐色土(10VR3/1)		P217	IX-4	0.24	0.20	0.24	暗褐色土(10VR3/3)	
P169	V-10	1.00	0.60	0.12	暗褐色土(10VR3/3)	P170より新	P218	V-24	0.39	0.24	0.50	暗褐色土(10VR3/3)	
P170	V-10	0.18	0.18	0.16	暗褐色土(10VR3/3)	P169より古	P219	V-19	0.18	0.18	0.11	暗褐色土(10VR3/3)	
P171	V-10	0.20	0.18	0.06	暗褐色土(10VR3/3)		P220	V-19	0.18	0.14	0.14	暗褐色土(10VR3/3)	
P172	V-10	0.38	0.30	0.07	暗褐色土(10VR3/3)		P221	VI-12	0.60	0.50	0.38	1:暗褐色土(10VR3/3) 2:黒褐色土(10VR3/1)	発生土器 土器部
P173	VI-11	0.42	0.34	0.24	黒褐色土(10VR3/1)		P222	VI-12	0.38	0.22	0.24	黒褐色土(10VR3/1)	
P174	V-25	0.66	0.56	0.33	1:黒褐色土(10VR3/1) 2:暗褐色土(10VR3/3)	瓶底器	P223	VI-12	0.68	0.66	0.12	暗褐色土(10VR3/3)	
P175	VI-21	0.62	0.23	0.23	△合: 黄褐色土(10VR5/3)	D26より古	P224	VI-17	0.24	0.24	0.10	暗褐色土(10VR3/3)	
P176	VI-21	0.30	0.30	0.36	暗褐色土(10VR3/3)	D25より古	P225	VI-17	0.68	0.48	0.32	黒褐色土(10VR3/2)	新器
P177	VI-21	0.22	0.20	0.27	暗褐色土(10VR3/3)		P226	VI-17	0.26	0.22	0.22	暗褐色土(10VR3/3)	
P178	VI-21	0.30	0.20	0.26	暗褐色土(10VR3/3)	D24より古	P227	VI-17	0.38	0.30	0.20	黒褐色土(10VR3/1)	瓶底器・土器部
P179	VI-21	0.24	0.20	0.07	暗褐色土(10VR3/3)	土容器	P228	VI-17	1.10	0.56	0.20	1: 黑褐色土(10VR3/1) 2: 暗褐色土(10VR3/3)	
P180	VI-21	0.24	0.18	0.22	暗褐色土(10VR3/3)	瓶底器	P229	VI-18	0.60	0.48	0.30	黒褐色土(10VR3/1)	
P181	V-24	0.24	0.22	0.15	暗褐色土(10VR3/3)	P147より新	P230	VI-18	0.30	0.28	0.31	黒褐色土(10VR3/2)	発生土器
P182	V-24	0.22	0.22	0.26	暗褐色土(10VR3/3)	P147より新	P231	VI-18	0.34	0.26	0.12	黒褐色土(10VR3/2)	
P183	IX-4	0.22	0.14	0.22	暗褐色土(10VR3/3)		P232	VI-18	0.28	0.22	0.22	黒褐色土(10VR3/1)	
P184	V-24	0.32	0.18	0.30	暗褐色土(10VR3/3)		P233	VI-18	0.44	0.22	0.24	黒褐色土(10VR3/1)	
P185	V-24	0.22	0.20	0.28	暗褐色土(10VR3/3)		P234	VI-18	0.40	0.32	0.14	暗褐色土(10VR3/3)	Taより古
P186	V-24	0.18	0.16	0.15	暗褐色土(10VR3/3)	発生土器 底堅部	P235	VI-13	0.44	0.34	0.38	黒褐色土(10VR3/2)	Taより古
P187	V-25	0.22	0.22	0.20	暗褐色土(10VR3/3)	P147より新	P236	VI-13	0.22	0.18	0.18	黒褐色土(10VR3/1)	
P188	V-25	0.22	0.22	0.30	暗褐色土(10VR3/3)		P237	VI-13	0.18	0.18	0.12	黒褐色土(10VR3/1)	Taより古
P189	V-25	0.20	0.20	0.24	暗褐色土(10VR3/3)		P238	VI-13	0.26	0.20	0.12	黒褐色土(10VR3/1)	Taより古
P190	IX-5	0.24	0.10	0.22	暗褐色土(10VR3/3)		P239	VI-13	0.18	0.16	0.32	黒褐色土(10VR3/2)	Taより古
P191	V-25	0.22	0.16	0.18	暗褐色土(10VR3/3)		P240	VI-13	0.46	0.40	0.36	黒褐色土(10VR3/2)	Taより古
P192	V-25	0.14	0.14	0.22	暗褐色土(10VR3/3)		P241	VI-13	0.80	0.70	0.30	黒褐色土(10VR3/1)	Taより古
P193	V-25	0.24	0.20	0.23	暗褐色土(10VR3/3)	P194より新	P242	VI-13	0.26	0.80	0.33	暗褐色土(10VR3/3)	Taより古
P194	V-25	0.26	0.26	0.28	暗褐色土(10VR3/3)	P193より古	P243	VI-13	0.32	0.22	0.33	暗褐色土(10VR3/2)	Taより古
P195	V-25	0.22	0.29	0.30	暗褐色土(10VR3/3)		P244	VI-18	0.30	0.22	0.40	暗褐色土(10VR3/3)	Taより古
P196	V-25	0.20	0.20	0.15	暗褐色土(10VR3/3)		P245	VI-18	0.36	0.20	0.28	暗褐色土(10VR3/3)	Taより古
P197	V-24	0.18	0.14	0.26	暗褐色土(10VR3/3)		P246	VI-18	0.34	0.32	0.12	暗褐色土(10VR3/3)	Taより古
P198	V-21	0.26	0.20	0.22	暗褐色土(10VR3/3)	D27より新	P247	VI-18	0.26	0.26	0.15	暗褐色土(10VR3/3)	
P199	V-21	0.34	0.34	0.30	暗褐色土(10VR3/3)	D27より新	P248	VI-21	0.18	0.16	0.16	暗褐色土(10VR3/3)	
P200	V-21	0.22	0.20	0.35	暗褐色土(10VR3/3)	D27より古	P249	VI-21	0.18	0.16	0.16	暗褐色土(10VR3/3)	
P201	V-15	0.58	0.28	0.08	暗褐色土(10VR3/3)		P250	VI-17	0.50	0.40	0.32	黒褐色土(10VR3/2)	土器部
P202	VI-11	0.35	0.20	0.16	暗褐色土(10VR3/3)		P251	VI-22	0.44	0.34	0.10	黒褐色土(10VR3/2)	
P203	VI-11	0.28	0.20	0.22	暗褐色土(10VR3/3)		P252	VI-17	0.76	0.64	0.18	暗褐色土(10VR3/3)	P251より古
							P253	VI-17	0.30	0.30	0.36	暗褐色土(10VR3/3)	D63より古

第4表 ピット一覧表3

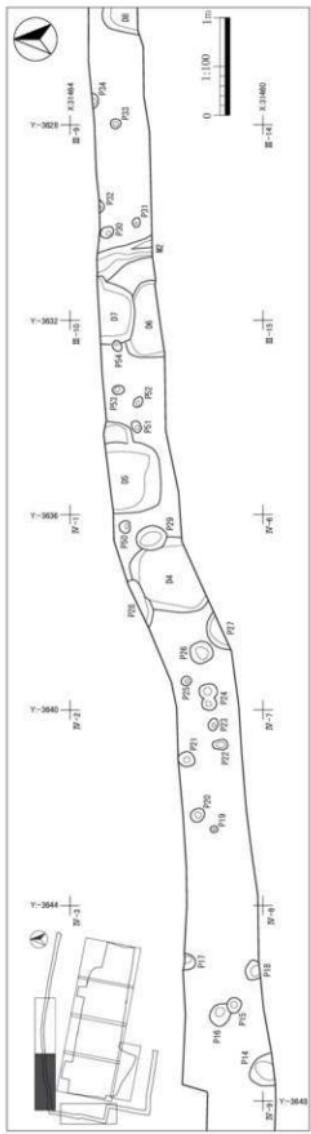
遺構名	グリッド	測量(m)	長径	短径	深さ	堆土	新旧関係・出土物	遺構名	グリッド	測量(m)	長径	短径	深さ	堆土	新旧関係・出土物
P254	VI-22	0.48	0.32	0.30	暗褐色土(10VR3/3)	無石		P317	VI-19	0.18	0.16	0.21	黒褐色土(10VR3/2)		上斜面
P255	VI-22	0.36	0.36	0.26	暗褐色土(10VR3/3)			P318	VI-19	0.30	0.24	0.34	黒褐色土(10VR3/2)		上斜面
P266	VI-23	0.34	0.14	0.26	暗褐色土(10VR3/3)	D68より古		P319	VI-14	0.22	0.20	0.28	黒褐色土(10VR3/2)		
P267	VI-17	0.38	0.30	0.24	にらむ 黄褐色土(10YR4/3)			P320	VI-14	0.28	0.26	暗褐色土(10VR3/3)			
P268	VI-18	0.34	0.30	0.34	暗褐色土(10VR3/3)	P269より新		P321	VI-14	0.22	0.22	0.30	暗褐色土(10VR3/3)		須恵器
P269	VI-18	0.44	0.32	0.23	暗褐色土(10VR3/3)	P268より古		P322	VI-3	0.36	0.30	0.28	暗褐色土(10VR3/3)		土瓶器
P270	VI-23	0.28	0.20	0.28	暗褐色土(10VR3/3)	吸水器		P323	VI-3	0.26	0.22	0.24	黒褐色土(10VR3/2)		
P271	VI-23	0.56	0.30	0.28	暗褐色土(10VR3/3)	衛生土器		P324	VI-3	0.16	0.14	0.08	1: 黒褐色土(10VR3/1) 2: 底黄褐色土(10YR4/3)		
P272	VI-13	0.30	0.24	0.40	黒褐色土(10VR3/2)	土瓶器		P325	VI-9	0.18	0.16	0.24	黒褐色土(10VR3/2)		
P273	VI-13	0.28	0.26	0.08	暗褐色土(10VR3/3)			P326	VI-9	0.26	0.20	0.10	暗褐色土(10VR3/3)		
P274	VI-12	0.22	0.18	0.12	黒褐色土(10VR3/1)	M3より新		P327	VI-9	0.28	0.22	0.20	暗褐色土(10VR3/3)		
P275	VI-13	0.34	0.24	0.08	黒褐色土(10VR3/2)			P328	VI-9	0.22	0.20	0.24	黒褐色土(10VR3/2)		
P276	VI-13	0.24	0.18	0.20	黒褐色土(10VR3/1)			P329	VI-15	0.29	0.20	0.20	黒褐色土(10VR3/2)		
P277	VI-18	0.30	0.20	0.28	黒褐色土(10VR3/2)	衛生土器		P330	VI-15	0.14	0.14	0.10	黒褐色土(10VR3/1)		
P278	VI-23	0.30	0.20	0.26	暗褐色土(10VR3/3)			P331	VI-15	0.16	0.14	0.08	黒褐色土(10VR3/1)		
P279	VI-23	0.36	0.30	0.30	にらむ 黄褐色土(10YR4/3)			P332	VI-15	0.24	0.20	0.16	黒褐色土(10VR3/2)		
P280	VI-23	0.28	(0.16)	0.15	黒褐色土(10VR3/1)	D68より古		P333	VI-3	0.26	0.20	0.11	暗褐色土(10VR3/3)		M3より新
P281	VI-23	0.26	0.24	0.20	暗褐色土(10VR3/3)			P334	VI-19	0.28	0.22	0.18	黒褐色土(10VR3/2)		
P282	VI-23	0.30	0.20	0.34	暗褐色土(10VR3/3)			P335	VI-19	0.20	0.18	0.13	暗褐色土(10VR3/3)		
P283	VI-23	0.22	0.18	0.16	暗褐色土(10VR3/3)			P336	VI-20	0.22	0.16	0.08	暗褐色土(10VR3/3)		
P285	VI-24	0.42	0.18	0.36	暗褐色土(10VR3/3)			P337	VI-20	0.16	0.16	0.08	暗褐色土(10VR3/3)		
P286	VI-24	0.20	0.18	0.11	黒褐色土(10VR3/1)			P338	VI-20	0.30	0.26	0.37	暗褐色土(10VR3/3)		D68より新
P287	VI-24	0.30	0.22	0.29	暗褐色土(10VR3/3)			P339	VI-20	0.26	0.20	0.15	暗褐色土(10VR3/3)		
P288	VI-24	0.20	0.16	暗褐色土(10VR3/3)	P289より古			P340	VI-20	0.18	0.16	0.08	暗褐色土(10VR3/3)		
P289	VI-24	0.22	0.20	0.34	黒褐色土(10VR3/2)	P288より新 土瓶器		P341	VI-15	0.40	0.40	0.38	暗褐色土(10VR3/3)		
P290	VI-24	0.20	0.16	0.12	黒褐色土(10VR3/2)	P289より古		P342	VI-15	0.26	0.22	0.28	暗褐色土(10VR3/3)		
P291	VI-25	0.16	0.14	0.39	黒褐色土(10VR3/2)	Ts2より新		P343	VI-20	0.22	0.20	0.20	黒褐色土(10VR3/2)		
P293	VI-23	0.22	0.22	0.28	黒褐色土(10VR3/2)			P344	VI-20	0.44	0.36	0.26	黒褐色土(10VR3/2)		Ts2より古
P294	VI-18	1.00	(0.68)	0.32	にらむ 黄褐色土(10YR4/3)	P295より古 帯生土22		P345	VI-20	1.09	0.94	0.40	1: 黒褐色土(10VR3/1) 2: にらむ 黄褐色土(10YR4/3) 3: 黒褐色土(10VR2/1)		Ts2-P3-46より古
P296	VI-18	0.44	0.42	0.49	黒褐色土(10VR3/2)			P346	VI-20	0.46	(0.16)	0.36	1: 黒色土(10VR2/1) 2: 黑褐色土(10VR3/1)		Ts2より古 P345より新
P297	VI-18	0.22	0.20	0.18	暗褐色土(10VR3/3)			P348	VI-20	0.46	0.36	0.24	黒色土(10VR2/1)		Ts2より古 P347より新 土瓶22
P298	VI-18	0.36	0.22	0.14	暗褐色土(10VR3/3)			P350	VI-25	0.18	0.16	0.20	暗褐色土(10VR3/2)		Ts2より古
P299	VI-19	0.22	0.18	0.36	暗褐色土(10VR3/3)			P351	VI-25	0.34	(0.12)	0.26	黒褐色土(10VR3/1)		Ts2より古
P300	VI-19	0.54	0.30	0.40	暗褐色土(10VR3/3)			P353	VI-9	0.46	0.36	0.43	暗褐色土(10VR3/3)		
P301	VI-19	0.20	0.16	0.16	黒褐色土(10VR3/2)			P354	VI-9	0.30	0.24	0.12	暗褐色土(10VR3/3)		
P303	VI-19	0.16	0.14	0.13	暗褐色土(10VR3/3)			P355	VI-19	0.29	0.16	0.14	黒褐色土(10VR3/2)		
P304	VI-19	0.40	0.26	0.34	1: 暗褐色土(10VR3/3) 2: 黑褐色土(10VR3/1)			P356	VI-10	0.22	0.22	0.08	黒褐色土(10VR3/1)		
P305	VI-19	0.22	0.20	0.18	暗褐色土(10VR3/3)			P357	VI-10	0.62	0.50	0.14	にらむ 黄褐色土(10YR4/3)		
P306	VI-19	0.24	0.22	0.29	暗褐色土(10VR3/3)			P358	VI-15	0.36	0.30	0.10	暗褐色土(10VR3/3)		
P307	VI-9	0.18	0.14	0.10	黒褐色土(10VR3/2)			P359	VI-21	0.49	0.30	0.50	暗褐色土(10VR3/3)		
P308	VI-8	0.24	0.20	0.12	暗褐色土(10VR3/3)			P360	VI-16	0.29	0.14	0.08	黒褐色土(10VR3/2)		
P309	VI-9	0.30	0.28	0.23	暗褐色土(10VR3/3)			P361	VI-16	0.52	0.44	0.30	1: 黒褐色土(10VR3/2) 2: にらむ 黄褐色土(10YR4/3)		
P310	VI-19	0.20	0.18	0.16	黒褐色土(10VR3/1)			P362	VI-16	0.40	0.40	0.26	1: 黒褐色土(10VR3/2) 2: にらむ 黄褐色土(10YR4/3)		
P311	VI-19	0.36	0.18	0.14	暗褐色土(10VR3/3)			P363	VI-11	0.24	0.20	0.10	黒褐色土(10VR3/2)		D68より古
P312	VI-19	(0.20)	0.20	0.24	暗褐色土(10VR3/3)	P313より古		P364	VI-11	1.08	0.38	0.19	暗褐色土(10VR3/3)		
P314	VI-19	0.24	0.18	0.12	黒褐色土(10VR3/2)	衛生土器		P365	VI-9	0.36	0.26	0.20	暗褐色土(10VR3/3)		
P315	VI-19	0.16	0.16	0.12	暗褐色土(10VR3/3)	土瓶器									
P316	VI-19	0.16	0.14	0.06	暗褐色土(10VR3/3)										

第5表 ピット一覧表4

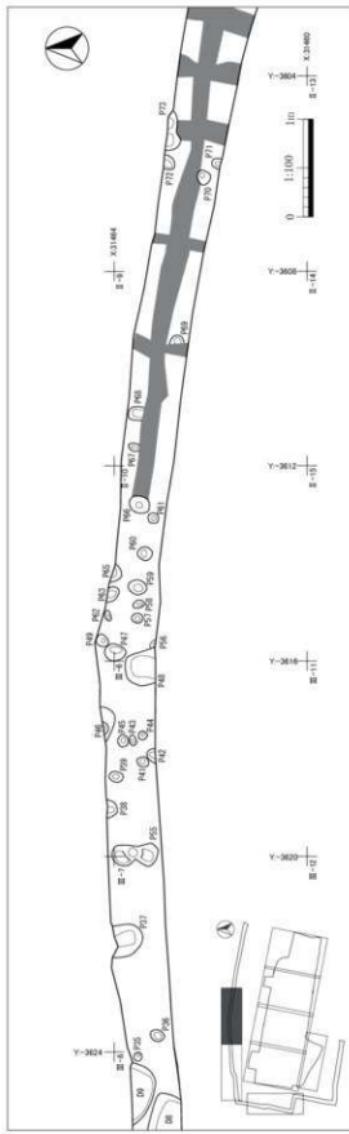
遺構名	グリッド	法面(m)	長径	短径	深さ	壤土	新田開拓・出土遺物
P366	VI-9	0.32	0.20	0.20	暗褐色土(10VR3/3)		
P367	VI-16	0.68	0.50	0.25	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)		
P368	VI-20	0.72	0.54	0.20	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)		
P369	VI-16	0.56	0.46	0.20	1:暗褐色土(10VR3/3) 2:にらむ・暗褐色土(10VR7/3)		
P391	IV-21	0.64	0.44	0.25	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)	P392より古	
P392	IV-21	(0.56)	0.48	0.10	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)	P391より古	
P393	IV-21	0.62	0.27	0.14	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)		
P394	IV-21	0.54	0.50	0.15	黒褐色土(10VR3/1)		
P395	VI-2	0.72	0.70	0.28	黑色土(10YR2/1)		
P396	VI-7	0.66	0.64	0.26	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)		
P397	IV-21	0.62	0.54	0.28	黒褐色土(10VR3/1)		
P398	IV-21	0.76	0.68	0.26	黒褐色土(10VR3/1)		
P399	VII-1	0.50	0.50	0.24	黒褐色土(10VR3/1)		
P400	VII-1	0.32	0.30	0.20	黑色土(10YR2/1)		
P401	VII-1	0.70	0.60	0.18	黒褐色土(10VR3/1)		
P402	VII-1	0.36	0.28	0.10	黒褐色土(10VR3/1)		
P403	VII-1	0.28	0.24	0.10	黒褐色土(10VR3/1)		
P404	VII-1	0.28	0.28	0.70	黒褐色土(10VR3/1)		
P405	VII-6	0.26	0.22	0.14	黒褐色土(10VR3/1)		
P406	VII-6	0.34	0.26	0.10	黒褐色土(10VR3/1)		
P407	VII-11	0.80	0.62	0.20	にらむ・黄褐色土(10YR4/3)		
P408	VII-25	0.96	0.54	0.34	黒褐色土(10VR3/2)		
P409	VII-25	0.56	0.38	0.20	黒褐色土(10VR3/2)		
P410	VII-5	0.44	0.34	0.12	黒褐色土(10VR3/2)		
P411	VII-1	0.39	0.26	0.14	黒褐色土(10VR3/1)		
P412	VII-6	0.50	0.36	0.14	灰黃褐色土(10YR4/2)		
P413	VII-10	0.54	0.50	0.20	灰黃褐色土(10YR4/2)		
P414	VII-16	0.36	0.28	0.22	黒褐色土(10VR3/1)		
P415	VII-24	0.50	0.32	0.14	暗褐色土(10VR3/2)		
P416	VII-20	0.38	0.32	0.16	黒褐色土(10VR3/2)		
P418	III-25	0.28	0.20	0.16	暗褐色土(10VR3/3)		
P419	III-25	0.40	0.40	0.20	灰黃褐色土(10YR4/2)		
P420	III-25	0.50	0.50	0.24	黒褐色土(10VR3/1)		
P421	III-25	0.30	0.24	0.10	黒褐色土(10VR3/2)		
P422	VII-19	0.40	0.38	0.24	黒褐色土(10VR3/1)		
P423	VII-16	0.32	0.32	0.24	黒褐色土(10VR3/1)		
P424	VII-11	0.36	0.26	0.18	黒褐色土(10VR3/2)		
P425	VII-6	0.18	0.14	0.12	黒褐色土(10VR3/1)		
P426	VII-23	0.52	0.50	0.26	1: 黑褐色土(10VR3/1) 2: 暗褐色土(10YR2/3) 3: 黑褐色土(10VR3/1)		
P427	VII-23	0.44	0.40	0.26	褐泥炭土(10VR4/1)		
P428	VII-23	1.02	0.42	0.30	黒褐色土(10VR3/1)		
P429	XI-3	0.36	0.22	0.10	黒褐色土(10VR3/1)		
P430	VII-12	1.06	0.92	0.30	黑色土(10YR2/1)		

第6表 ピット一覧表5

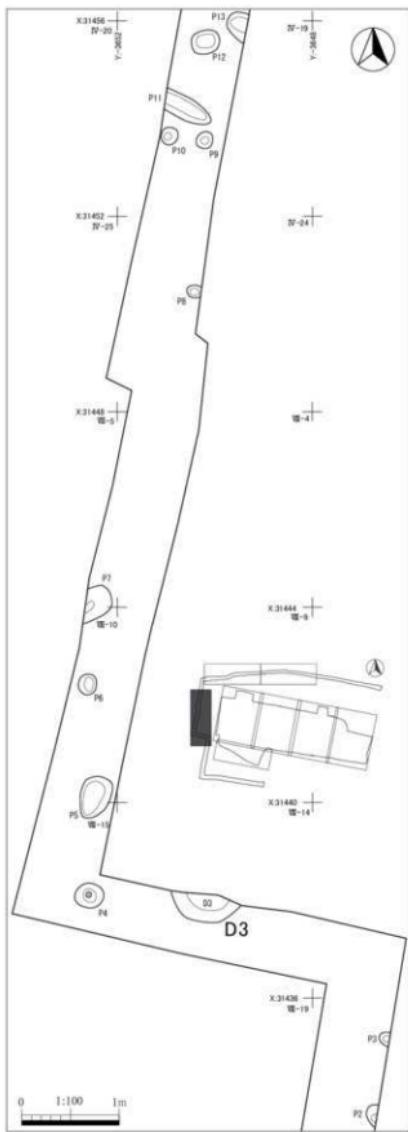
遺構名	グリッド	法面(m)	長径	短径	深さ	壤土	新田開拓・出土遺物
P431	VII-11	0.36	0.36	0.18	黑褐色土(10VR3/2)		
P432	VII-12	0.28	0.24	0.23	黑褐色土(10VR3/1)	土器器	
P433	VII-12	0.36	0.30	0.10	黑褐色土(10VR3/1)		
P434	VII-11	0.38	0.24	0.13	黑褐色土(10VR3/1)		
P435	VII-12	0.88	0.74	0.24	黑色土(10YR2/1)		
P436	VII-17	0.52	0.44	0.15	黑褐色土(10YR3/1)		
P437	VII-17	0.62	0.48	0.21	黑色土(10YR2/1)		
P438	VII-17	0.64	0.40	0.28	黑褐色土(10YR3/1)		
P439	VII-11	0.32	0.24	0.22	黑褐色土(10YR3/1)		
P440	VII-16	0.30	0.30	0.24	黑褐色土(10YR3/2)		
P441	VII-16	0.28	0.28	0.26	黑褐色土(10YR3/1)		
P442	VII-16	0.28	0.26	0.22	黑褐色土(10YR3/2)		
P443	VII-16	0.84	0.48	0.24	黑褐色土(10YR3/1)		
P444	VII-16	0.38	0.32	0.26	1: 黑褐色土(10YR3/1) 2: 灰黃褐色土(10YR4/2)		
P445	VII-16	0.38	0.38	0.10	灰黃褐色土(10YR4/2)		
P446	VII-20	0.28	0.26	0.10	黑褐色土(10YR3/1)		
P447	VII-16	0.24	0.20	0.14	黑褐色土(10YR3/1)		
P448	VII-16	0.30	0.26	0.08	黑褐色土(10YR3/1)		
P449	VII-15	0.22	0.20	0.20	黑褐色土(10YR3/2)		
P450	VII-15	0.24	0.24	0.14	黑褐色土(10YR3/1)		
P451	VII-15	0.20	0.18	0.08	黑褐色土(10YR3/1)		
P452	VII-18	0.34	0.22	0.24	黑褐色土(10YR3/1)		
P453	VII-18	0.30	0.26	0.18	黑褐色土(10YR3/1)		
P454	VII-18	0.26	0.26	0.08	黑褐色土(10YR3/2)		
P455	VII-18	0.38	0.26	0.22	黑褐色土(10YR2/1)		
P456	VII-18	0.44	0.36	0.14	黑褐色土(10YR3/1)		
P457	VII-19	0.37	0.24	0.09	黑褐色土(10YR3/1)		
P458	VII-19	0.70	0.54	0.20	暗褐色土(10YR2/3)		
P459	XI-4	0.46	0.40	0.22	黑褐色土(10YR2/3)		
P460	VII-24	0.38	0.34	0.32	黑褐色土(10YR2/2)		
P461	VII-19	0.36	(0.28)	0.22	灰黃褐色土(10YR4/2)	P462より古	
P462	VII-19	0.34	0.30	0.23	黑褐色土(10YR3/1)	P461より古	
P463	H-22	0.27	0.23	0.29	黑褐色土(10YR3/2)		
P464	VI-2	0.22	0.21	0.31	黑褐色土(10YR3/2)		
P465	VII-19	0.32	0.26	0.30	黑褐色土(10YR3/2)		
P466	VII-19	0.30	0.19	0.16	暗褐色土(10YR3/3)		
P467	VII-20	0.23	0.15	0.10	黑褐色土(10YR3/1)	D96上り古	
P468	VII-20	0.19	0.16	0.10	黑褐色土(10YR3/1)		
P469	VII-20	0.23	0.22	0.40	黑褐色土(10YR3/1)		
P470	VII-20	0.27	0.26	0.24	黑褐色土(10YR3/1)		
P471	VII-19	0.22	0.21	0.14	黑褐色土(10YR3/1)		
P472	VII-24	0.16	0.16	0.16	黑褐色土(10YR3/1)	H13より新	
P473	VII-24	0.22	0.20	0.22	黑褐色土(10YR3/1)	H13より新	



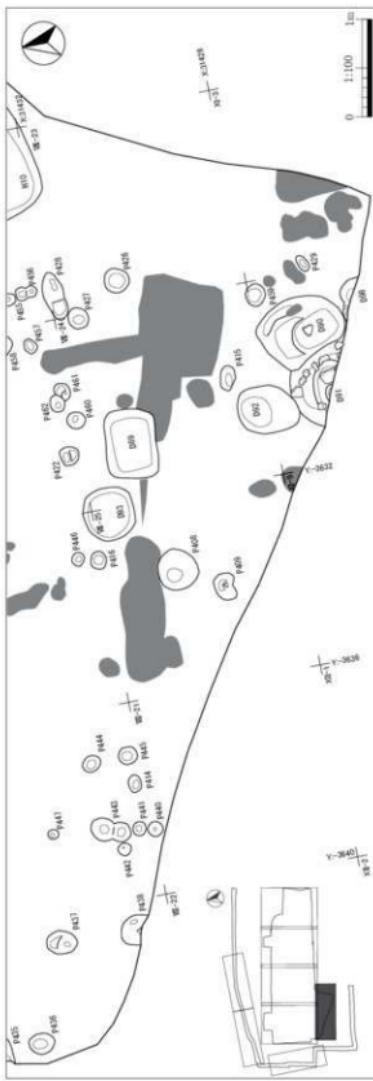
第48図 調査区分割図1



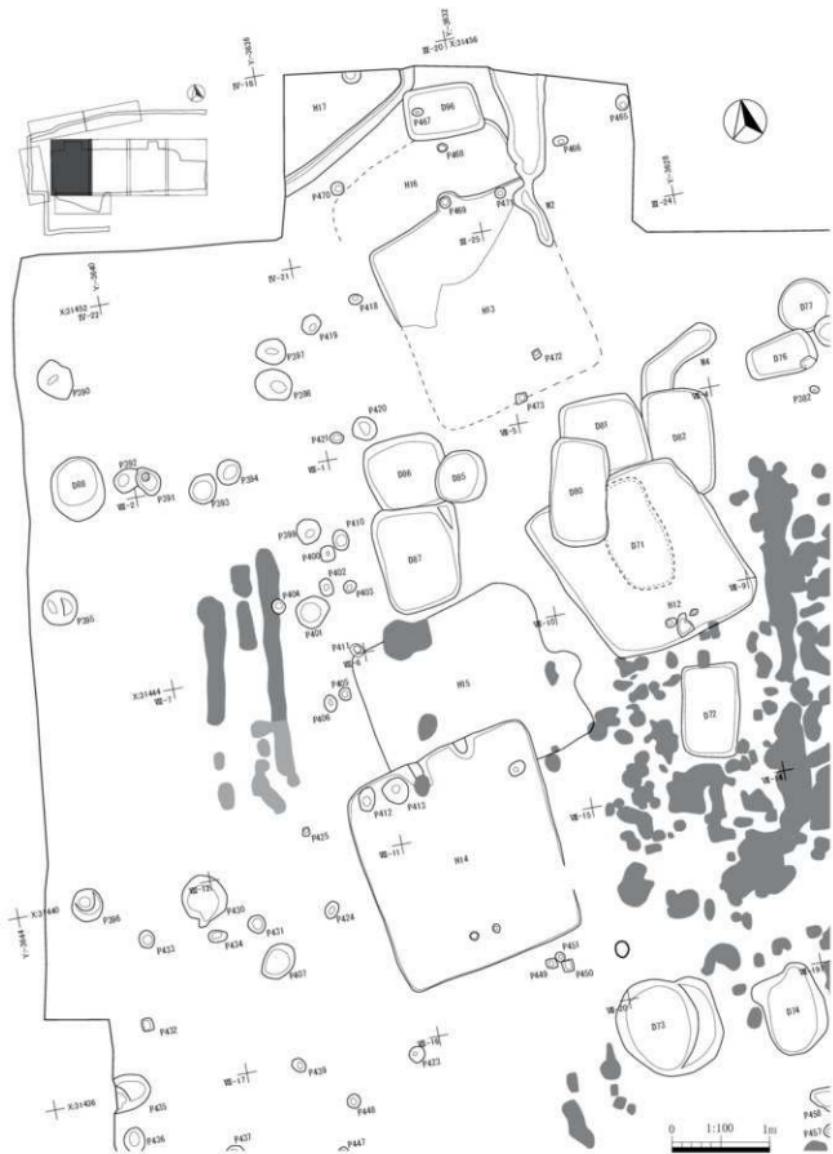
第49図 調査区分割図2



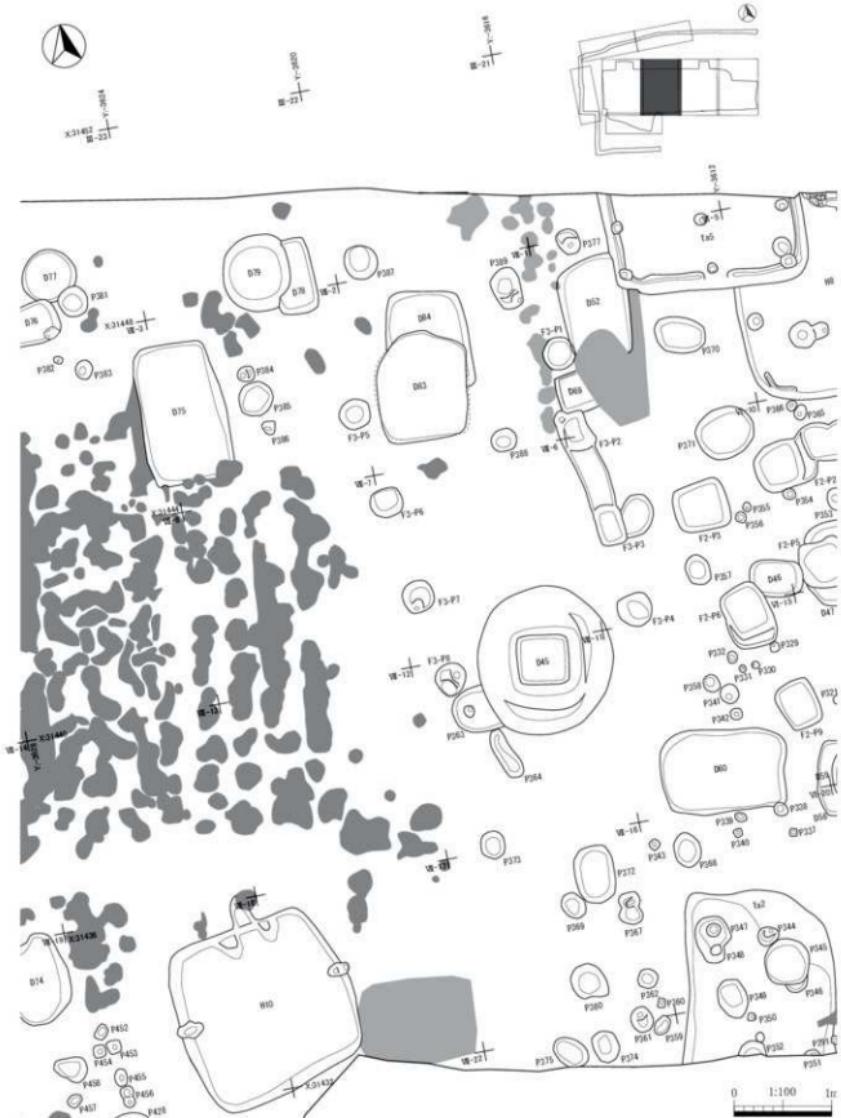
第 50 図 調査区分割図 3



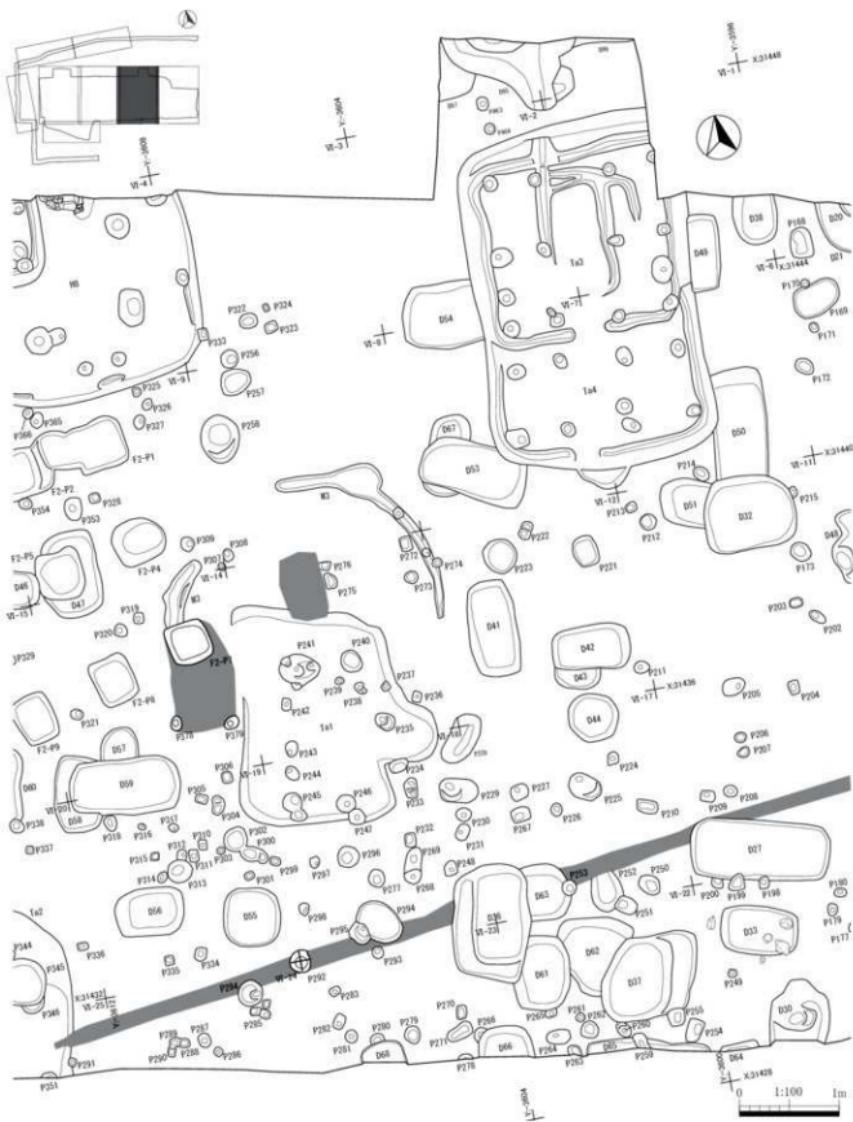
第 51 図 調査区分割図 4



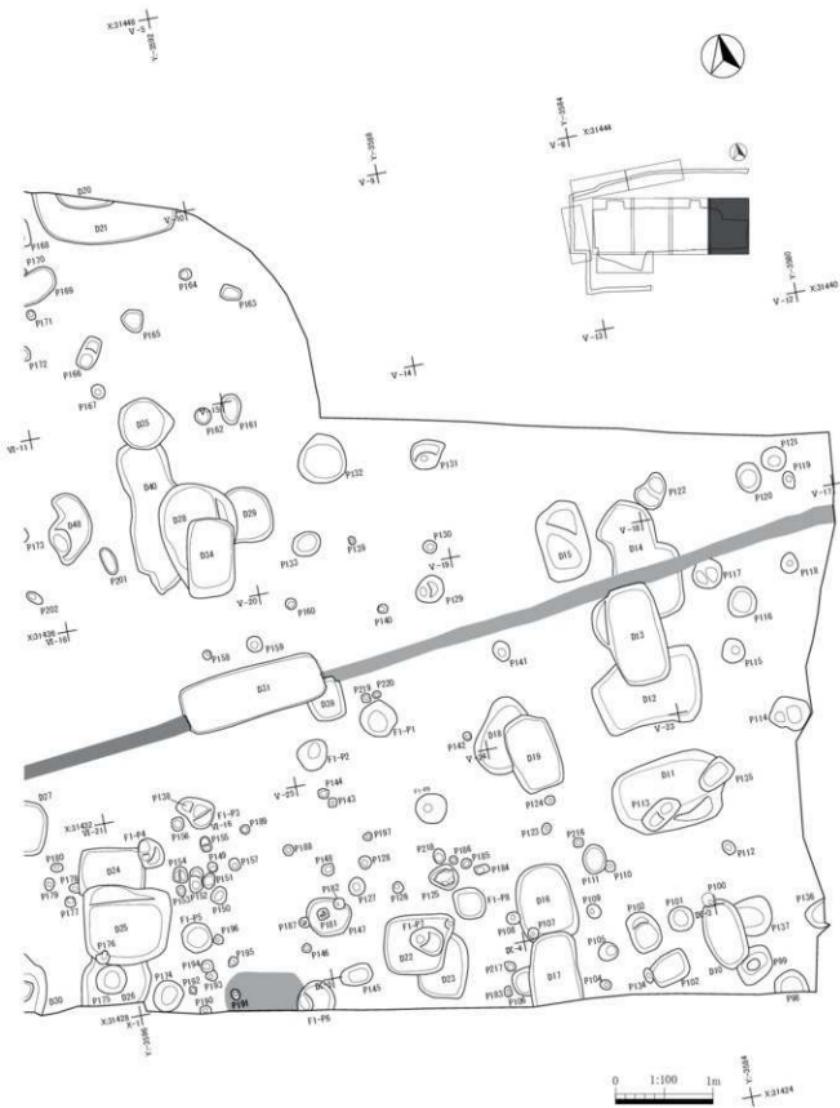
第52図 調査区分割図 5



第 53 図 調査区分割図 6



第 54 図 調査区分割図 7



第55図 調査区分割図 8

遺構	No.	器種	器形	法面(cw/g) (無効面)(削面)			形成・調整・文様		出土層位	備考	
				口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量	内面	外側		
	1	土師器	壺	(13.0)	—	(3.6)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	壺	(14.2)	(5.6)	4.2	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・削輪糸切り	埋土	
	3	土師器	壺	(15.0)	—	(3.8)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	4	土師器	壺	(17.4)	—	(4.4)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	5	須恵器	壺	(14.0)	(6.6)	4.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ・削輪糸切り	埋土	内外面保有者
	6	須恵器	壺	14.5	6.4	3.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・削輪糸切り	埋土	火葬灰
	7	灰釉陶器	瓶	(17.2)	—	(5.1)	—	ロクロナデ・施釉	ロクロナデ・施釉	埋土	
	8	土師器	壺	(10.8)	—	(4.7)	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
H3	9	土師器	甕	12.9	—	(7.2)	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	10	土師器	甕	—	4.6	(7.9)	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	11	土師器	甕	—	5.1	(5.6)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	12	土師器	甕	—	(5.6)	(5.4)	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	13	須恵器	甕	—	—	(1.2)	—	あと具備	タタキ・自然釉	埋土	肩部破片
	14	須恵器	甕	—	(14.0)	(6.6)	—	あと具備・自然釉	タタキ・自然釉	埋土	
	15	須恵器	甕	—	—	(9.1)	—	あと具備・自然釉	タタキ・自然釉	埋土	
	16	鉄製品	刀子	(9.3)	1.3	0.3	(7.8)	—	—	埋土	両端欠損
	17	鉄製品	鍔	(12.0)	(2.5)	(0.4)	(36.98)	—	—	埋土	刃先欠損
H4	1	土師器	壺	(14.6)	(6.6)	5.0	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・削輪糸切り ヘラケズリ	埋土	
	2	土師器	甕	—	7.2	(3.1)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・削輪糸切り	埋土	
	3	須恵器	壺	(13.3)	6.5	3.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・削輪糸切り	埋土	
	4	須恵器	有台杯	(16.0)	(11.0)	3.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	5	須恵器	不明	—	—	(2.4)	—	ナデ	方形状文様	埋土	
	6	鉄製品	角鉤	(7.9)	(0.5)	(0.5)	(5.92)	—	—	埋土	両端欠損
H5	1	土師器	壺	15.3	6.3	4.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラケズリ カマド	床面	
	2	土師器	甕	14.9	8.1	4.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ 角切り底盤・ヘラケズリ	床面	
	3	須恵器	壺	(13.8)	(8.4)	(3.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	火葬灰
	4	須恵器	壺	(13.4)	(9.8)	3.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	火葬灰
	5	須恵器	壺	13.7	10.2	3.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	火葬灰
	6	須恵器	壺	(14.4)	8.0	4.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	床面	
H6	7	須恵器	有台杯	(13.0)	10.0	3.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	火葬灰
	8	土師器	甕	13.6	—	(10.0)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	9	土師器	甕	—	(5.6)	(8.2)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	10	須恵器	甕	(35.6)	(15.0)	(27.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ・タタキ	床面	
	11	石器	圓石	17.0	15.8	5.5	1820.0	—	—	床面	
	12	石器	磨石	19.1	9.4	6.2	1960.0	—	—	床面	
	13	鉄製品	鎌金具	1.3	0.5	1.1	0.8	—	—	埋土	
H7	1	鉄製品	刀剣	(5.1)	(4.4)	(0.9)	66.93	—	—	床面	
	1	須恵器	壺	—	(6.6)	(3.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	甕	(21.2)	—	(10.2)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ カマド		
	3	土師器	甕	(20.4)	—	(4.8)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ カマド		
	4	須恵器	甕	—	—	(2.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	5	須恵器	甕	(10.0)	—	(3.1)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	6	須恵器	甕	—	—	(7.0)	(2.7)	ロクロナデ	削輪・ヘラケズリ	埋土	
	7	鉄製品	不明	(6.1)	(3.6)	(0.25)	(30.42)	—	—	床面	
	8	鉄製品	鎌	19.0	4.0	0.3	51.3	—	—	床面	
H8	1	須恵器	壺	—	(6.2)	(2.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	裏方	火葬灰
	2	土師器	甕	—	4.3	(2.2)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	裏方	
	3	土師器	甕	(20.8)	—	(6.3)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	裏方	
	1	土師器	壺	(15.2)	—	(3.9)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	甕	(20.0)	—	(5.3)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	床面	
	3	土師器	甕	(20.6)	—	(5.4)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	D82上層
H12	4	土師器	甕	20.0	—	(20.0)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ カマド	床面	
	5	須恵器	甕	—	(6.4)	(7.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	裏方	

第7表 遺物観察表1

遺物	No.	器種	器形	法量(cm×g) (測定値)(備考)				形成・調整・文様		出土層位	備考
				口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外側		
H12	6	石器	砾石	14.2	4.5	5.3	470.0	—	—	床面	
	7	石器	有台杯	37.5	26.4	8.5	12100.0	—	—	床面	
H13	1	瓦	垂	(29.0)	—	(13.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	2	石器	有脚五角	(7.7)	(6.6)	(1.4)	(84.1)	—	—	裏方	
H14	1	瓦	垂	14.4	—	4.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	カマツ	
	2	鉄製品	刀子	(9.0)	(1.1)	(0.4)	(9.2)	—	—	床面	
	3	鉄製品	刀子	(4.7)	(1.1)	(0.4)	(5.2)	—	—	床面	
H15	1	土師器	壺	(13.7)	(7.9)	(4.1)	—	黒色処理	ロクロナデ	床面	底部に墨書き
	2	瓦	有台杯	—	(9.5)	(3.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	裏方	
H17	1	瓦	垂	(14.2)	(7.6)	3.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ・底部へラ切り	埋土	火葬灰
	2	瓦	垂	(15.2)	(8.4)	3.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ・底部へラケズリ	埋土	火葬灰
Ta1	3	土師器	壺	(13.7)	—	(4.5)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	4	石器	砾石	14.9	12.8	3.8	1088.8	—	—	埋土	
	5	石器	砾石	15.0	5.5	6.3	788.2	—	—	埋土	
	1	土師器	壺	(10.2)	—	(1.3)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	2	瓦	垂	(9.0)	—	(1.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
Ta2	3	石器	砾石	11.3	6.0	4.2	412.5	—	—	埋土	
	4	石器	砾石	(13.1)	(4.9)	(3.2)	(261.6)	—	—	埋土	
	1	土師器	壺	—	—	(2.9)	—	ナデ	ナデ	埋土	
	2	灰陶器	網	(15.2)	—	(3.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
Ta3	3	灰陶器	長颈瓶	(6.4)	—	(1.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	4	古瀬戸	瓶子	—	(11.0)	(7.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	13世紀
	5	青磁	達志瓶	—	—	(1.8)	—	施釉	施釉・通字文	埋土	13世紀 龍泉窯
Ta4	6	石器	砾石	7.5	5.2	2.3	152.5	—	—	埋土	
	7	石製品	砾	(9.9)	(9.2)	(2.0)	(309.3)	—	—	床面	
Ta5	1	古瀬戸	折縁盆	(12.2)	—	(1.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	13世紀
F2	1	鉄製品	角釘	(6.0)	0.8	0.4	(4.57)	—	—	埋土	
F5	1	瓦	垂	(14.7)	3.4	3.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	便	—	4.8	(5.9)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
D16	1	陶製品	鋼鉄	23.8	—	1.2	2.9	—	—	埋土	頃聖元寶 (北宋 1094年)
D25	1	陶製品	鋼鉄	23.6	—	1.2	1.7	—	—	埋土	西銭半圓 (前漢 BC175年)
D27	1	灰陶器	網	—	(6.2)	(1.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
D28	1	瓦	垂	—	(7.2)	(1.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
D45	1	土師器	壺	—	—	(3.3)	—	ヨコナデ・縦文	ヨコナデ・ヘラケズリ	埋土	
	2	石器	砾石	(7.4)	(5.2)	(1.6)	(29.46)	—	—	埋土	
D54	3	瓦	瓦	(11.7)	(5.7)	(1.4)	—	布目	布目	埋土	
	1	青磁	達志瓶	—	—	(1.5)	—	施釉	施釉・通字文	埋土	13世紀 龍泉窯
	2	青磁	網	—	—	(3.7)	—	施釉・画花文	施釉	埋土	13世紀前半 龍泉窯
D59	3	陶製品	鋼鉄	24.1	—	1.0	2.7	—	—	埋土	頃聖元寶 (北宋 1094年)
D61	1	陶製品	鋼鉄	24.0	—	1.0	2.9	—	—	埋土	頃聖元寶 (北宋 1094年)
D71	1	瓦	四耳壺	—	(13.5)	(28.7)	—	ロクロナデ・当て具痕 ・ナデ	タタキ	床面	
D75	1	陶製品	鋼鉄	24.4	—	1.0	2.9	—	—	埋土	熙寧元寶 (北宋 1068年)
D78	1	陶製品	鋼鉄	23.6	—	0.8	1.2	—	—	埋土	景祐元寶
D89	1	土師器	蓋	(13.5)	(5.9)	3.3	—	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・ 底部凹陷・ヘラケズリ	埋土	
	2	土師器	壺	—	(6.2)	(2.2)	—	ミガキ	ロクロナデ・底部凹陷・ ヘラケズリ	埋土	H12と連合
VI-21Gr	1	鉄製品	角釘	3.0	0.7	0.4	2.4	—	—	検出	屈曲

第8表 遺物観察表2

第III章 総括

道常遺跡Ⅲでは、奈良時代から中世までの遺構が検出された。これらは、周辺で調査された南近津遺跡Ⅲ・若宮遺跡Ⅳ・宮の前遺跡Ⅰ～Ⅲ・道常遺跡Ⅰ・Ⅱにおける集落跡と一連の集落である。

奈良・平安時代の遺構は、堅穴住居址や掘立柱建物址が検出されたが、時期の特定できる住居址については、概ね8世紀～9世紀に位置づけられる。本調査区東側の南近津遺跡他における発掘調査では、古墳時代後期から中世までの集落跡が確認されているが、8世紀には住居址が増加し、集落が拡大していく様相が捉えられている。本調査区では、古墳時代以前の住居址は確認されていないため、8世紀以降の集落の拡大に伴って居住が開始された地区と位置づけられる。出土した遺物は、住居址から出土する須恵器・土師器等の日常品がほとんどだが、中世の井戸跡と考えられるD45号土坑から、平瓦の破片が出土している。周辺の調査で出土している資料と併せ、寺院の存在を示唆するものである。

9世紀後半以降は集落が衰退し、一旦は居住が途絶えるようであるが、中世になると再び集落が営まれるようになる。中世集落の様相は平安時代までとは一変し、遺物はほとんど出土せず、遺構は堅穴状遺構と方形や円形の大小様々な土坑及びピット群により構成される。

堅穴状遺構（堅穴建物址と報告される場合もある）は、佐久市内では大井城跡、前田遺跡、金井城跡、池端遺跡、池端城跡、前藤部遺跡、観音堂遺跡、柳堂遺跡、番屋前遺跡、梨の木遺跡などで確認されている。堅穴状遺構の多くは、何らかの上屋構造を持つ建物址と考えられ、中世全般に認められるが、その形態は実に多様である。平面形は方形を基本とするが、長方形のもの、楕円形のもの、張出し部を有するものも認められる。堅穴内外に柱穴を伴うものと、柱穴がないものがあるが、柱穴を伴う場合でも堅穴外周に配されるもの、堅穴内の壁に沿って配されるもの、堅穴内外に縦柱状に規則的に配されるものなどがある。堅穴の掘込みは明確な壁を有する逆台形のものからわずかに窪む程度のものまであり、それぞれ硬化した床面が認められるものと認められないものがある。本調査区で検出された5基についても、平面形や床面・柱穴の有無に違いがみられるが、Ta3・4・5号堅穴状遺構は同一の形態と考えられる。硬質な床面は認められないが、方形の堅穴内に縦柱状に柱穴が並び、灰の堆積が認められた。また埋土は人為的に埋め戻された状況であった。形態的に類似する遺構は、前藤部遺跡2基(Ta67・73号堅穴状遺構)、金井城跡で4基(第45・208・381・476号堅穴建物址)確認されているが、灰層は認められない。市外の類例では、駒ヶ根市遊光遺跡の第9号住居址が挙げられる。中世の焼失住居であり、敷板材や天井材などが良好な状態で検出されたことで、建物周囲に板壁を廻らせ、屋根に土をかぶせた陸屋根型式の堅穴住居址が復元されている。本遺跡Ta3・4・5号堅穴状遺構についても、堅穴の形状や柱穴の配置から同様の建物形態を想定することも可能である。Ta3号堅穴状遺構とD95号土坑のような地下で繋がる形態は、佐久市では始めての発見であり、その機能は不明である。地下室と考えるには接続部分が狭小であるが、溝が集約し、北側に傾斜していることに注目すれば、排水機能が想定できるだろうか。

多様な土坑群についても、佐久市内の他遺跡と同様の状況といえる。小型の建物址である可能性も考えられるが、堅化面が認められるものではなく、ほとんどが人為的に埋め戻された状況であった。主軸方向には一定の規則性が伺え、堅穴状遺構同様にはほぼ東西・南北軸となる。

中世遺構の帰属時期については、堅穴状遺構及び土坑から出土した陶磁器の年代から、13世紀を上限とし、内耳土器や石臼などの遺物が出土しないことから、これらの遺物が定着する以前、14世紀代には廃絶したものと考えたい。佐久平浅間小学校建設に伴い発掘調査が行われた大豆田遺跡Ⅳにおいては、13世紀～14世紀の所産と考えられる東西・南北方向に伸びる区画溝や井戸址が検出されている。中部横断自動車道建設に伴う西近津遺跡群の発掘調査においても、12世紀以降に構築された、東西・南北軸の区画溝などが確認されており、このころ周辺一帯で大規模な開発が行われたことがわかつてきている。本遺跡についても中世前半の大規模開発の中で形成されたものと考えられるが、遺構・遺物からは、館あるいは町屋的な要素は読み取れず、一般的な集落跡と位置づけられるだろう。

1 駒ヶ根市教育委員会 1990 『反目・遊光・殿村・小林遺跡』



調査区南西端部完掘状況



調査区西端部完掘状況



調査区北西端部完掘状況



調査区北側中央完掘状況



調査区北側 H3・H4 付近完掘状況



調査区北東端部完掘状況



調査区東端部完掘状況



調査区中央東側完掘状況



調査区中央西側完掘状況



調査区西侧完掘状況



H1・H2 完掘状況



H1・H2 堀方完掘状況



H3・H4 完掘状況



H3・H4 堀方完掘状況



H8 完掘状況



H8 カマド完掘状況



H8 堀方完掘状況



H9 堀方完掘状況



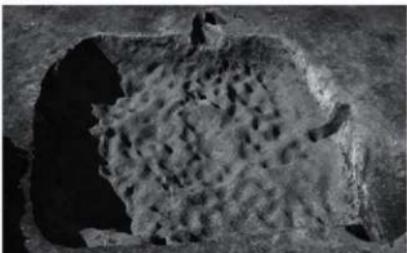
H11 堀方完掘状況



H10 完掘状况



H10 カマド完掘状况



H10 堀方完掘状况



H12 完掘状况



H12 堀方完掘状况



H13 完掘状况



H13 堀方完掘状况



H14 完掘状况



H14 堀方完掘状况



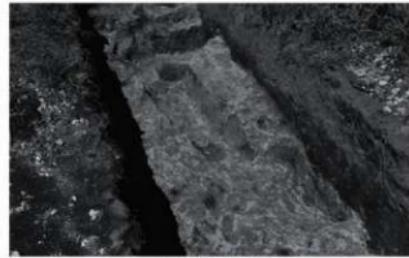
H15 完掘状况



H16 · H17 完掘状况



H17 堀方完掘状况



H18 完掘状况



Ta1 完掘状况



Ta2 完掘状况



Ta2 遗物出土状况



Ta5 灰检出状况



Ta5 完掘状况



Ta3・Ta4 完掘状况



Ta3 灰检出状况



Ta3・D95 完掘状况



Ta3・D95 地下部分



D95 土層断面



F1 完掘状況



F2 完掘状況



F3 完掘状况



F5 完掘状况



F1-P3 土层断面



F2-P8 土层断面



F3-P6 土层断面



M1 完掘状况



M3 完掘状况



D1 完掘状况



D3 完掘状况



D5 完掘状况



D6 完掘状况



D7 完掘状况



D8 完掘状况



D9 完掘状况



D10 完掘状况



D11 完掘状况



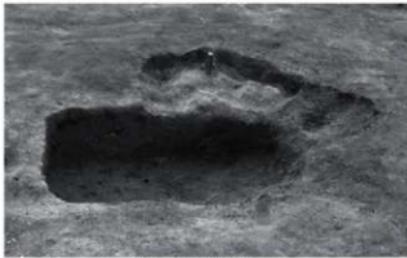
D13 完掘状况



D15 完掘状况



D17 完掘状况



D18 · D19 完掘状况



D10 ~ D19 附近完掘状况



D20 ~ D21 完掘状況



D22 ~ D23 土層断面



D24 ~ D25 完掘状況



D24 ~ D26 土層断面



D27 完掘状況



D28 ~ D34 完掘状況



D28 ~ D29 付近完掘状況



D31 完掘状況



D30 灰层出土状况



D30 完掘状况



D33 土层断面



D36 完掘断面



D37 完掘断面



D64 · D65 完掘断面



D66 完掘断面



D24 ~ D66 附近完掘状况



D45 完掘状况



D32 · D50 · D51 完掘断面



D38 完掘断面



D41 完掘断面



D42 土层断面



D52 土層斷面



D53 完掘狀況



D55 完掘狀況



D56 完掘狀況



D57 · D58 完掘狀況、D59 土層斷面



D60 完掘狀況



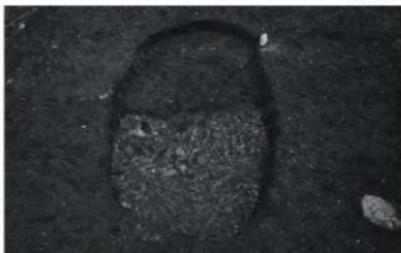
D69 完掘狀況



D70 完掘狀況



D71 遺物出土狀況



D71 完掘狀況



D72 土層斷面



D73 完掘狀況



D74 土層斷面



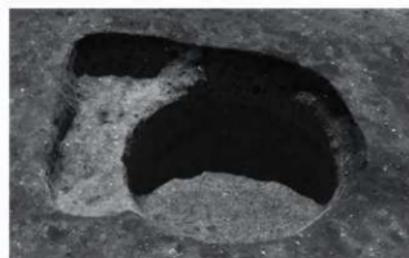
D75 完掘状况



D76 · D77 完掘状况



D78 · D79 土层断面



D78 · D79 完掘状况



D80 · D81 · D82 完掘状况



D83 · D84 土层断面



D83 · D84 完掘状况



D85 完掘状况



D86 完掘状况



D87 完掘状况



D88 完掘状况



D89 完掘状况



D90 完掘状况



D91 完掘状况

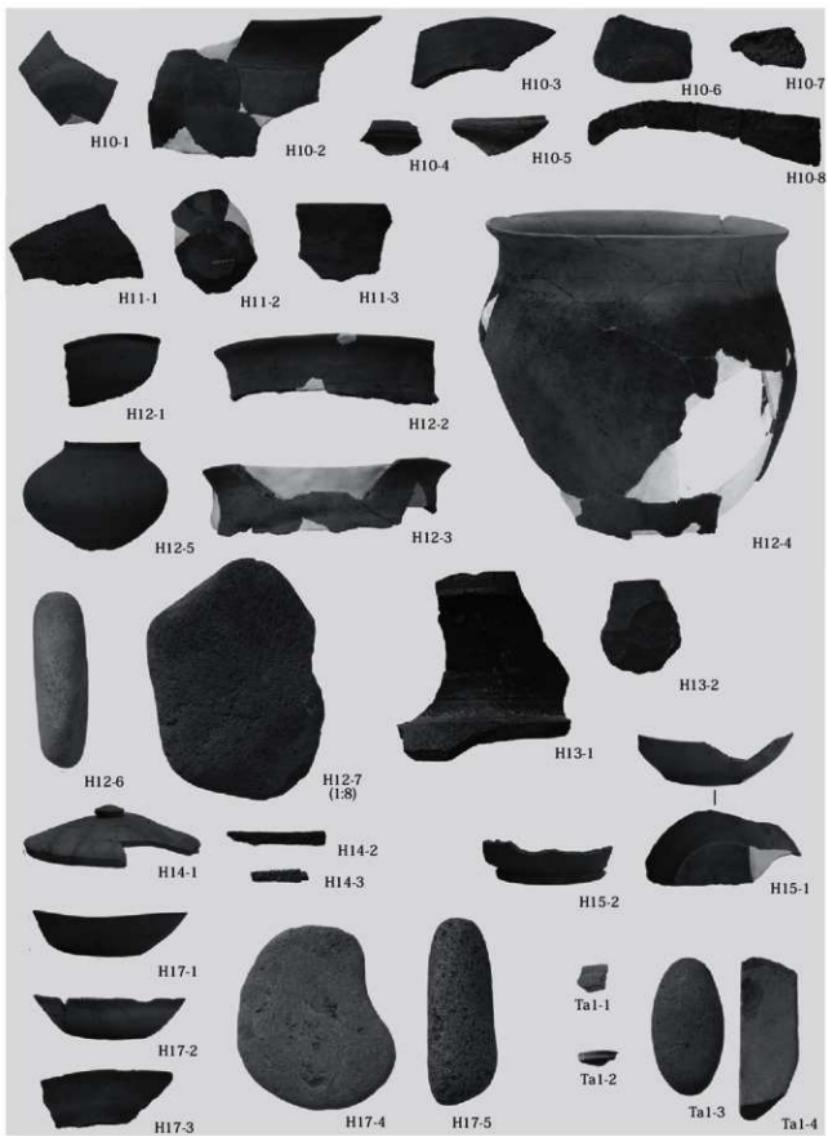


D90 • D91 • D92 完掘状况



D97 完掘状况







報告書抄録

ふりがな	すぼうばたいせきぐん どうじょういせきさん							
書名	周防畠遺跡群 道常遺跡III							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第257集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	平成30年(2018) 11月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査積 (m ³)	調査原因	
すぼうばたいせきぐん どうじょういせきさん 周防畠遺跡群 道常遺跡III	さくしながとろ 佐久市長土呂 1248-1外	20217	7	36° 17' 00"	138° 27' 35"	20170721 ~ 20171020	1,352	高齢者 向け住 宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
周防畠遺跡群 道常遺跡III	集落址	奈良・平安時代 中世	堅穴住居址 堅穴状遺構 掘立柱建物址 溝址 土坑 ツト	15軒 5基 6軒 4条 98基 451基	弥生土器、土師器、須恵器、 灰釉陶器、古瀬戸、青磁、 石器、石製品、鐵製品、銅錢、 瓦			
要約	佐久市北部の田切り台地上、標高700m内外に展開する奈良・平安時代～中世の集落址である。8～9世紀を主体とする堅穴住居址、13～14世紀と考えられる中世の堅穴状遺構等が検出された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第257集

周防畠遺跡群 道常遺跡III

平成30年(2018) 11月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込 2913

Tel:0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限会社